塩竈市立地適正化計画策定に向けたまちづくりアンケート調査結果（概要版）

Ⅰ　アンケート実施要領

アンケートの実施要領は以下の通りです。

▼ アンケートの実施要領

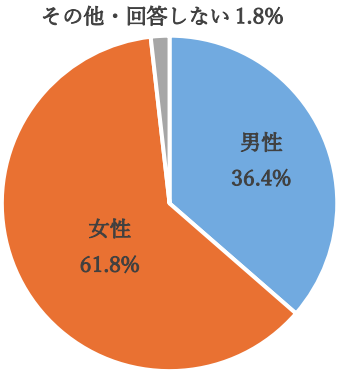
名　　称	塩竈市まちづくりアンケート
対　　象	塩竈市民
調 査 方 法	LOGO フォームによる回答フォームの周知 Web 回答
回 答 期 間	令和 7 年 10 月 1 日～令和 7 年 10 月 31 日
有効回答数	1,310 件（2025/10/31 時点）

2　住民向けアンケート

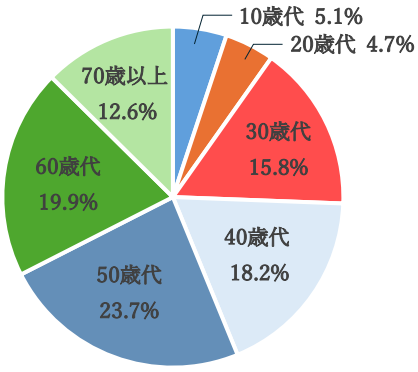
1） 回答者属性

N＝1,310

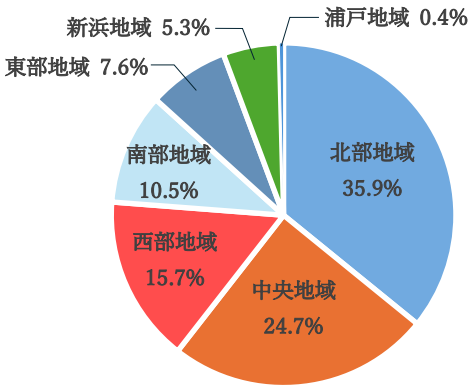
● 性別



● 年齢



● お住まいの地域

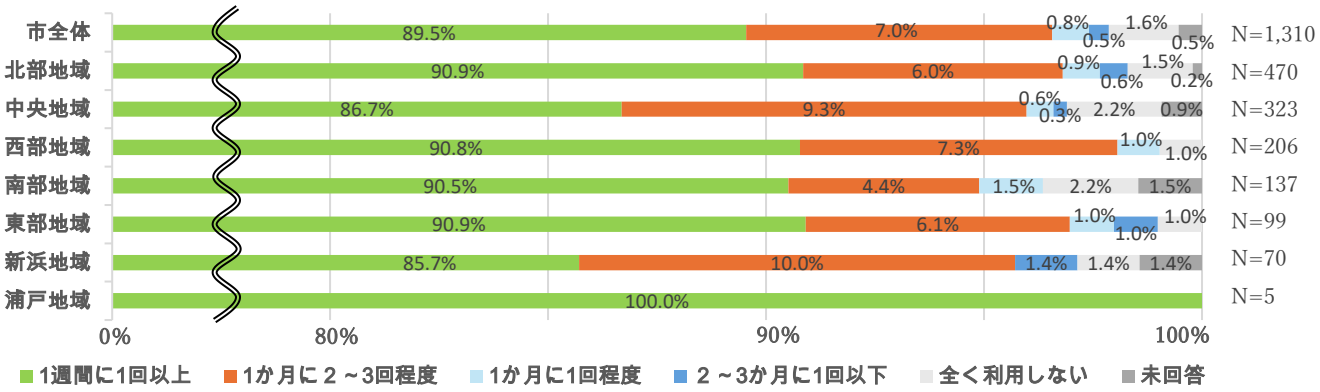


回答者は女性が多く、61.8%を占めています。年齢別でみると 20 歳代が最も少ない 4.7%となっており、30 歳代以降は、おおむねバランスの取れた結果となっています。お住まいの地域別では北部地域が最も多い 35.9%、次いで中央地域が 24.7%となっています。

2）施設の利用状況や移動方法について

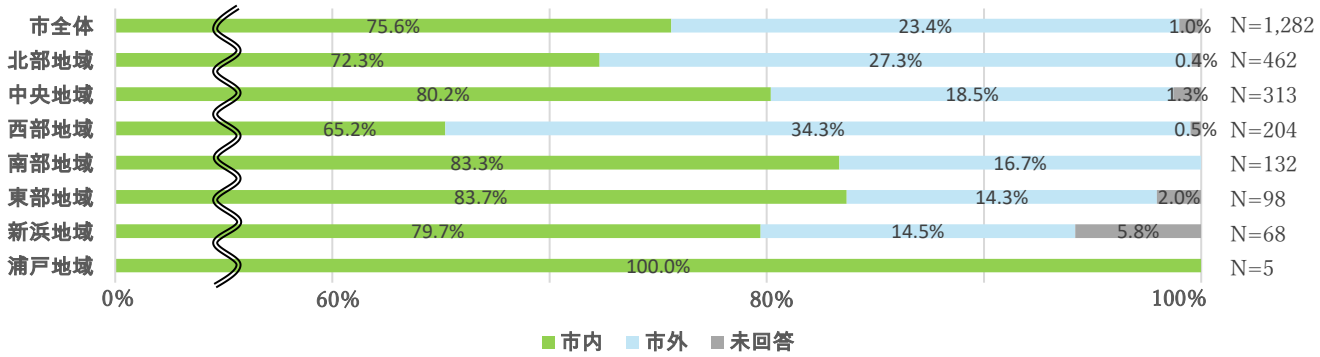
2-1）食料品店舗（スーパー等）

A）利用頻度について



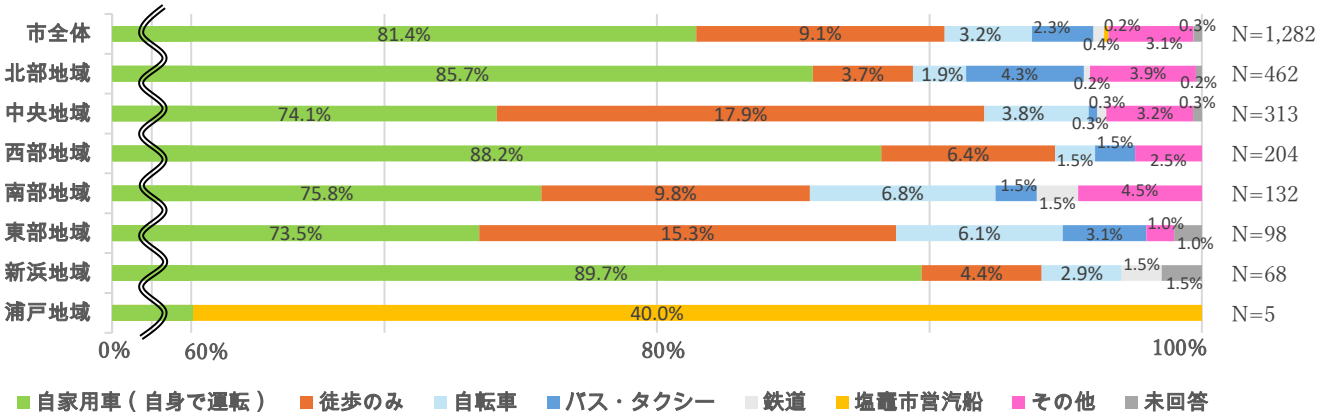
全ての地域において約 9 割が「1 週間に 1 回以上」食料品店舗を利用しています。中央地域、新浜地域では利用頻度が相対的に低くなっており、代わりに日用品店舗（ドラッグストア等）の利用頻度（2-2-A）が高くなっています。

B）利用場所について



西部地域の 34.3%が「市外」の食料品店舗を利用しており、他地域と比較すると高い割合を示しています。これは、隣接自治体に食料品店舗が位置していることが影響していると考えられます。

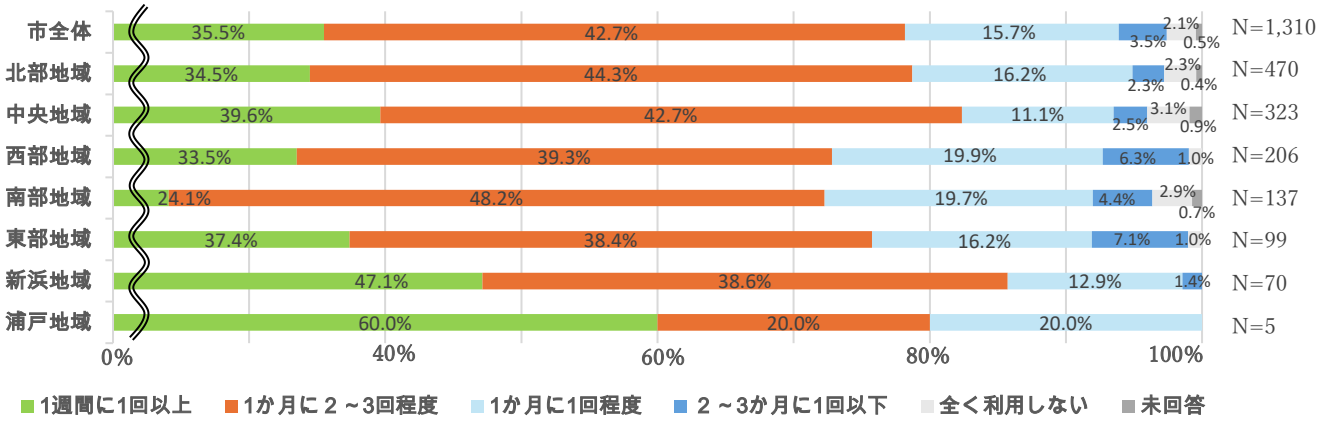
C）利用施設までの移動方法について



地域によって「徒歩のみ」で食料品店舗へ向かっている方の割合が大きく異なる結果となっており、北部地域、新浜地域では 5%を下回っている一方で、中央地域、東部地域では 15%以上が徒歩で移動しています。また、南部地域、東部地域では「自転車」での移動も 6.8%、6.1%と高くなっています。

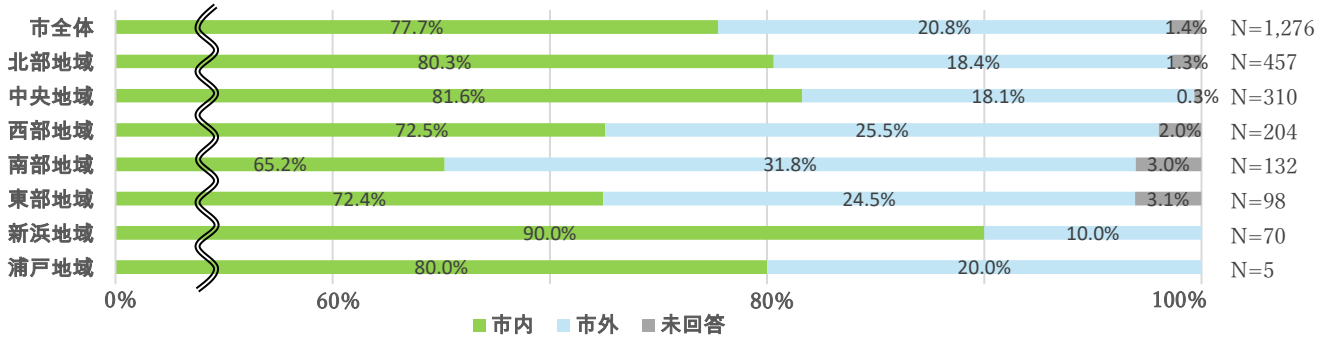
2-2）日用品店舗（ドラックストア等）

A）利用頻度について



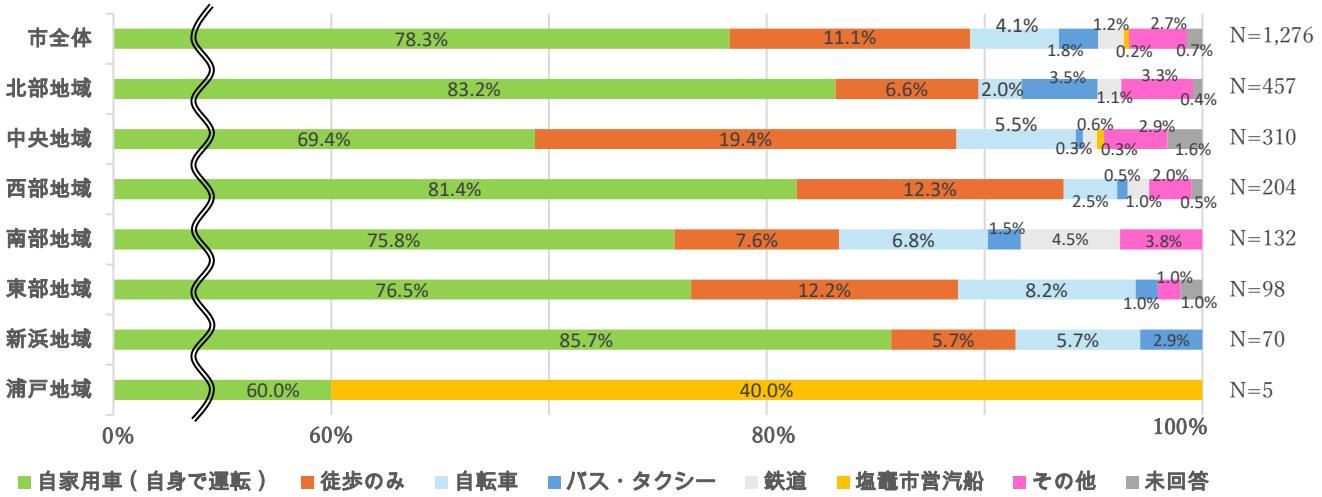
南部地域において「1 週間に 1 回以上」利用する人の割合が他地域より低い 24.1%となっています。これは、本市内で唯一ドラッグストアがない地域であることが大きく影響していると考えられます。

B）利用場所について



南部地域の 3 割以上が「市外」の日用品店舗（ドラッグストア等）を利用しています。地域内にドラッグストアの店舗がないため、隣接する地域のドラッグストアを利用していると考えられます。

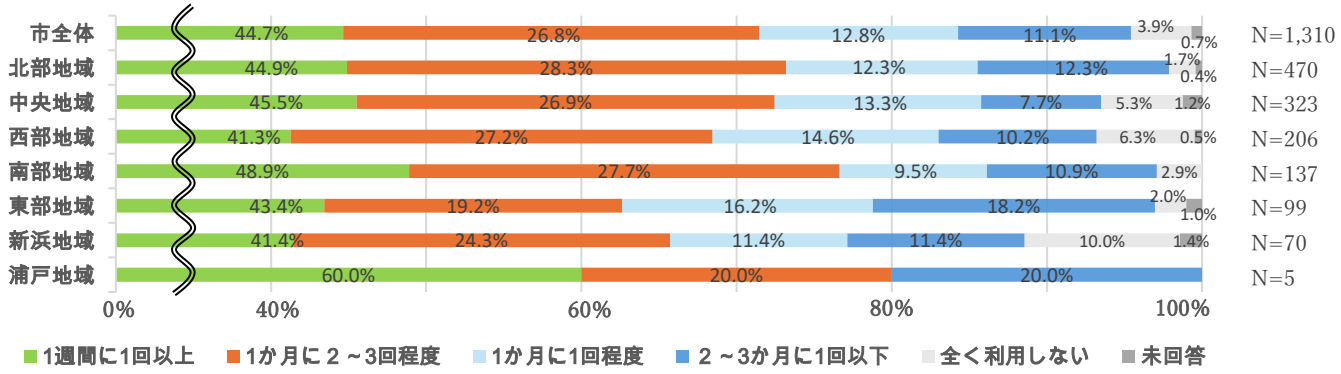
C）利用施設までの移動方法について



全ての地域で「自家用車」の割合が最も高くなっています。中央地域において「徒歩のみ」で日用品店舗（ドラッグストア等）へ向かっている方が 19.4%と、他地域より高い割合を示しています。南部地域では「鉄道」の割合が高くなっているが、地域内にドラッグストアの店舗がないことが要因であると考えられます。

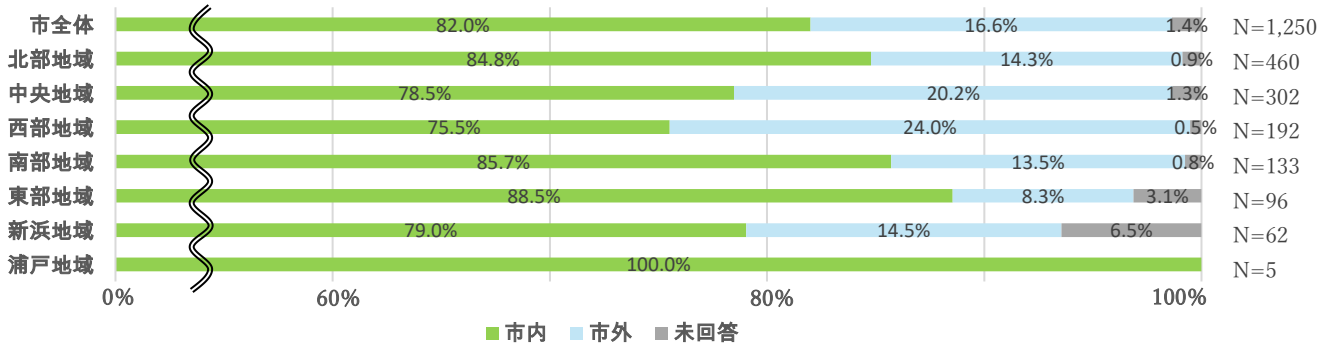
2-3) コンビニエンスストア

A) 利用頻度について



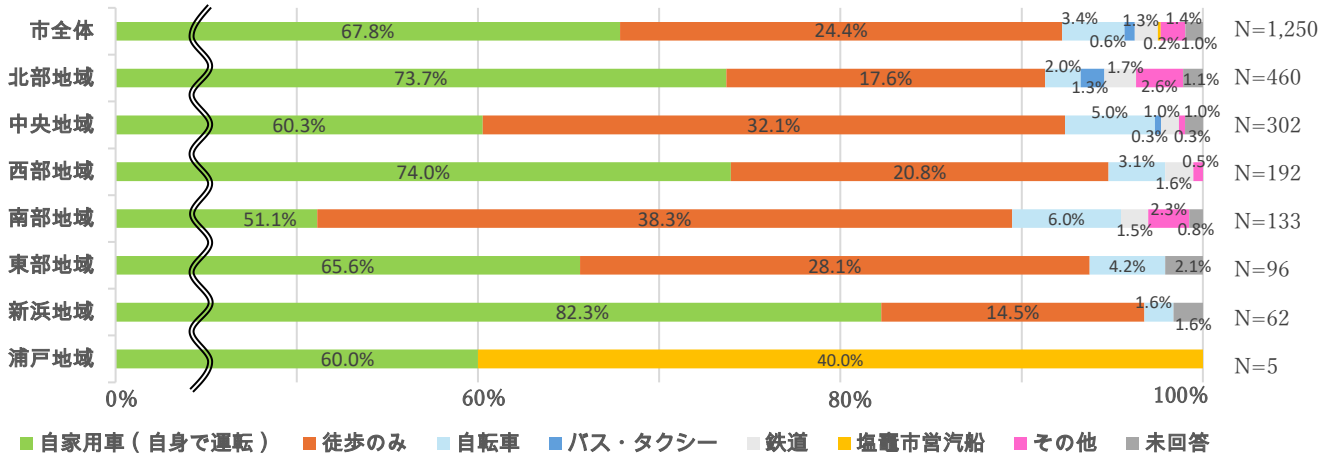
東部地域、新浜地域において、コンビニエンスストアを月に複数回利用する人の割合が他地域と比較して低くなっており、東部地域ではコンビニエンスストアが 1 店舗しかないこと、新浜地域では日用品店舗（ドラッグストア等）の利用頻度（2-2-A）が全地域で最も高いことが影響していると考えられます。

B) 利用場所について



全ての地域において約 8 割以上が「市内」のコンビニエンスストアを利用しています。「市外」の割合が最も高いのが西部地域であり、多賀城市、利府町と隣接していることが影響していると考えられます。

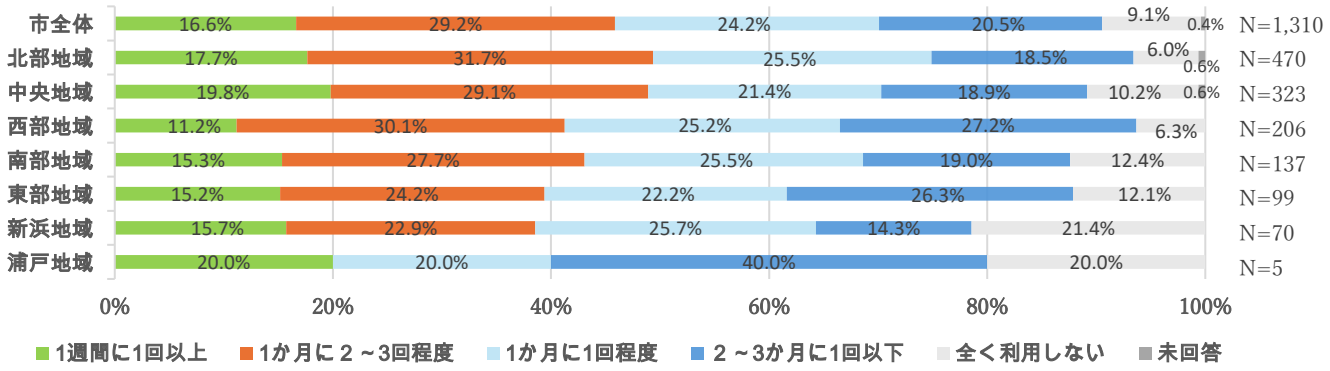
C) 利用施設までの移動方法について



全ての地域において半数以上が「自家用車」でコンビニエンスストアへ移動しています。南部地域では 38.3%が「徒歩のみ」で移動しており、地域内に 4 つの店舗が位置していることが影響していると考えられます。

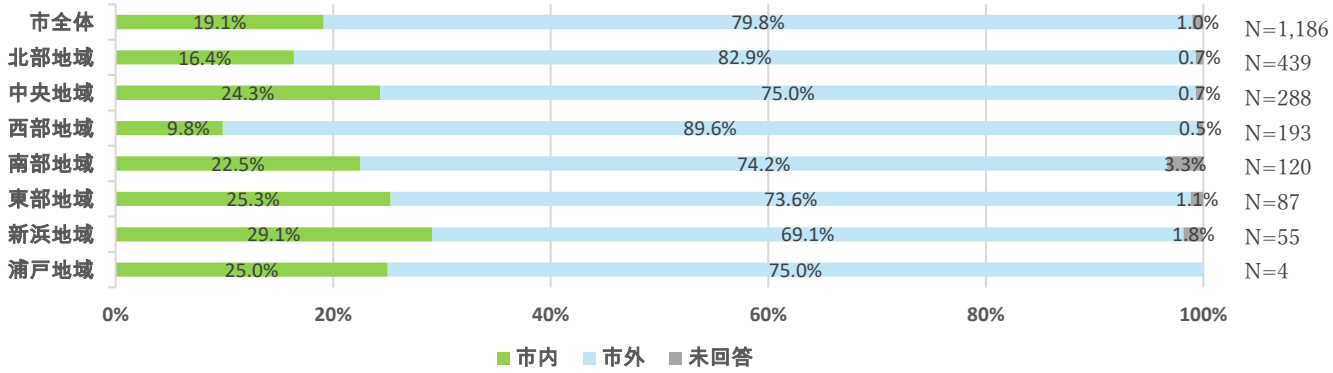
2-4）ショッピングセンター･デパート（百貨店）

A）利用頻度について



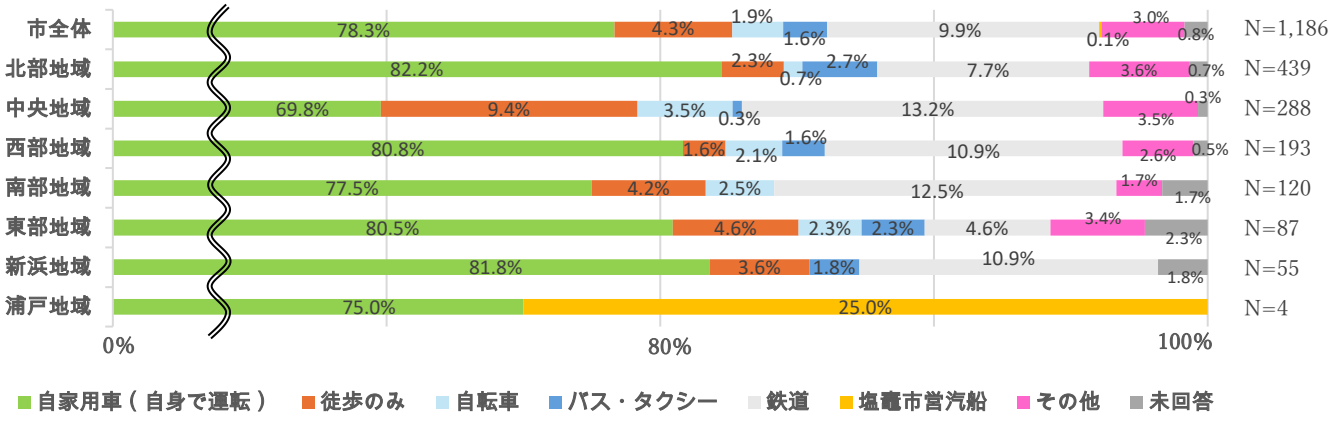
市全体では約 7 割が月に 1 回以上、ショッピングセンター・デパート（百貨店）を利用すると回答しています。新浜地域では「全く利用しない」が 21.4%と高い割合を占めています。

B）利用場所について



全ての地域において、約 7 割以上が「市外」のショッピングセンター・デパート（百貨店）を利用しており、西部地域においては 89.6%が「市外」と回答しています。これは、隣接している利府町にショッピングセンターが位置していることが影響していると考えられます。

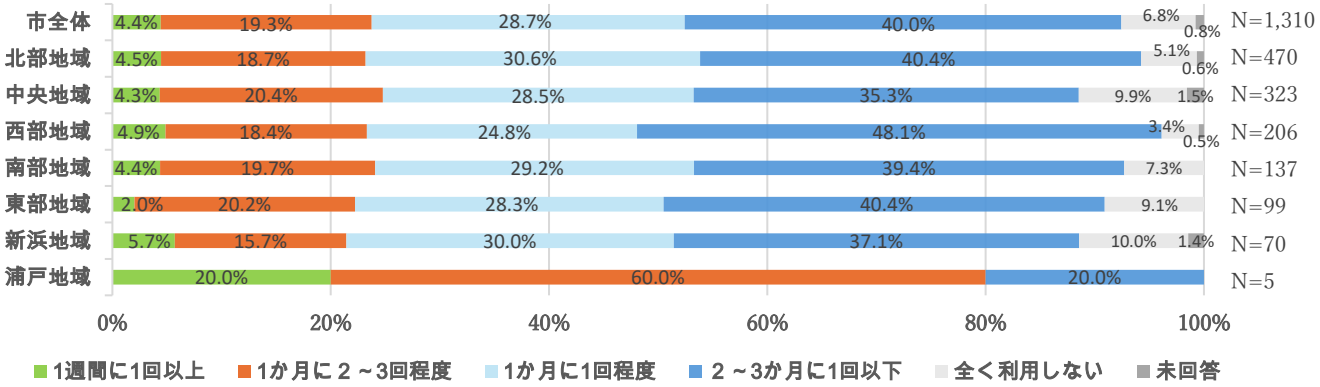
C）利用施設までの移動方法について



全ての地域において「自家用車」でショッピングセンター・デパート（百貨店）を利用している方の割合が最も高くなっています。また、他の施設と比較しても「鉄道」を利用する人の割合が高くなっており、その多くが仙台市方面に向かっていると考えられます。

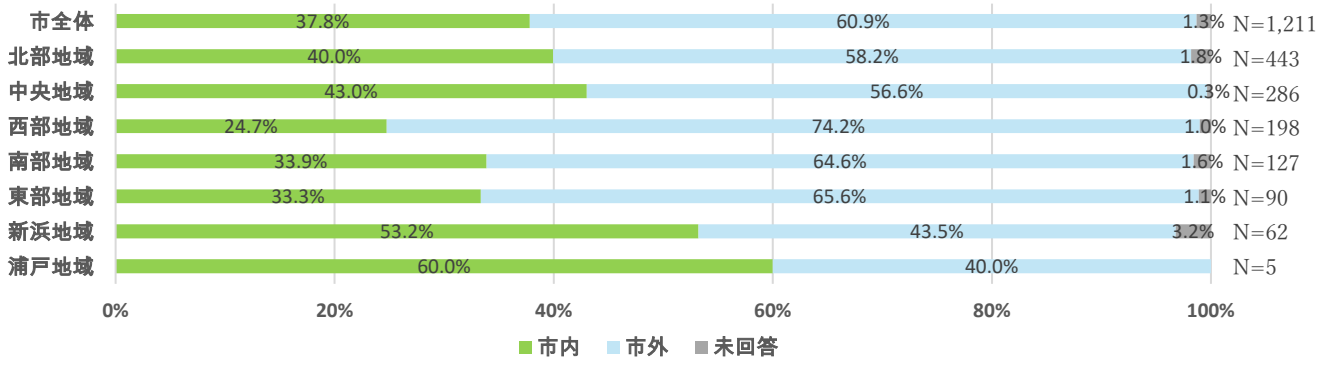
2-5）電気製品･家具や趣味の専門店（ホームセンター等）

A）利用頻度について



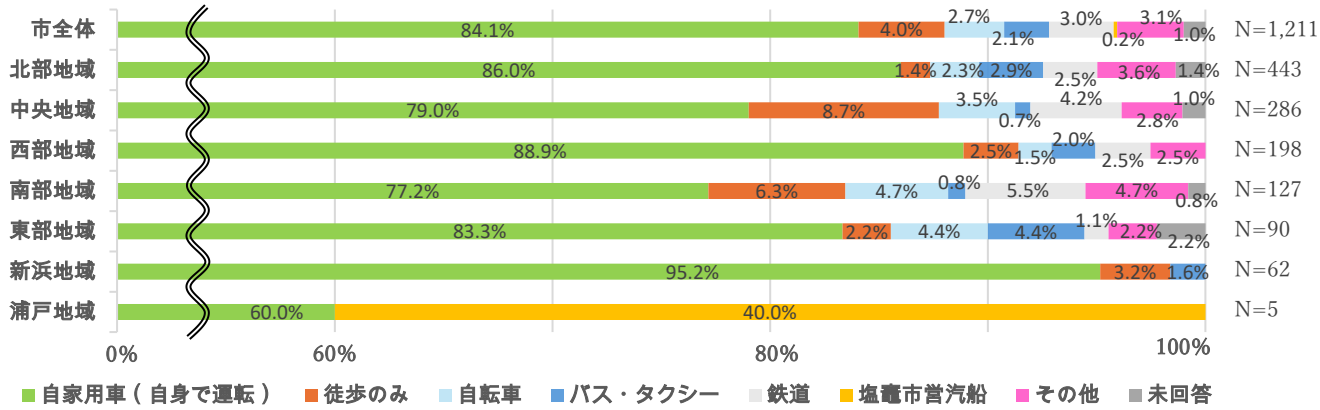
東部地域において「1 週間に 1 回以上」利用すると回答した人の割合が 2.0%と他地域の半分以下の割合を示しています。浦戸地域を除くと目立った傾向はなく、どの地域も同様の傾向となっています。

B）利用場所について



ほぼ全ての地域において半数以上が「市外」の電気製品・家具や趣味の専門店（ホームセンター等）を利用しており、西部地域においては 74.2%が「市外」と回答しています。これは、隣接する利府町に電気製品・家具や趣味の専門店が充実していることが要因として考えられます。

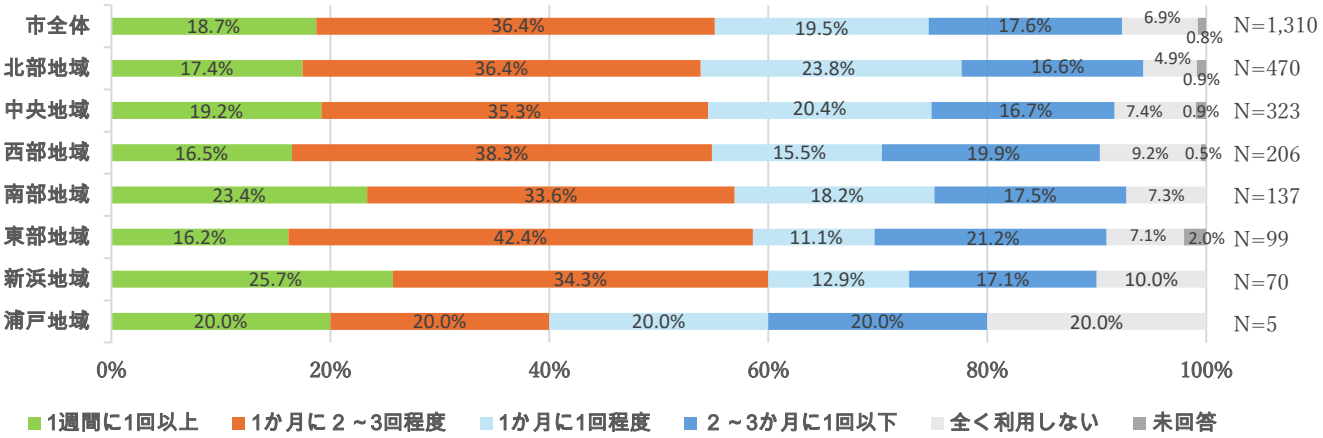
C）利用施設までの移動方法について



ほぼ全ての地域において約 8 割が「自家用車」で電気製品・家具や趣味の専門店（ホームセンター等）を利用しており、新浜地域には、2 軒の電気製品・家具や趣味の専門店が位置しているが、95.2%が「自家用車」で移動すると回答しています。

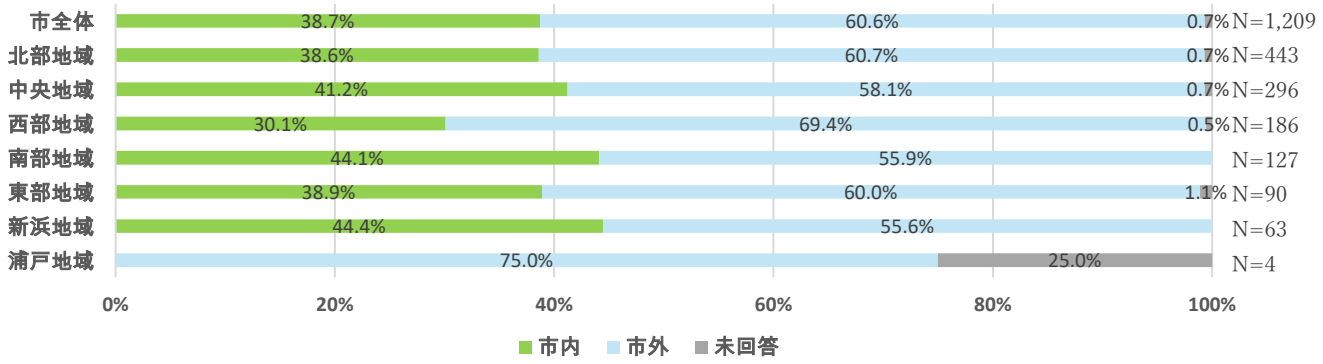
2-6）飲食店

A）利用頻度について



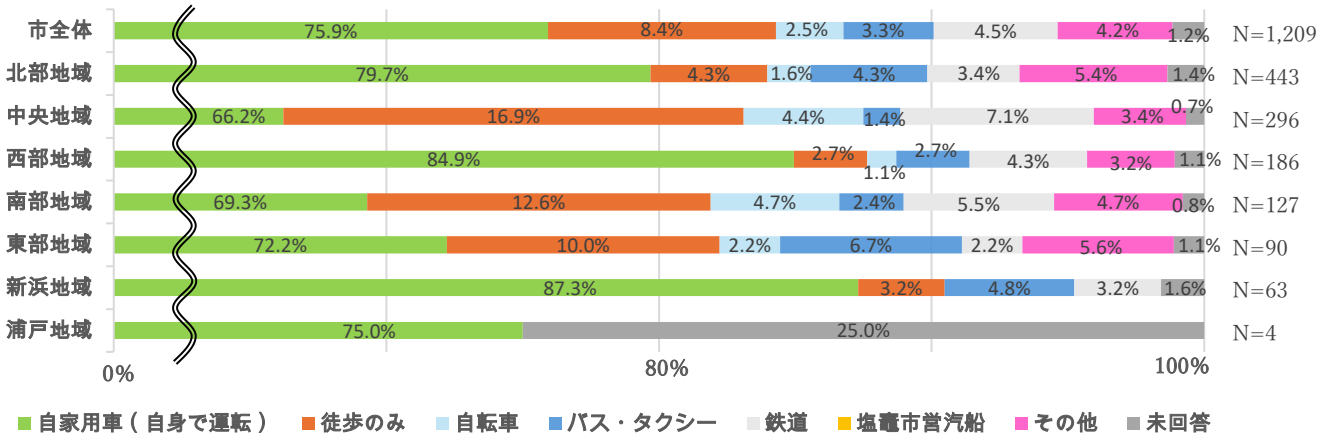
浦戸地域除く全ての地域において半数以上の方が月に複数回、飲食店を利用すると回答しています。

B）利用場所について



ほぼすべての地域において約６割が「市外」の飲食店を利用しており、西部地域においては 69.4%が「市外」と回答しています。これは、多賀城市や利府町と隣接していることが要因であると考えられます。

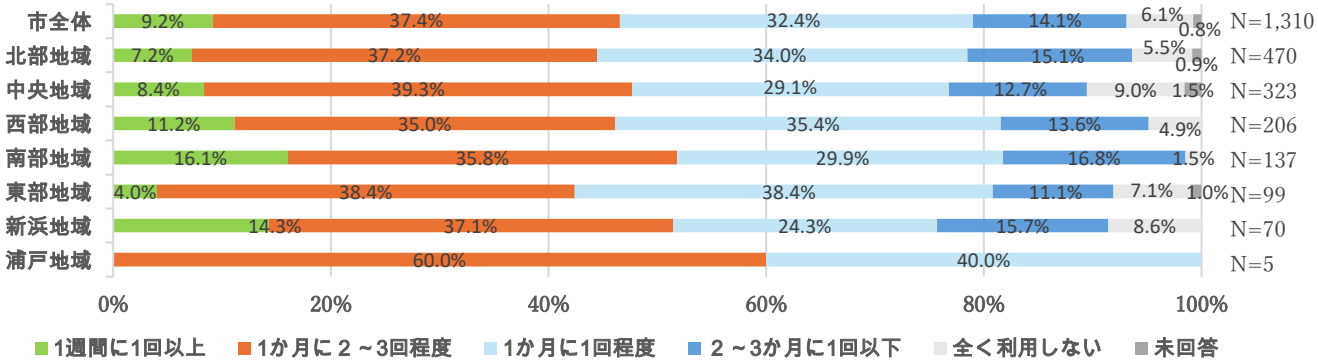
C）利用施設までの移動方法について



中央地域では 16.9%が「徒歩のみ」と回答した一方で、西部地域、新浜地域では 2.7%、3.2%にとどまるなど、地域によって大きく差が出る結果となりました。市外での利用が多い西部地域では、新浜地域の 87.3%に次ぐ、84.9%が「自家用車」で移動すると回答しています。

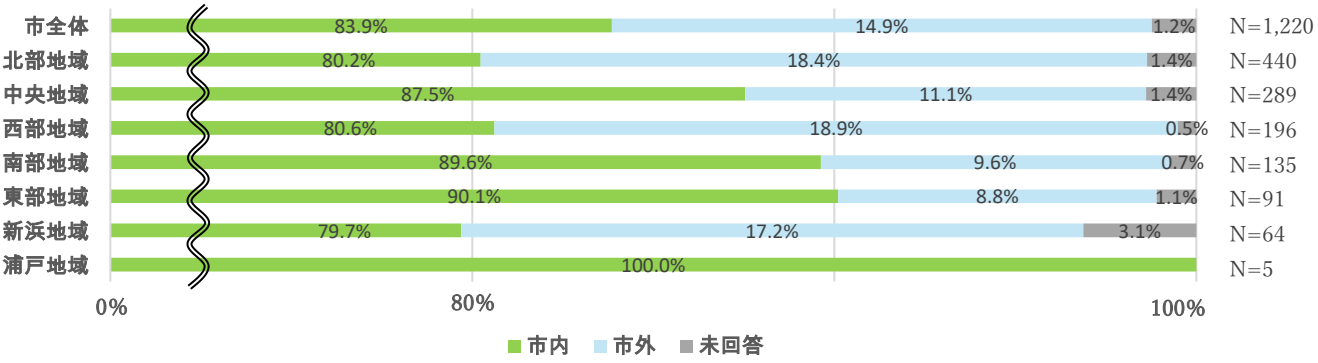
2-7) 銀行･郵便局等

A）利用頻度について



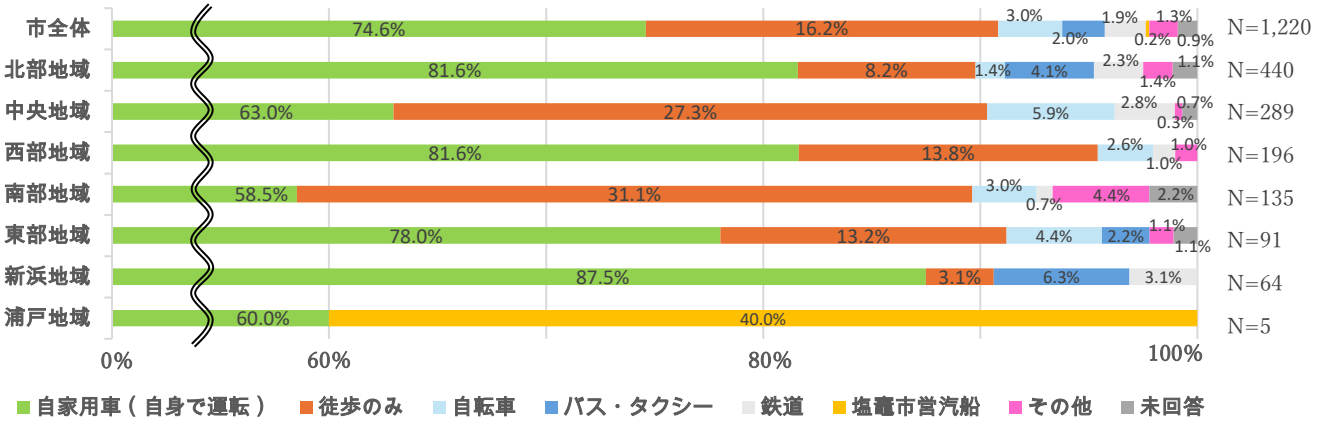
全ての地域において 6 割以上が「1 か月に 1 回程度」「1 か月に 2～3 回程度」と回答しています。東部地域では、銀行及び郵便局がない影響からか「1 週間に 1 回以上」が 4.0%にとどまりました。

B）利用場所について



全ての地域において約 8 割が「市内」の銀行・郵便局等を利用しており、「市内」での需要が高いことがうかがえます。銀行及び郵便局がない東部地域では 90.1%と高い割合を示しており、隣接する中央地域や南部地域の銀行・郵便局等を利用していると考えられます。

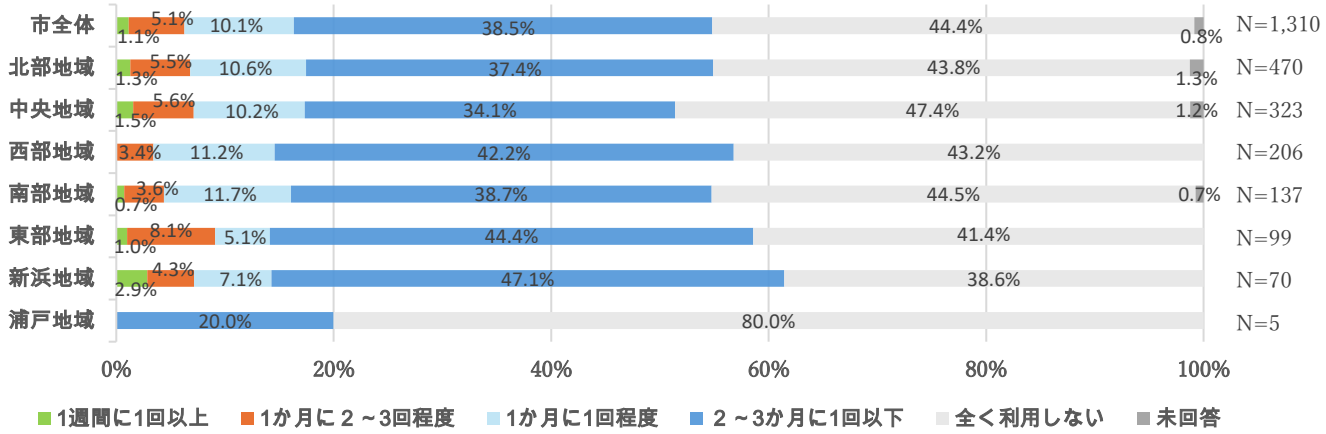
C）利用施設までの移動方法について



南部地域において「徒歩」で銀行・郵便局等を利用する方の割合は 31.1%と他地域と比較して高い割合を示しています。これは、地域内に 7 軒の銀行・郵便局等が適切な間隔で位置していることが影響していると考えられます。

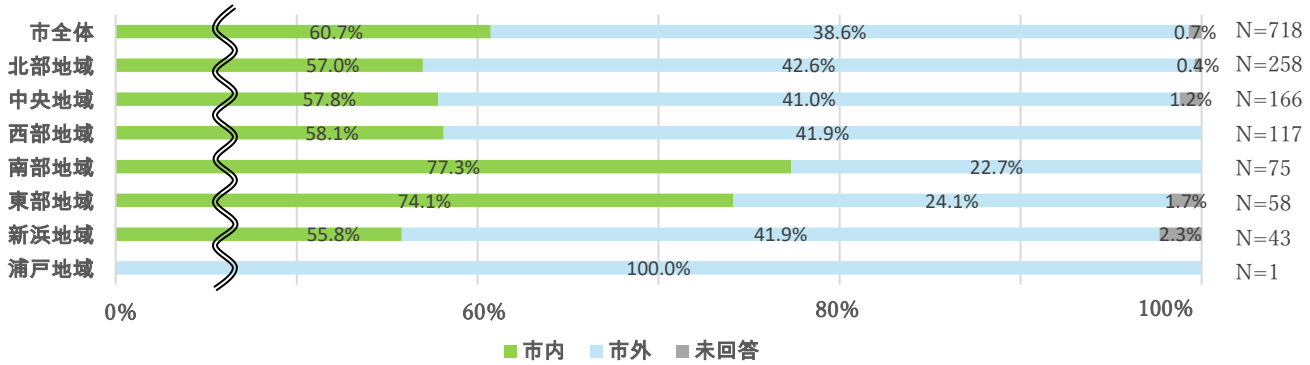
2-8）総合病院

A）利用頻度について



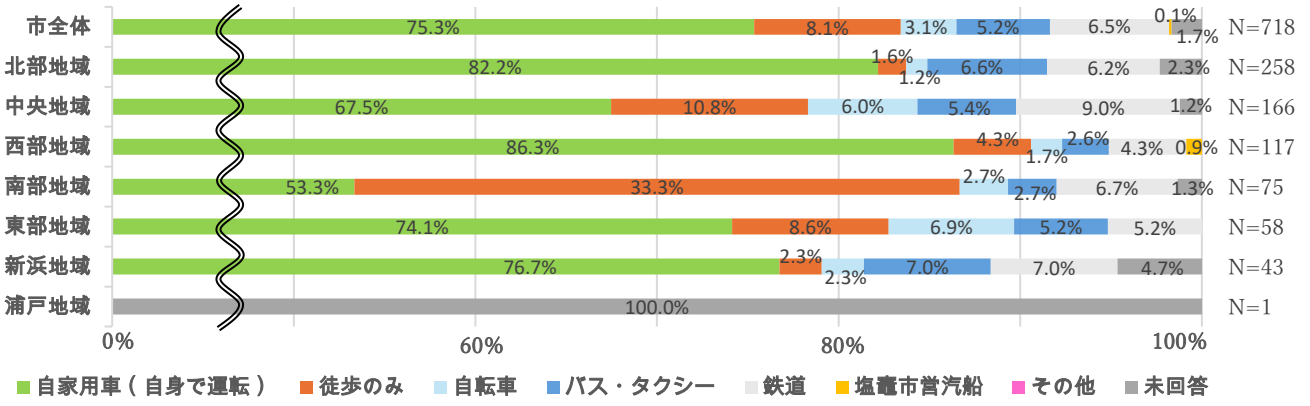
全ての地域において 7 割以上が「1 か月に 2～3 回程度」「全く利用しない」と回答しています。総合病院は市の南側に集中して位置していますが、施設の立地による傾向は確認できませんでした。

B）利用場所について



南部地域、東部地域では「市内」の総合病院を利用する方の割合が高くなっており、利用頻度では見られなかった立地による傾向であると考えられます。

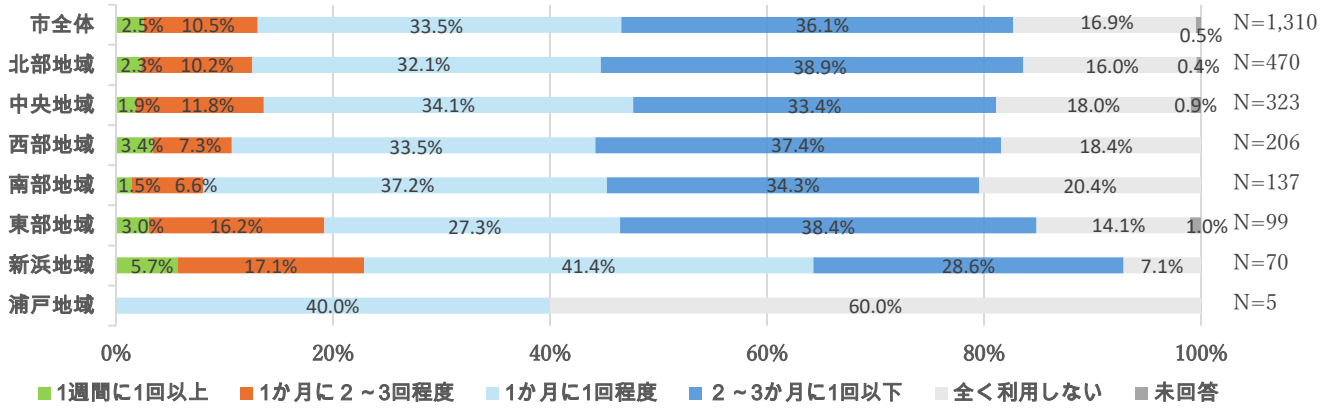
C）利用施設までの移動方法について



地域によって「自家用車」で移動する方の割合が大きく異なり、南部地域の 53.3%に対して、北部地域では 82.2%と約 30 ポイントも高くなっています。また、他の施設と比較しても「バス・タクシー」や「鉄道」で移動する方の割合が高い結果となっています。

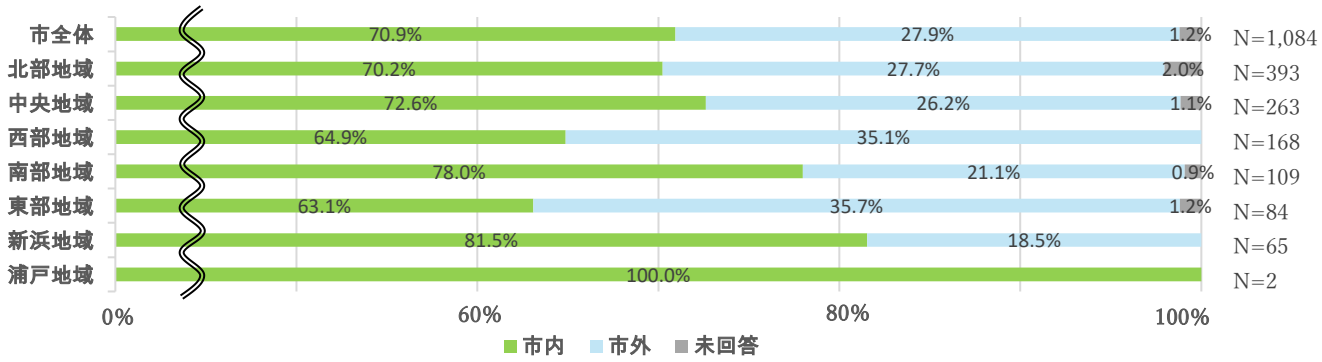
2-9）医院（クリニック）・診療所

A）利用頻度について



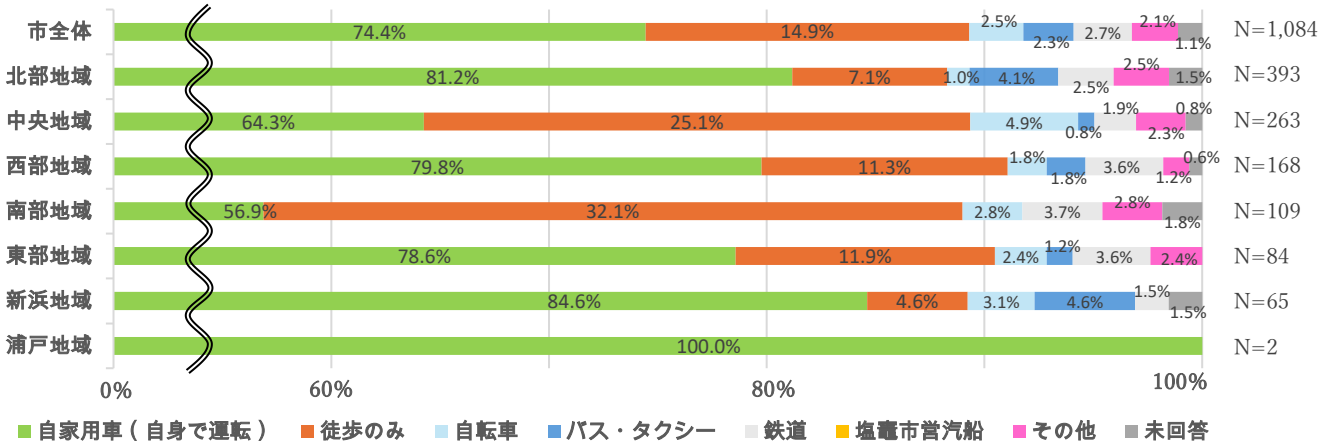
地域によって利用頻度が大きく異なり、新浜地域、東部地域では約 2 割が月に複数回利用しているのに対して、南部地域では 1 割にも満たない結果となっています。

B）利用場所について



西部地域、東部地域では「市外」の医院（クリニック）・診療所を利用する人の割合が高くなっています。西部地域は多賀城市、利府町と隣接していること、東部地域は地域内に医院（クリニック）・診療所が 1 施設のみであることが影響していると考えられます。

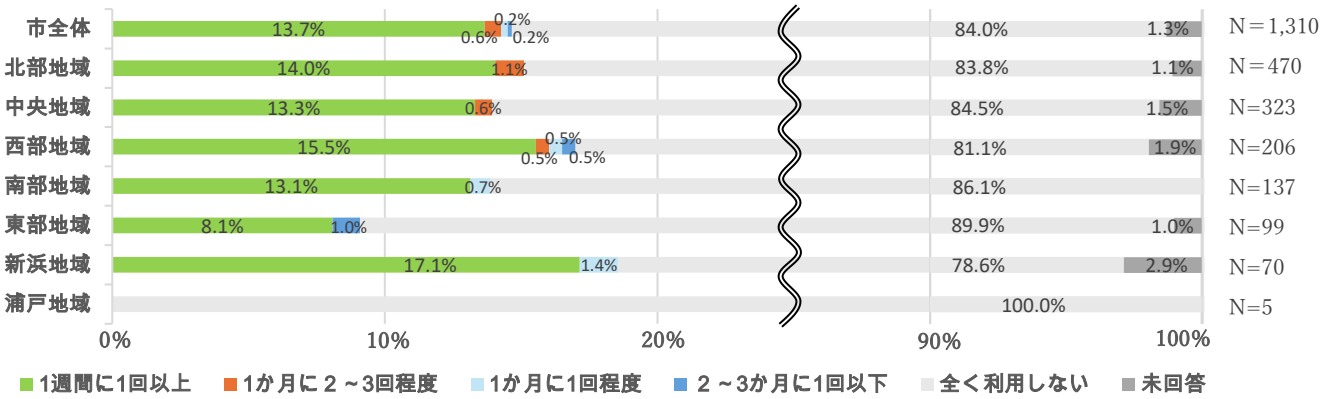
C）利用施設までの移動方法について



南部地域の 32.1%が「徒歩」で医院（クリニック）・診療所を利用しています。その一方で、新浜地域における「徒歩」での移動は 4.6%にとどまっており、これは地域内に医院（クリニック）が 1 施設のみであり、北部地域・中央地域との境に位置していることが大きな影響を与えていると考えられます。

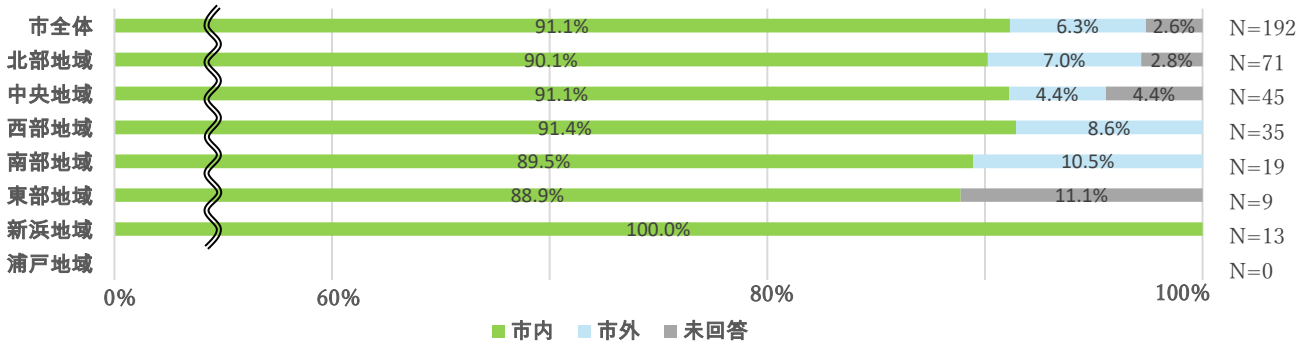
2-10) 幼稚園・保育園・認定こども園

A）利用頻度について



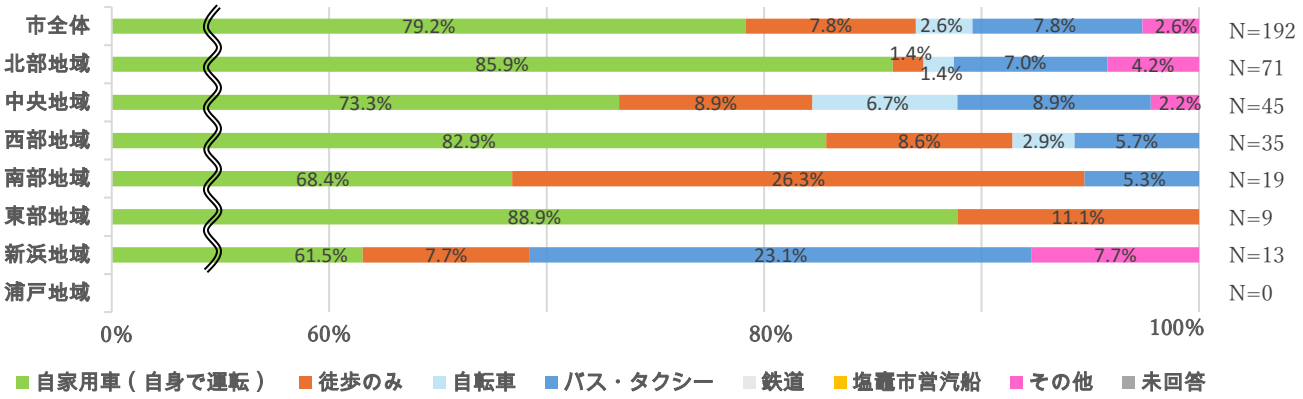
ほぼ全ての地域において約８割が「全く利用しない」と回答しています。回答者の属性に左右される施設であるため、利用される方のほとんどが「1 週間に 1 回以上」利用しており、最も多いのは、新浜地域の 17.1%となっています。

B）利用場所について



約９割が「市内」の幼稚園・保育園・認定こども園を利用しています。西部地域、東部地域の「市外」の利用が多くなっているのは、隣接する自治体との境界付近に幼稚園が位置していることが影響していると考えられます。

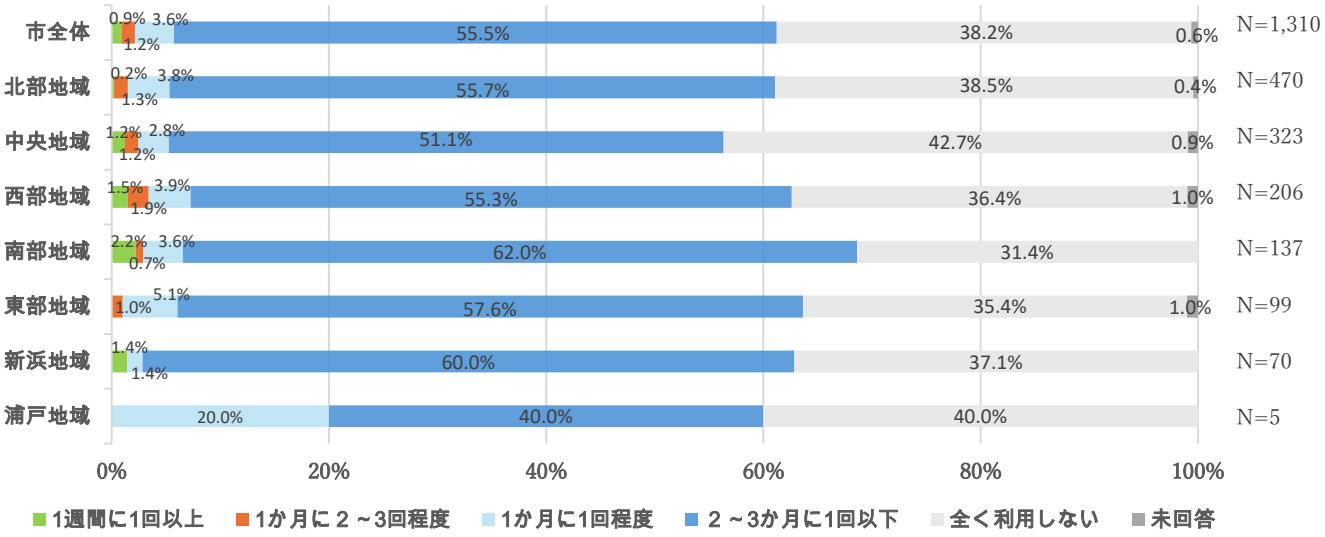
C）利用施設までの移動方法について



浦戸地域を除く全ての地域で「自家用車」で移動する方の割合が 6 割を超えています。南部地域では 5 つの幼稚園・保育園・認定こども園が居住地の近くに位置していることから「徒歩」での移動が 26.3%と高くなっています。また、新浜地域では「バス・タクシー」での移動が 23.1%と高くなっています。

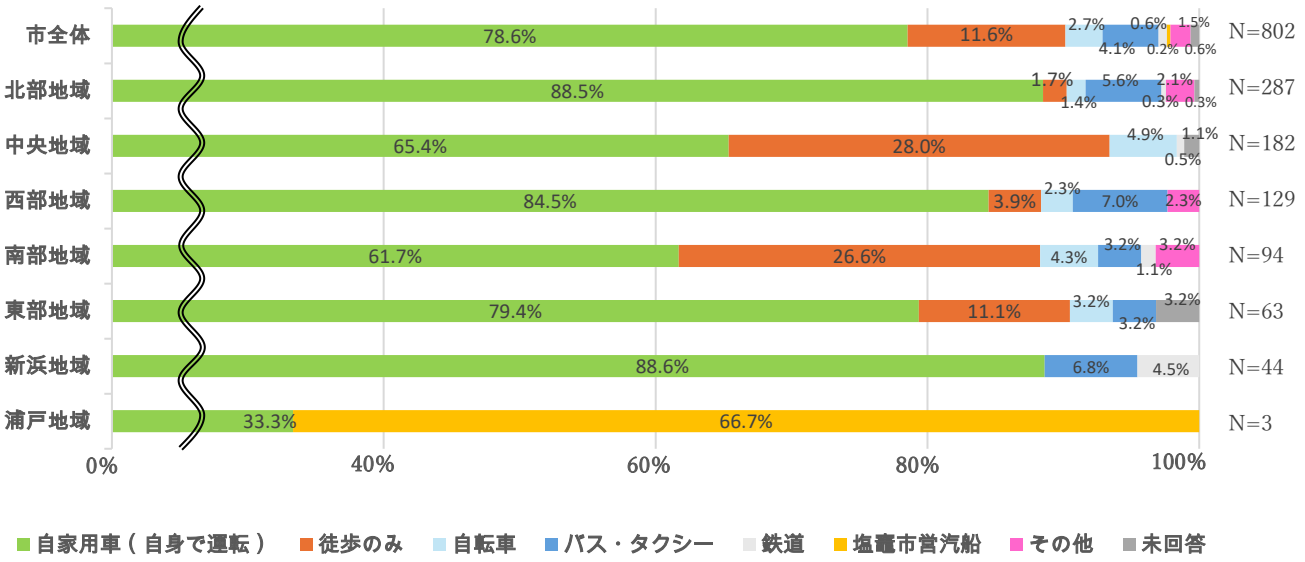
2-11）市役所

A）利用頻度について



浦戸地域を除く全ての地域において、半数以上が「２～3 か月に 1 回以下」と回答しています。

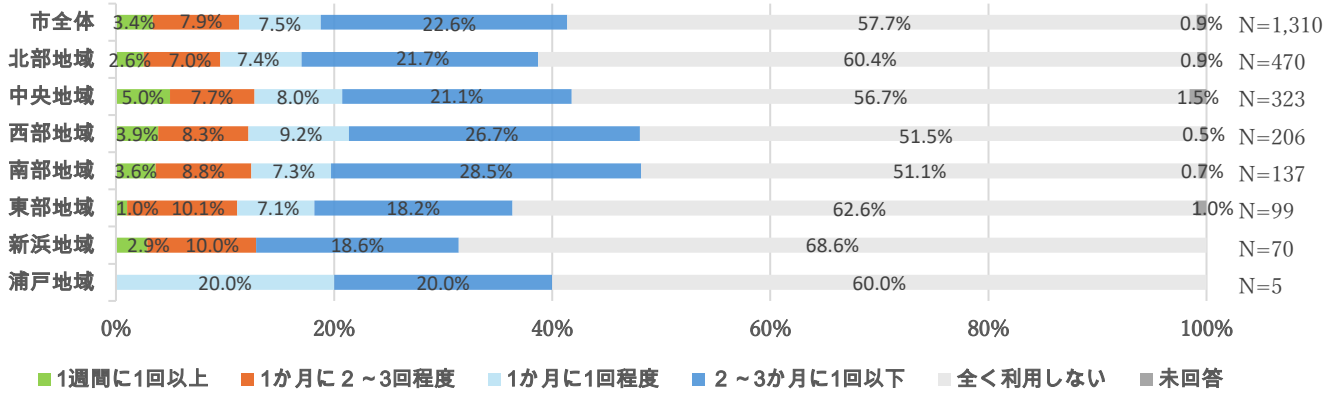
B）利用場所までの移動方法について



「自家用車」で市役所を利用している方の割合が最も高くなっています。市役所が南部地域と中央地域の境界付近に位置しているため、南部地域と中央地域における「徒歩」の割合がそれぞれ 26.6%、28.0%と高くなっています。

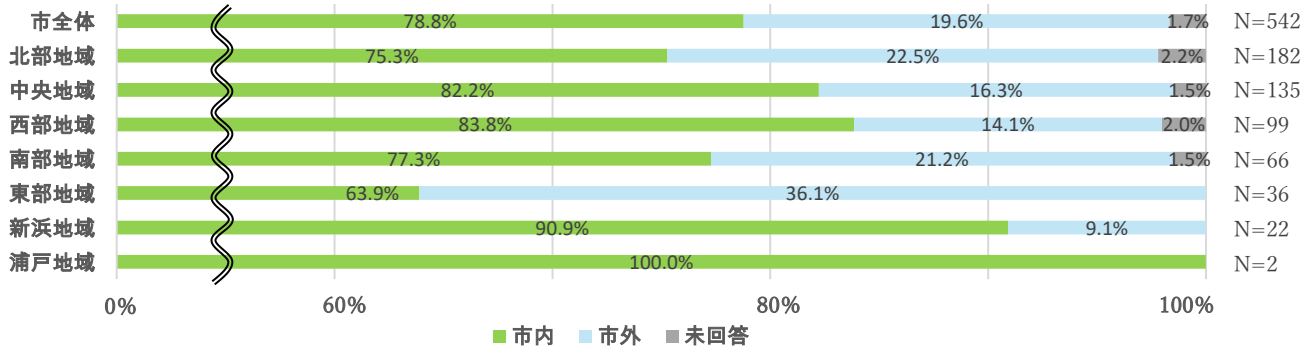
2-12) 公民館･図書館･文化ホール等の社会教育施設

A）利用頻度について



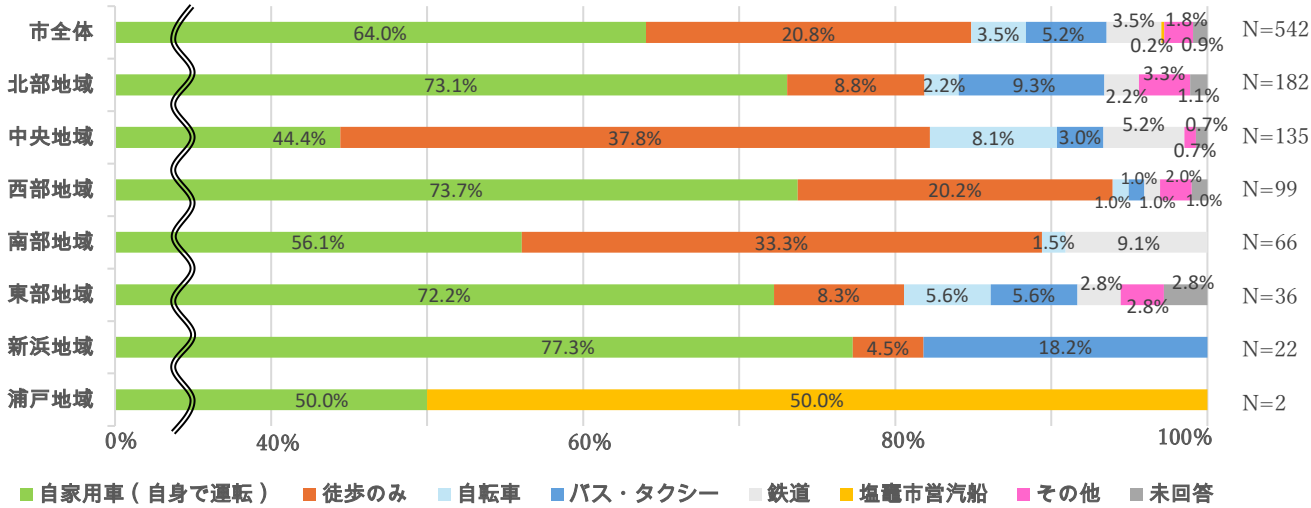
全ての地域において、半数以上が「全く利用しない」と回答しています。

B）利用場所について



東部地域の 36.1%が「市外」の公民館・図書館・文化ホール等を利用しています。東部地域内に公民館・図書館・文化ホール等がないことから、隣接する地域で利用していると考えられます。

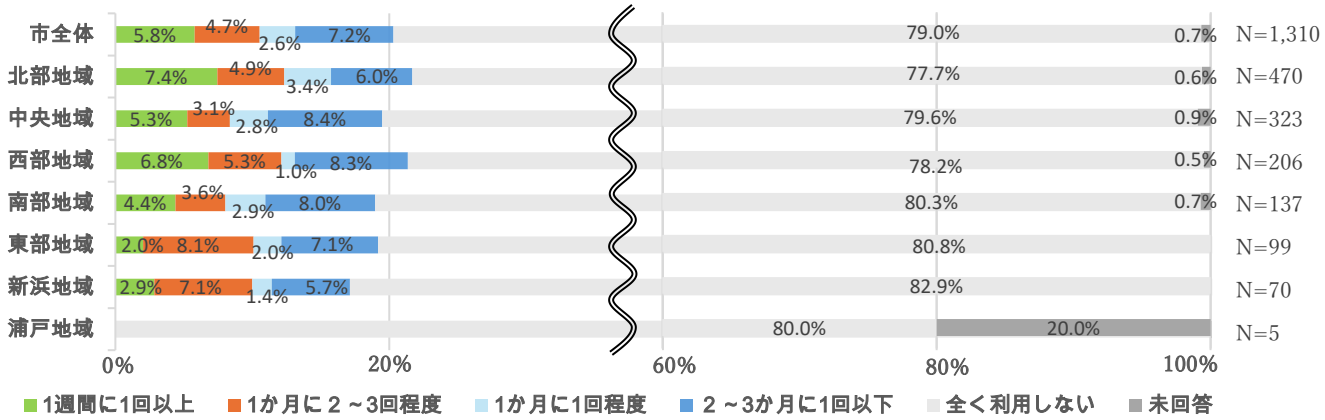
C）利用施設までの移動方法について



全ての地域において「自家用車」での移動が最も多くなっています。公民館・図書館・文化ホール等が中央地域と南部地域に集中して位置していることから、地域ごとに「徒歩」での移動の割合に大きく差が出ており、中央地域は 37.8%であるのに対して、新浜地域では 4.5%となっています。

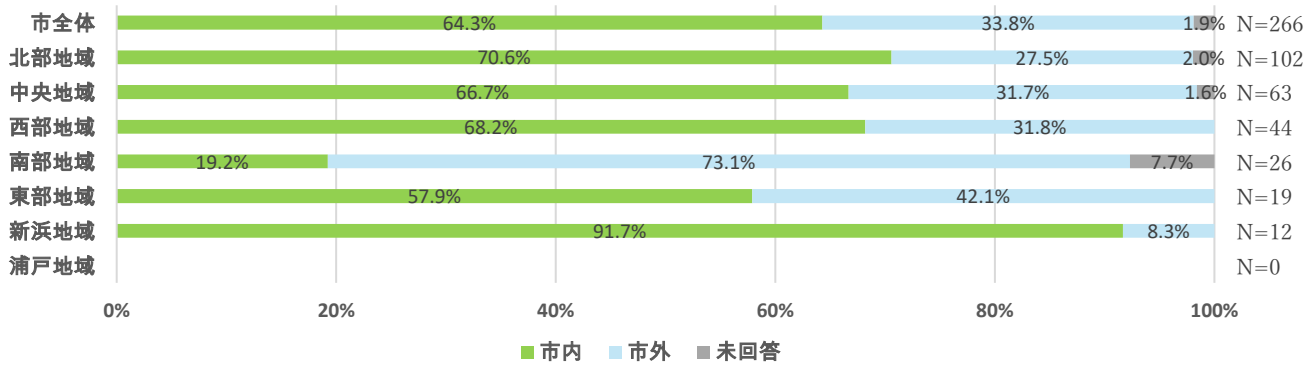
2-13) 体育館･運動場等のスポーツ施設

A）利用頻度について



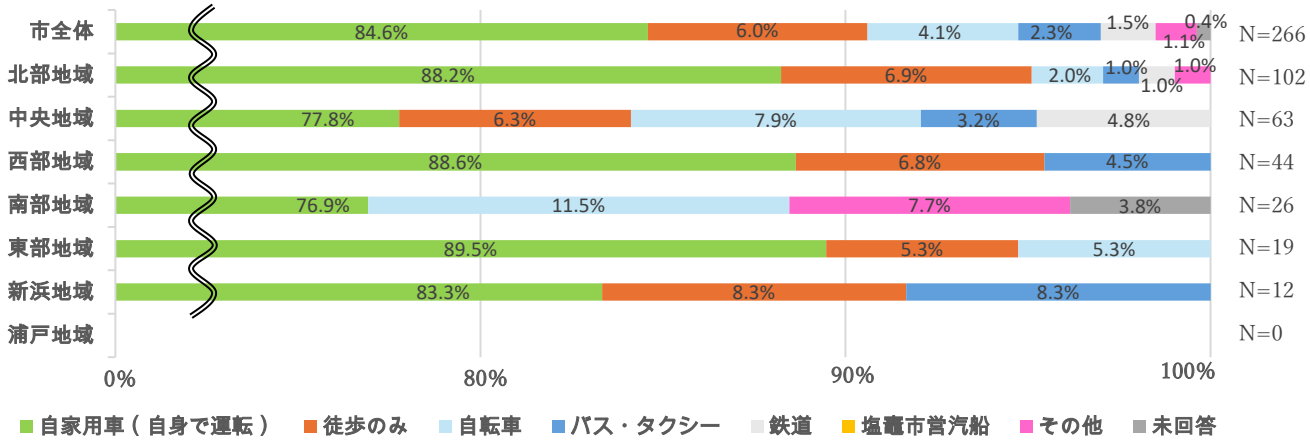
全ての地域において、約８割が「全く利用しない」と回答しています。ガス体育館が位置している北部地域では「1 週間に 1 回以上」利用する方の割合が 7.4%と最も高くなっています。

B）利用場所について



南部地域の 73.1%が「市外」のスポーツ施設を利用しています。

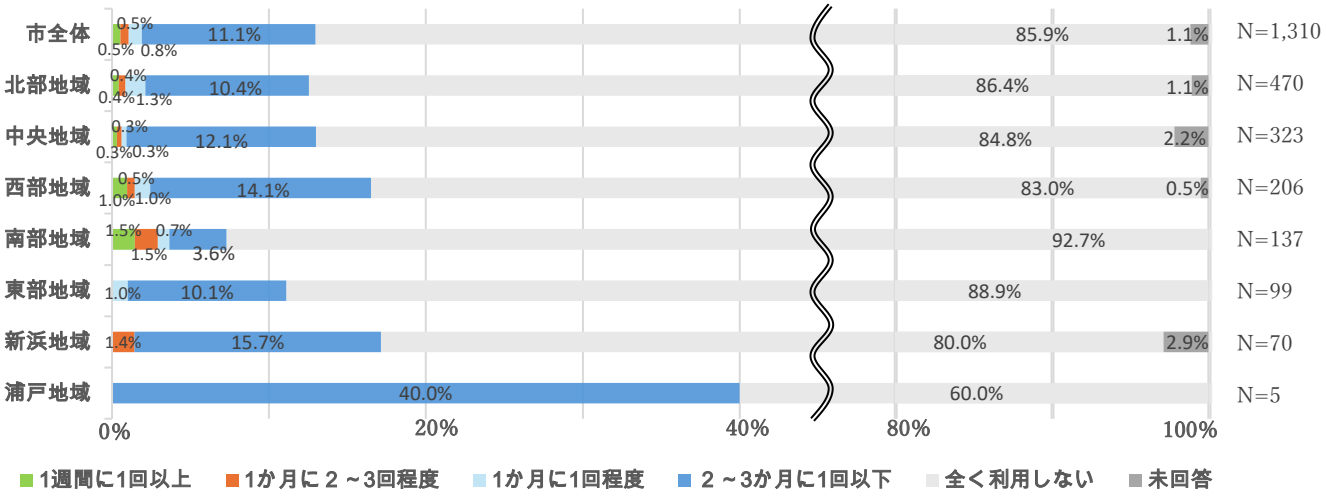
C）利用施設までの移動方法について



全ての地域において約８割が「自家用車」でスポーツ施設を利用しています。新浜地域の 8.3%が「バス・タクシー」で移動しており、バスの運行ルートから推測するとしおナビバスを利用していると考えられます。

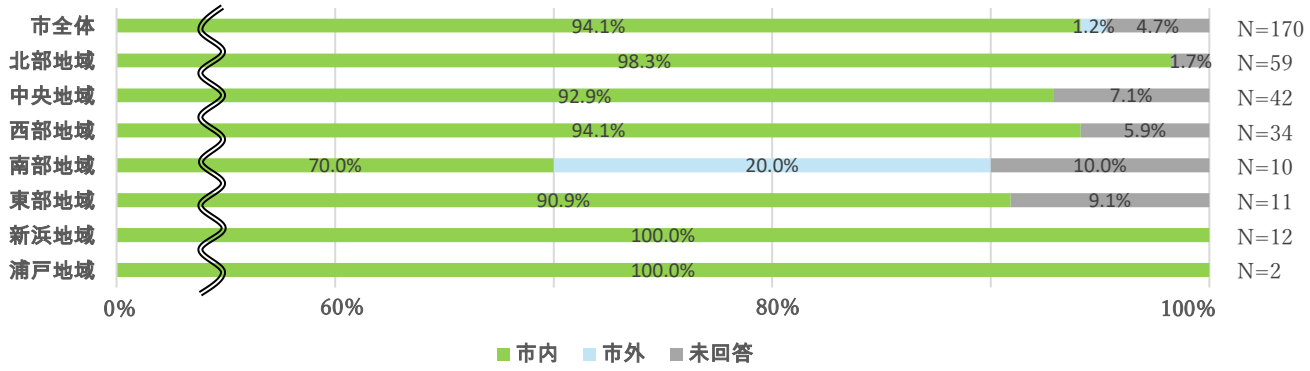
2-14）保健センター等の保健･福祉施設

A）利用頻度について



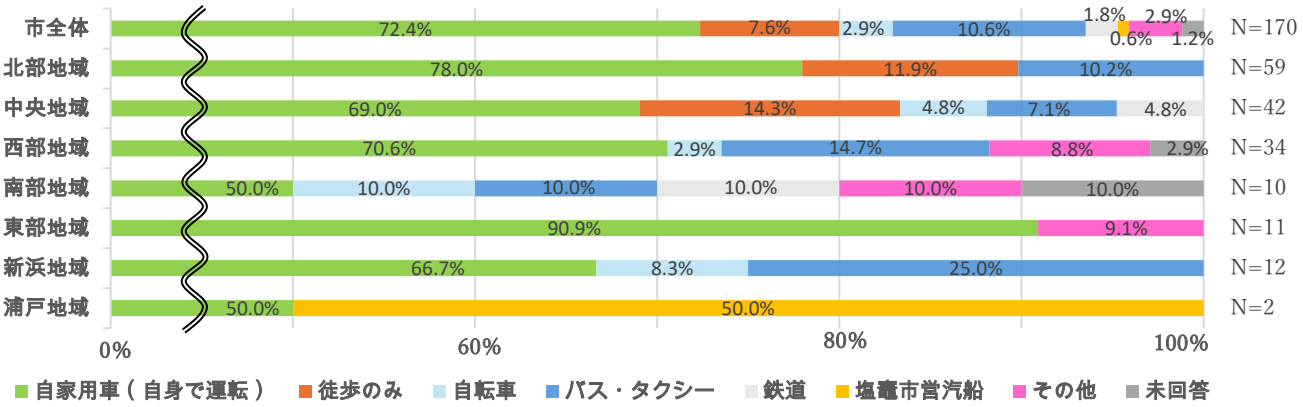
全ての地域において「全く利用しない」と回答した人が最も多く、南部地域では 92.7%となっています。

B）利用場所について



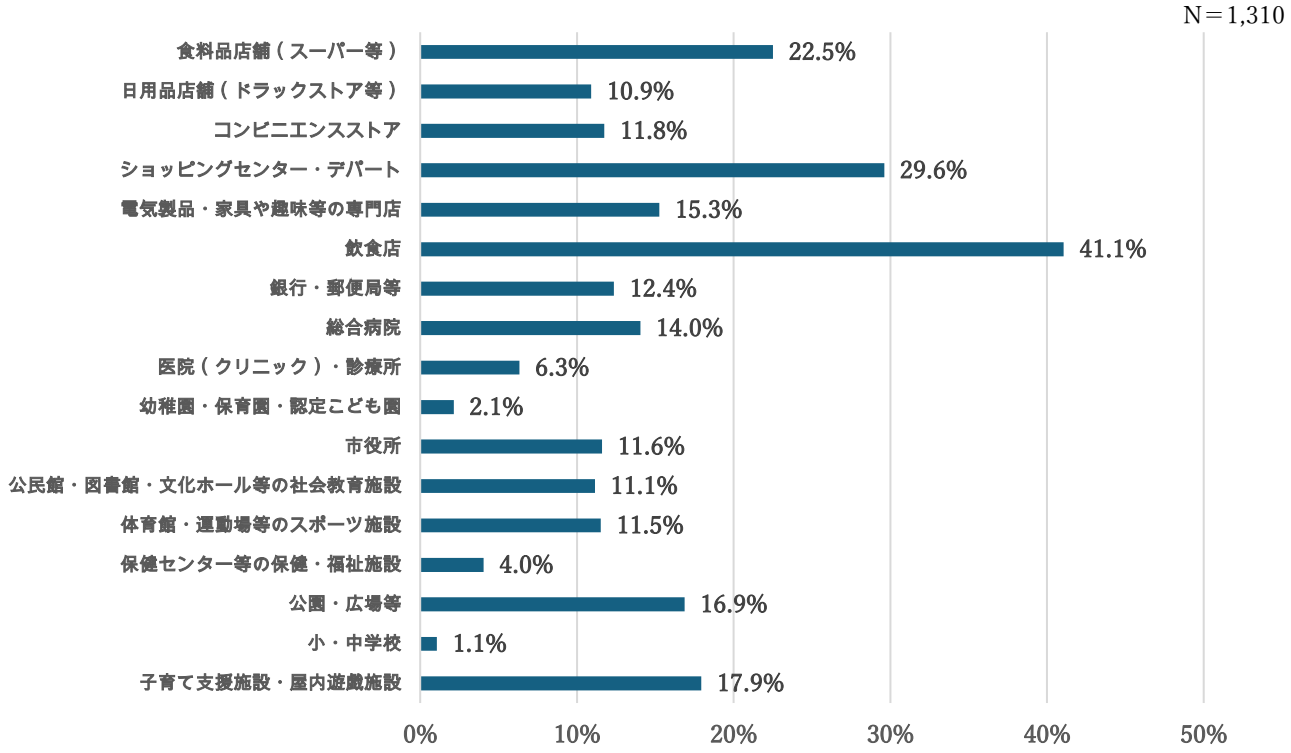
全ての地域において 7 割以上が「市内」の福祉施設を利用しています。南部地域の 2 割が「市外」の福祉施設を利用しており、隣接している地域の福祉施設を利用していると考えられます。

C）利用施設までの移動方法について



全ての地域において「自家用車」での利用が最も多いが、東部地域の 90.9%に対して南部地域では 50.0%と地域ごとに大きく異なる結果となっています。

3）塩竈の中心地（本塩釜・塩釜駅・東塩釜駅周辺）に欲しい施設について（３つまで）



「飲食店」が 41.1%と需要が最も高く、次いで「ショッピングセンター・デパート」「食料品店舗（スーパー等)」の需要が高い結果となっています。

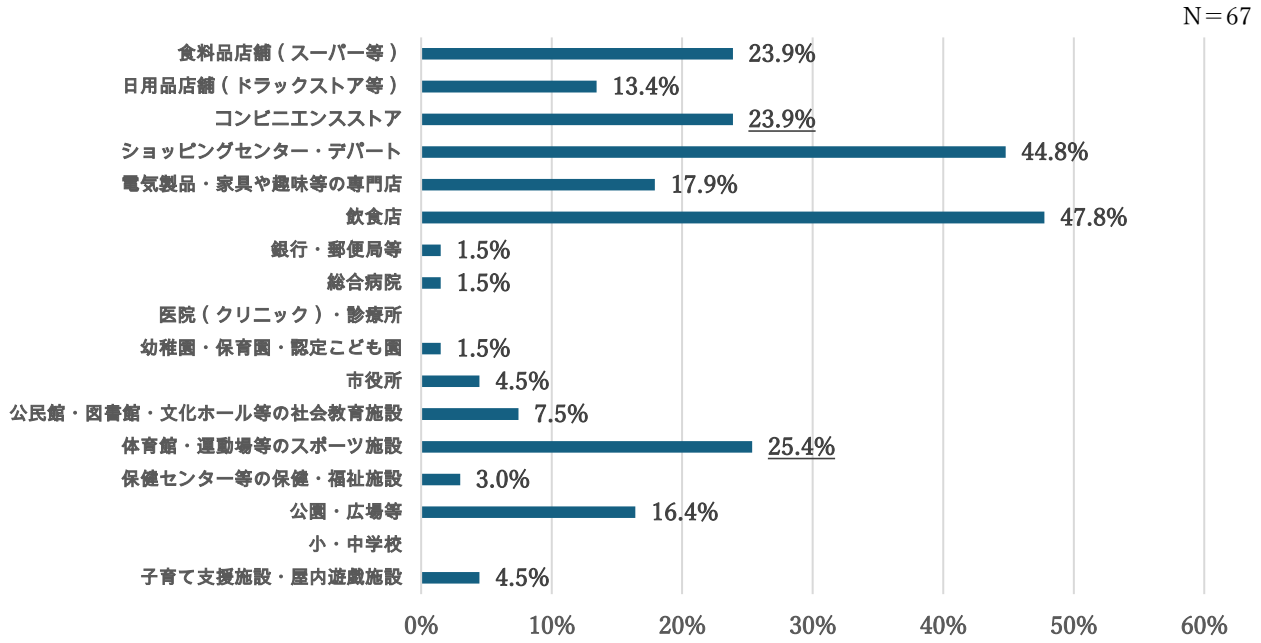
3-1）塩竈の中心地に欲しい施設×年齢

塩竈市の中心地に欲しい施設について年齢ごとに分析を行ったところ、「飲食店」は全ての年代において、需要の高い上位 2 施設となっています。また「ショッピングセンター・デパート」も 30 代を除くほぼ全ての年代で需要のある上位 3 施設となっています。そのため「飲食店」と「ショッピングセンター・デパート」以外の施設に関して年代ごとの特徴について示します。

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
食料品店舗（スーパー等）	23.9%	19.4%	21.3%	22.3%	22.9%	25.3%	20.0%
日用品店舗（ドラックストア等）	13.4%	19.4%	9.2%	11.8%	13.2%	9.6%	5.5%
コンビニエンスストア	23.9%	17.7%	10.6%	15.5%	12.6%	8.8%	3.6%
ショッピングセンター・デパート	44.8%	38.7%	28.5%	34.0%	29.7%	24.5%	23.0%
電気製品・家具や趣味等の専門店	17.9%	12.9%	10.6%	16.8%	15.2%	13.8%	21.2%
飲食店	47.8%	54.8%	35.7%	41.2%	47.1%	35.2%	37.6%
銀行・郵便局等	1.5%	4.8%	9.2%	14.7%	14.5%	13.4%	14.5%
総合病院	1.5%	4.8%	8.2%	10.9%	19.4%	18.4%	17.6%
医院（クリニック）・診療所	0.0%	4.8%	9.7%	4.6%	8.1%	5.4%	6.1%
幼稚園・保育園・認定こども園	1.5%	9.7%	4.3%	2.1%	0.6%	1.5%	0.6%
市役所	4.5%	4.8%	3.4%	14.7%	12.3%	14.9%	16.4%
公民館・図書館・文化ホール等の社会教育施設	7.5%	6.5%	7.2%	5.9%	15.2%	14.2%	14.5%
体育館・運動場等のスポーツ施設	25.4%	12.9%	8.7%	13.4%	9.7%	11.1%	10.3%
保健センター等の保健・福祉施設	3.0%	1.6%	1.4%	1.3%	4.8%	6.1%	7.9%
公園・広場等	16.4%	19.4%	35.3%	16.0%	5.8%	16.5%	15.8%
小・中学校	0.0%	4.8%	1.4%	2.5%	0.0%	0.8%	0.0%
子育て支援施設・屋内遊戯施設	4.5%	22.6%	44.4%	25.2%	6.8%	11.1%	9.7%

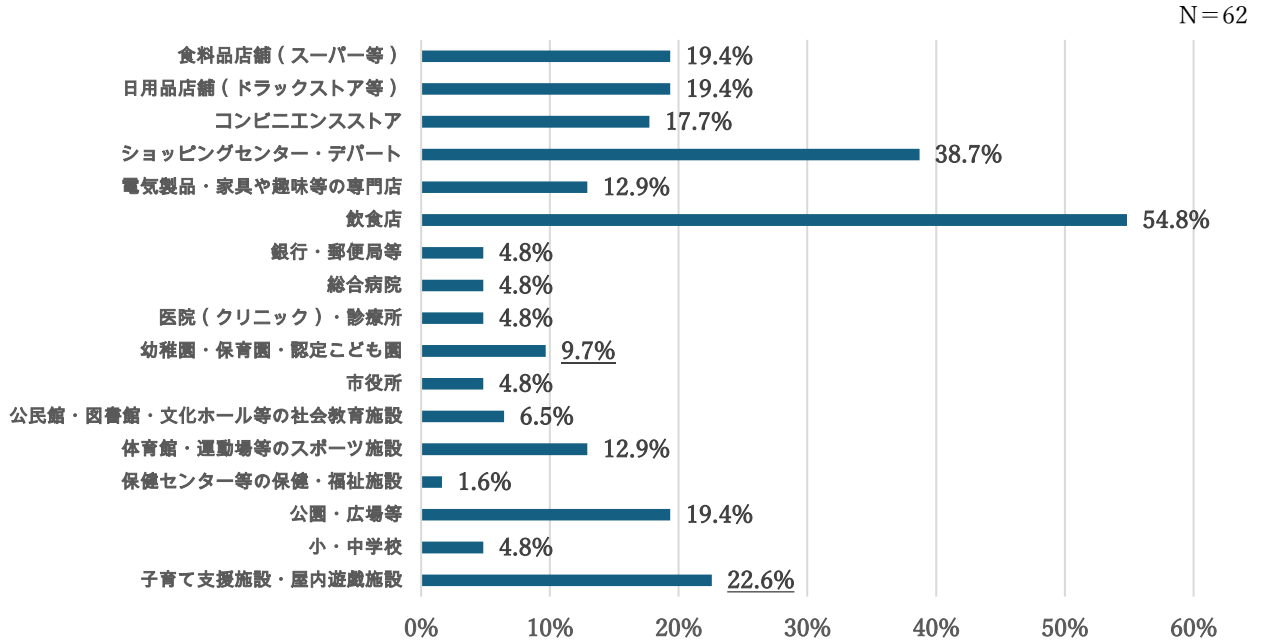
※網掛け箇所：年代毎の上位 3 施設

A）10 歳代



10 歳代では、「体育館・運動場等のスポーツ施設」が 25.4%と他年代の約 2 倍の需要を示し「コンビニエンスストア」も 23.9%と全年代の中で最も高い需要を示しています。その一方で「銀行・郵便局等、総合病院」「医院（クリニック）・診療所」「小・中学校」「子育て支援施設・屋内遊戯施設」の 5 つの施設の需要は全年代で最も低い値を示しています。

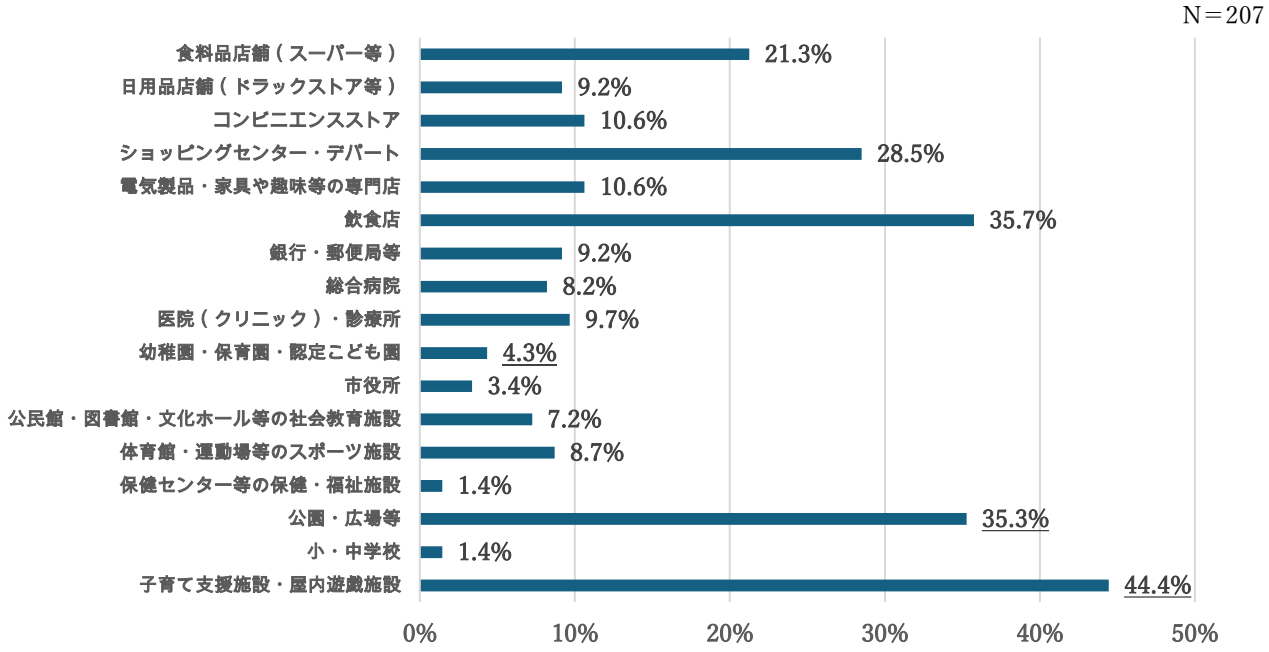
B）20 歳代



20 歳代では、「子育て支援施設・屋内遊戯施設」の需要が 22.6%と 3 番目に高い値を示した。また「幼稚園・保育園・認定こども園」は 9.7%と全年代の中で最も高い需要を示しています。

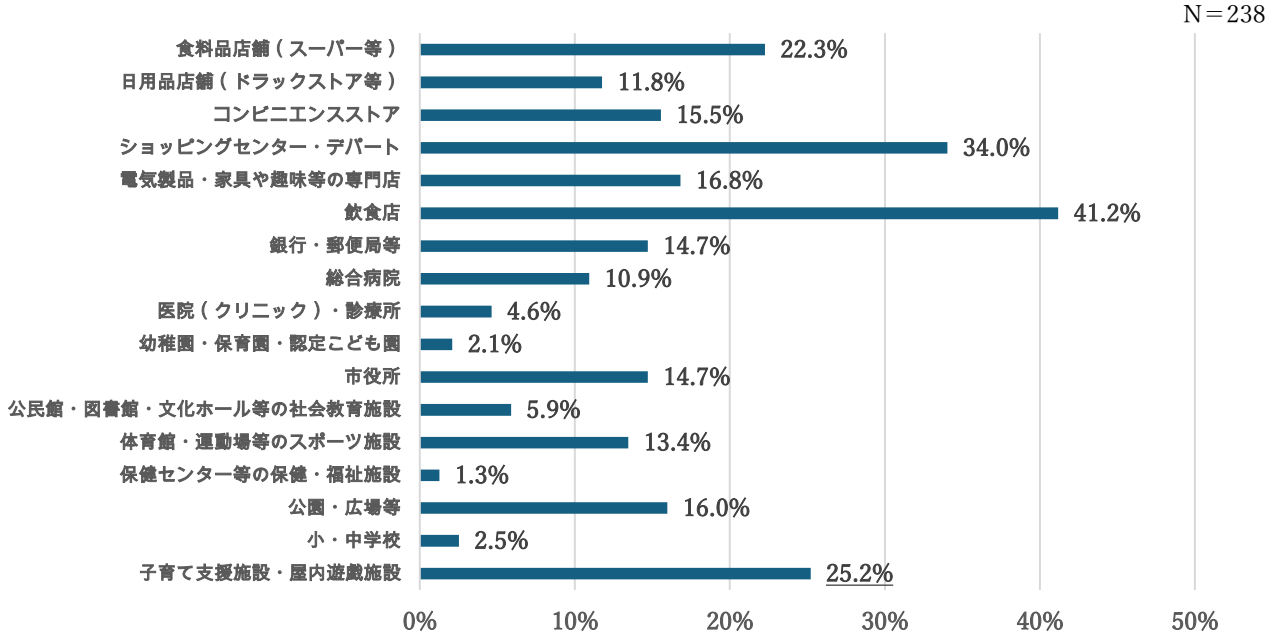
その一方で、家族構成が最も多様な年代であることからか、すべての年代の中で需要の傾向が最もつかみにくく、様々な施設に需要が分散する結果となっています。

C）30 歳代



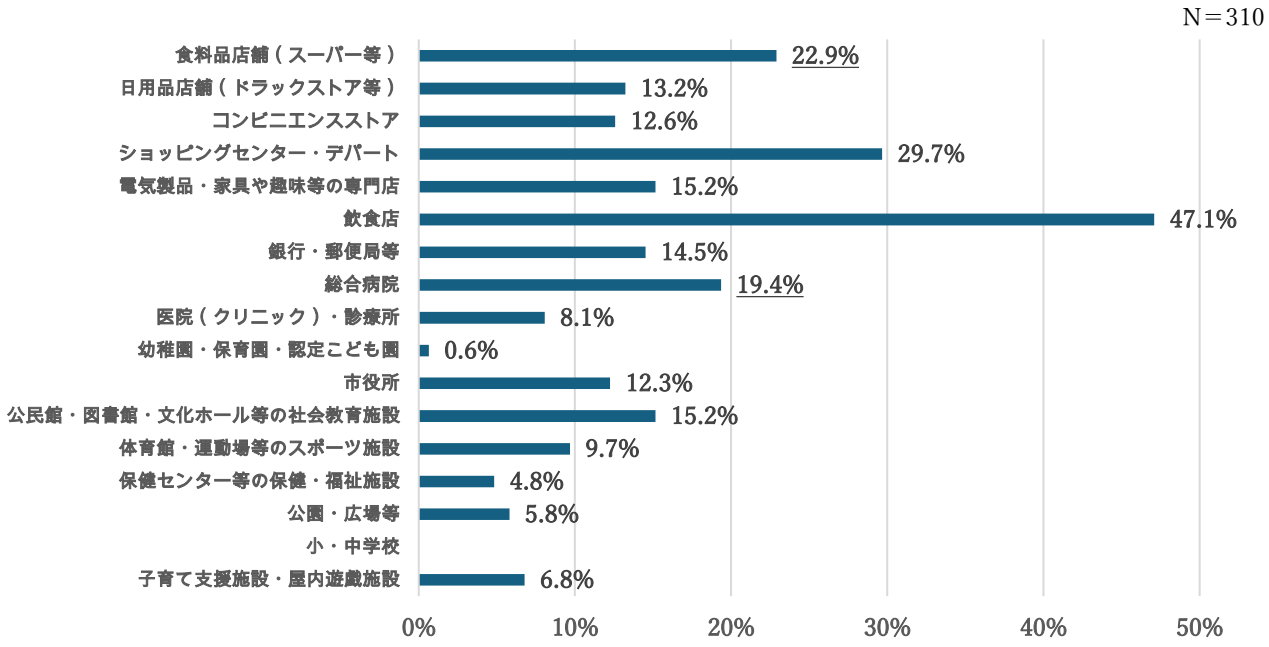
30 歳代では、最も需要のある施設が全年代の中で唯一「飲食店」ではなく「子育て支援施設・屋内遊戯施設」の 44.4%となっています。また「公園・広場等」の需要が 35.3%と全年代の中で最も高く「幼稚園・保育園・認定こども園」も 4.3%と 20 歳代に次いで高い需要を示していることから、子育て世帯からの要望が強く反映された結果であるといえます。

D）40 歳代



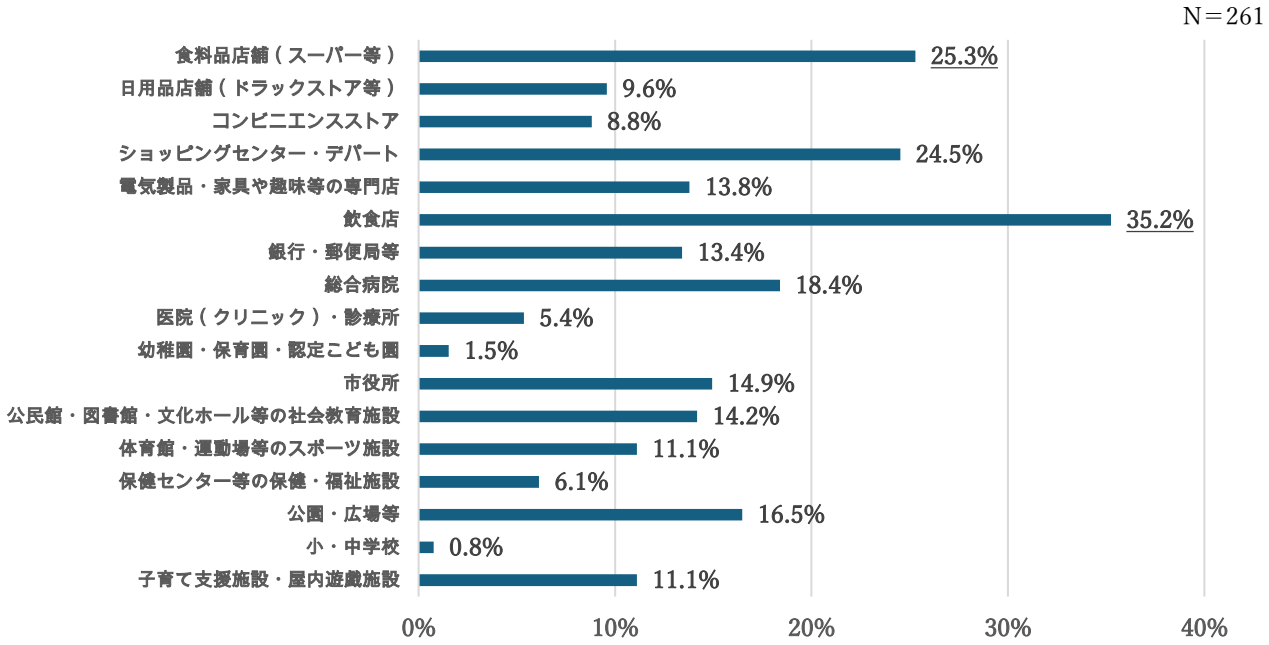
40 歳代では「子育て支援施設・屋内遊戯施設」の需要が 25.2%と 30 歳代に次いで高い結果となっています。また、30 歳代までと比較すると、「銀行・郵便局等」「総合病院」「市役所」といった施設の需要が徐々に高くなり始め、全体的に需要が分散する結果となっています。

E）50 歳代



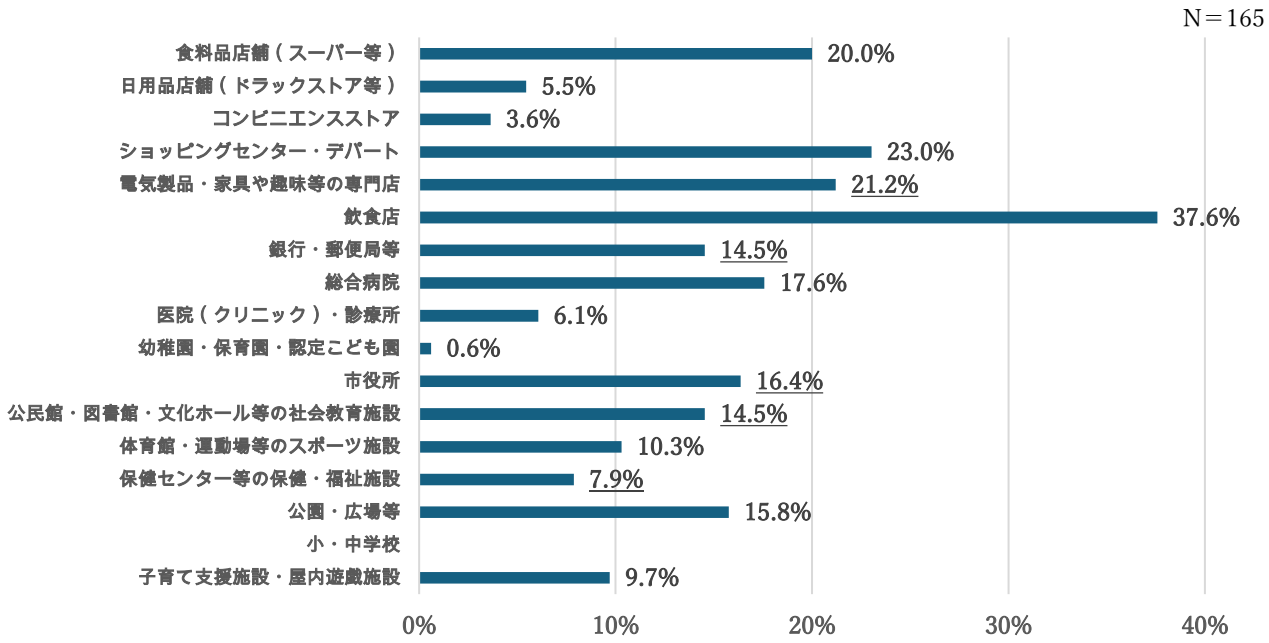
50 歳代では、「食料品店舗（スーパー等)」の需要が 22.9%と 3 番目に高く、「総合病院」の需要も 19.4%と全年代の中で最も高くなっています。「幼稚園・保育園・認定こども園」や「子育て支援施設・屋内遊戯施設」の需要は 40 歳代までから急激に低下しています。

F）60 歳代



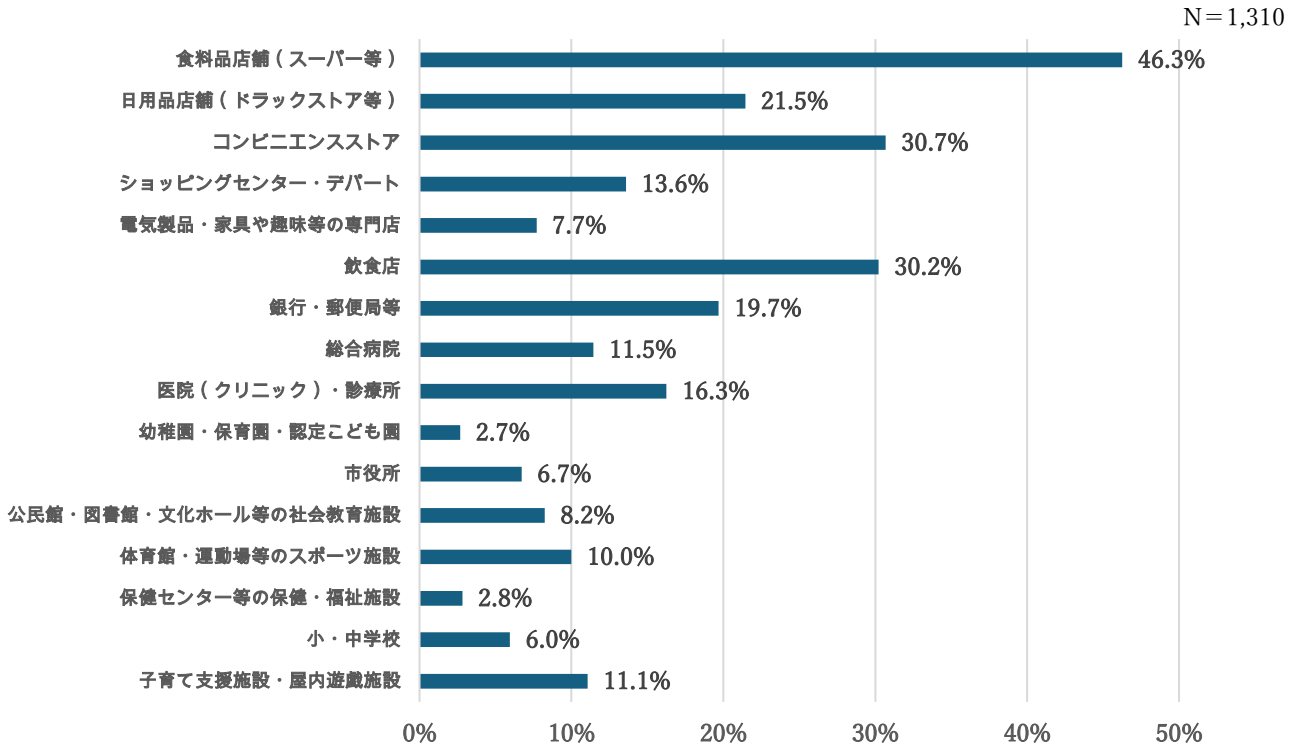
60 歳代では「食料品店舗（スーパー等)」の需要が 25.3%と全年代のなかで最も高くなっています。最も需要のある「飲食店」でも 35.2%と他年代と比較すると低い値を示していることから、需要が分散していることが分かります。

G）70 歳以上



70 歳代では「電気製品・家具や趣味等の専門店」が 21.2%「銀行・郵便局等」が 14.5%「保健センター等の保健・福祉施設」が 7.9%「公民館・図書館・文化ホール等の社会教育施設」が 14.5%「市役所」が 16.4%と 5 つの施設が全年代の中で最も高い需要を示しています。後期高齢者を迎える年代の方々の回答であるため、福祉施設や交流施設、老後の趣味などの機能を持つ施設の需要が高い結果となっています。

4）歩いて行ける場所に欲しい施設について（３つまで）



「食料品店舗（スーパー等）」の需要が最も高く、約半数の方が歩いて行ける場所に欲しい施設として挙げています。また、中心地に求められていた「ショッピングセンター・デパート」に代わって、「コンビニエンスストア」が求められる結果となっています。

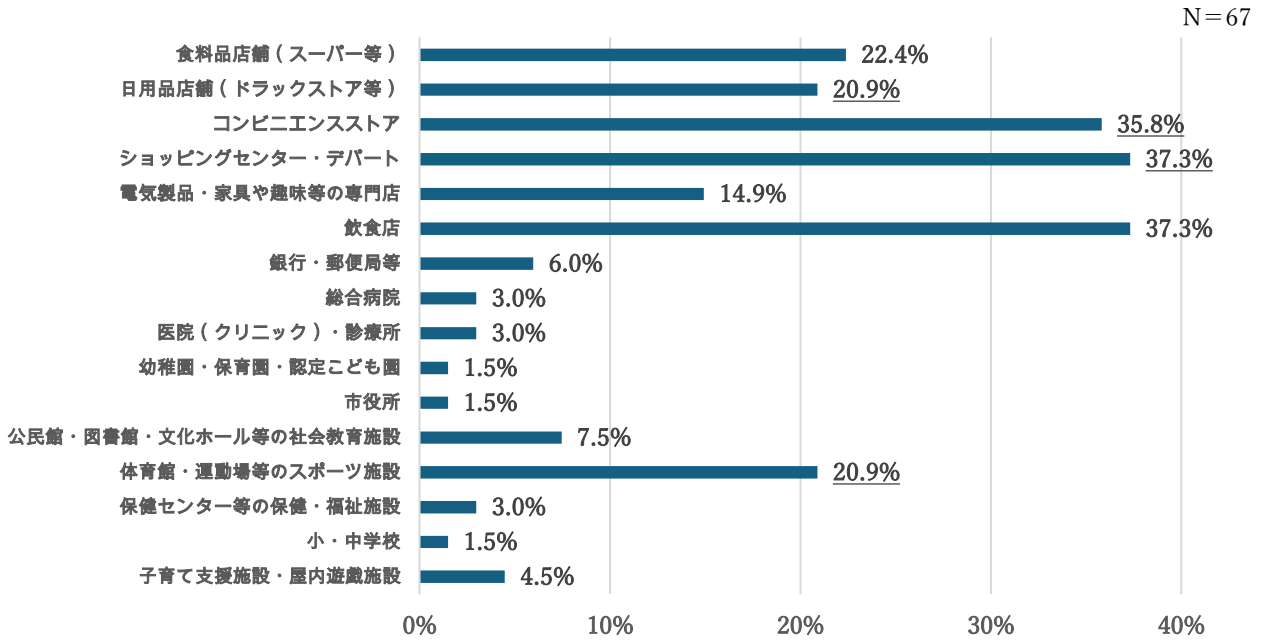
4-1）歩いて行ける場所に欲しい施設×年齢

歩いて行ける場所に欲しい施設について年齢ごとに分析を行ったところ「食料品店舗（スーパー等）」は 10 歳代以外の年代において、需要の高い上位 2 施設となっています。また、「飲食店」も 30 代を除くほぼ全ての年代で需要のある上位 3 施設となっています。そのため、「食料品店舗（スーパー等）」「飲食店」以外の施設に関して年代ごとの特徴について示します。

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
食料品店舗（スーパー等）	22.4%	41.9%	40.6%	43.7%	54.2%	52.5%	43.6%
日用品店舗（ドラックストア等）	20.9%	37.1%	24.2%	22.3%	25.5%	16.9%	10.9%
コンビニエンスストア	35.8%	45.2%	37.7%	37.4%	35.2%	21.1%	11.5%
ショッピングセンター・デパート	37.3%	14.5%	12.6%	16.8%	11.9%	8.8%	10.9%
電気製品・家具や趣味等の専門店	14.9%	6.5%	4.3%	8.8%	5.2%	7.7%	12.7%
飲食店	37.3%	37.1%	24.2%	28.2%	31.9%	28.0%	35.8%
銀行・郵便局等	6.0%	12.9%	15.5%	18.5%	22.3%	26.8%	18.8%
総合病院	3.0%	3.2%	6.3%	7.1%	13.2%	16.9%	18.8%
医院（クリニック）・診療所	3.0%	8.1%	13.5%	15.1%	20.6%	18.8%	17.6%
幼稚園・保育園・認定こども園	1.5%	6.5%	7.2%	3.4%	0.6%	1.5%	0.6%
市役所	1.5%	1.6%	1.9%	5.0%	9.4%	6.9%	13.9%
公民館・図書館・文化ホール等の社会教育施設	7.5%	6.5%	6.3%	5.9%	7.4%	10.3%	13.3%
体育館・運動場等のスポーツ施設	20.9%	6.5%	10.1%	10.5%	5.8%	10.7%	12.7%
保健センター等の保健・福祉施設	3.0%	1.6%	1.0%	0.8%	2.9%	4.2%	6.1%
小・中学校	1.5%	6.5%	15.9%	10.5%	2.6%	2.3%	0.6%
子育て支援施設・屋内遊戯施設	4.5%	14.5%	28.5%	15.5%	2.3%	7.7%	6.1%

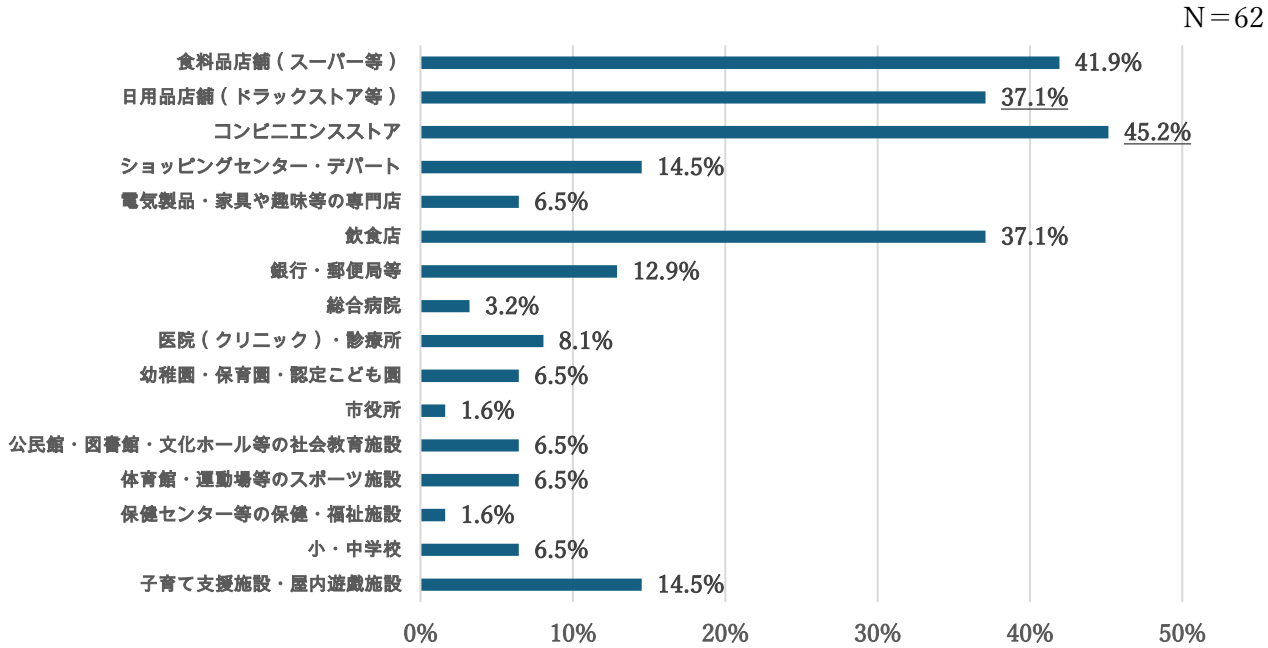
※網掛け箇所：年代毎の上位３施設

A）10 歳代



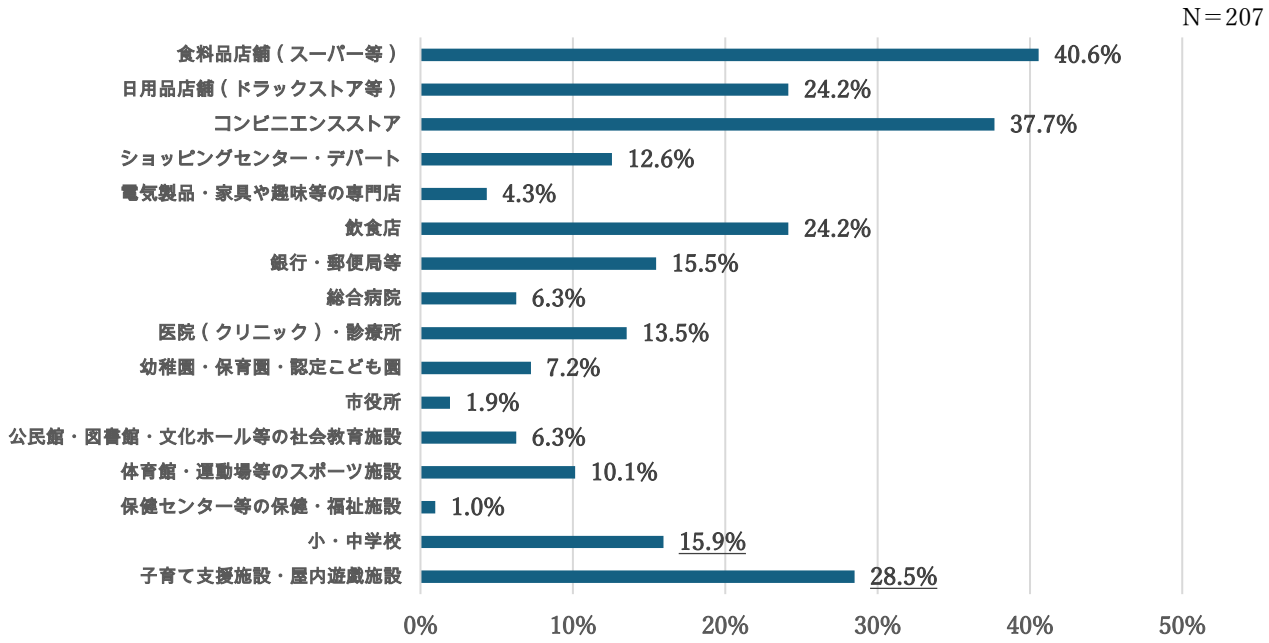
10 歳代では「ショッピングセンター・デパート」の需要が最も高い 37.3%、次いで「コンビニエンスストア」の 35.8%となっています。また、「体育館・運動場等のスポーツ施設」は 20.9%と全年代の中で最も高い需要を示しています。

B）20 歳代



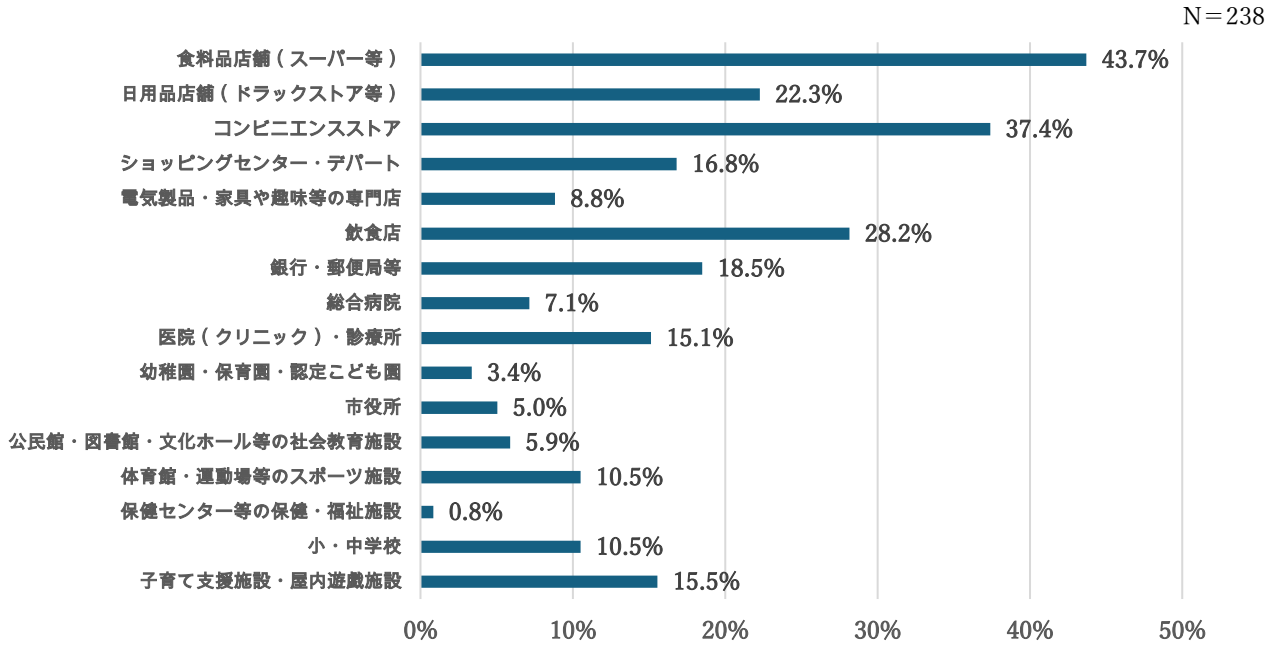
20 歳代では「コンビニエンスストア」が 45.2%、「日用品店舗（ドラックストア等）」も 37.1%と全年代の中で最も高い需要を示しています。その一方で「銀行・郵便局等」「総合病院」「医院（クリニック）・診療所」は全体より大きく需要が低くなっています。

C）30 歳代



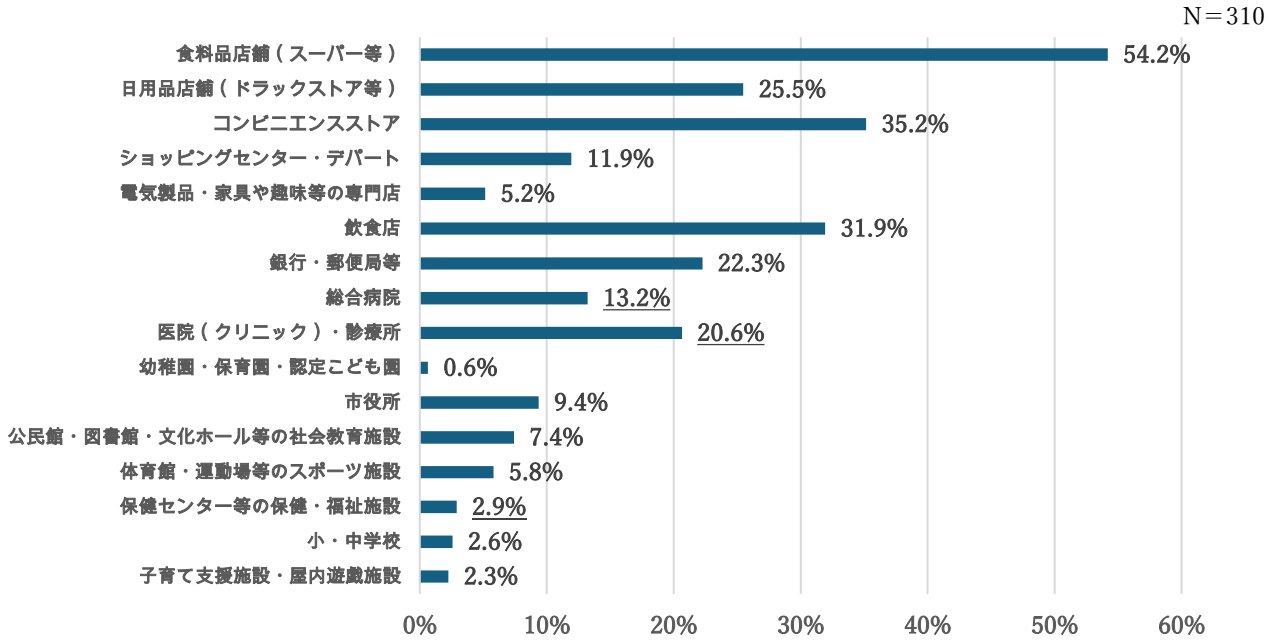
30 歳代では「子育て支援施設・屋内遊戯施設」の需要が全年代の中で最も高い 28.5%となっています。また「小・中学校」の需要も 15.9%と全年代の中で最も高くなっており、子育て世帯からの要望が強く反映された結果であるといえます。

D）40 歳代



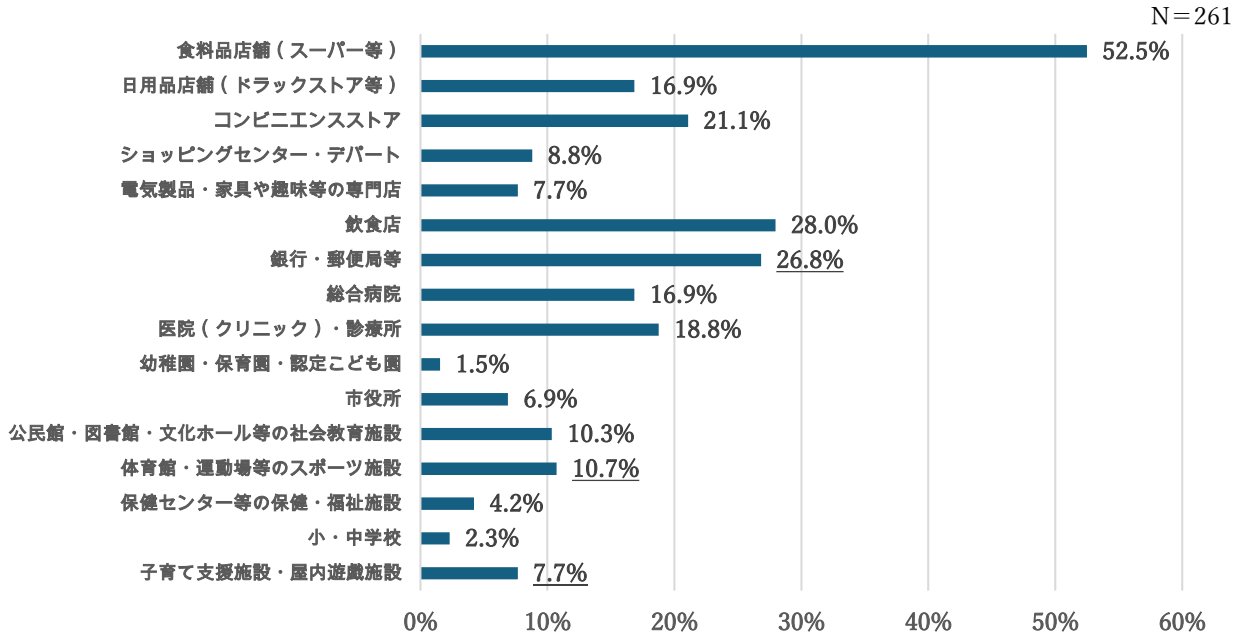
40 歳代では、需要が分散しており様々な施設が求められています。30 歳代と比較すると「銀行・郵便局等」や「医院（クリニック）・診療所」「市役所」等の回答が徐々に増加してきています。

E）50 歳代



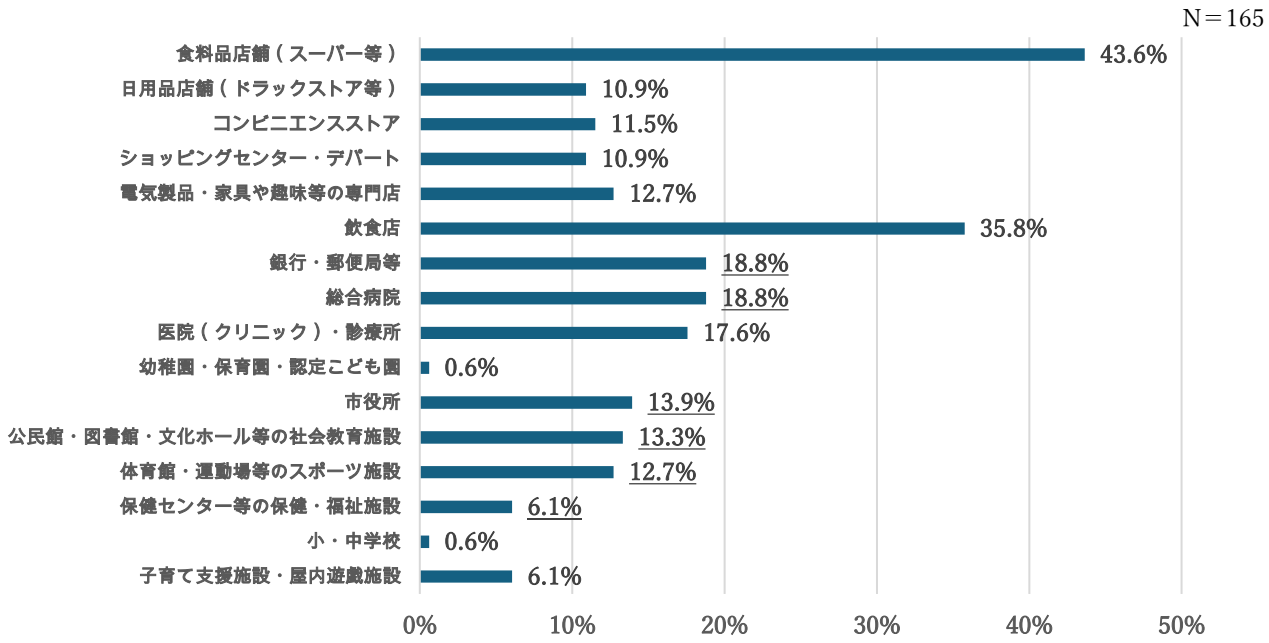
50 歳代では「医院（クリニック）・診療所」の需要が全年代の中で最も高い 20.6%となっています。また「保健センター等の保健・福祉施設」も 40 歳代の 0.8%の約 3.5 倍にあたる 2.9%、「総合病院」も 7.1%より 5.1 ポイント増の 13.2%と 40 歳代より、医療・福祉関係の施設の需要が増加しています。

F）60 歳代



60 歳代では「銀行・郵便局等」が 26.8%と全年代の中で最も高い需要を示しています。また「体育館・運動場等のスポーツ施設」「子育て支援施設・屋内遊戯施設」の需要が 50 歳代から急増しており、歩いて行ける場所に体を動かすことのできる施設を求められています。

G）70 歳以上



70 歳以上では「銀行・郵便局等」「総合病院」が 18.8%と高い需要を示しています。「総合病院」「市役所」「公民館・図書館・文化ホール等の社会教育施設」「保健センター等の保健・福祉施設」は全年代の中で最も高い需要を示しており、10%台の施設が 10 個あるなど需要が分散しています。

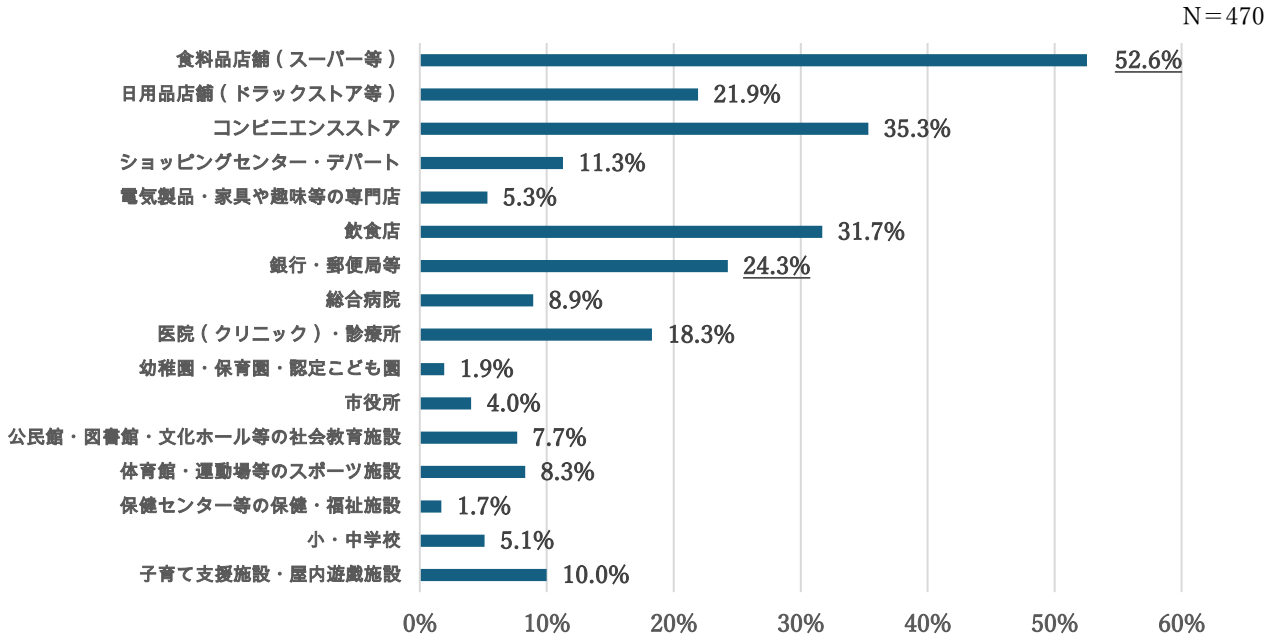
4-2）歩いて行ける場所に欲しい施設×お住まいの地域

歩いて行ける場所に欲しい施設についてお住まいの地域ごとに分析を行ったところ「食料品店舗（スーパー等）」は全ての地域において、最も需要のある施設となっています。また「コンビニエンスストア」も浦戸地域を除く全ての地域で需要のある上位 3 施設となっています。

	北部地域	中央地域	西部地域	南部地域	東部地域	新浜地域	浦戸地域
食料品店舗（スーパー等）	52.6%	41.2%	41.7%	56.9%	34.3%	37.1%	40.0%
日用品店舗（ドラックストア等）	21.9%	20.4%	21.4%	28.5%	18.2%	15.7%	0.0%
コンビニエンスストア	35.3%	28.8%	23.3%	32.8%	26.3%	32.9%	20.0%
ショッピングセンター・デパート	11.3%	15.5%	13.1%	12.4%	16.2%	20.0%	20.0%
電気製品・家具や趣味等の専門店	5.3%	12.1%	6.3%	5.8%	9.1%	8.6%	20.0%
飲食店	31.7%	31.0%	30.1%	27.0%	21.2%	37.1%	20.0%
銀行・郵便局等	24.3%	17.3%	16.0%	12.4%	23.2%	21.4%	0.0%
総合病院	8.9%	14.6%	10.2%	13.1%	16.2%	7.1%	20.0%
医院（クリニック）・診療所	18.3%	14.6%	19.4%	11.7%	17.2%	10.0%	0.0%
幼稚園・保育園・認定こども園	1.9%	2.8%	3.4%	3.6%	2.0%	4.3%	0.0%
市役所	4.0%	6.5%	12.6%	8.0%	8.1%	2.9%	20.0%
公民館・図書館・文化ホール等の社会教育施設	7.7%	8.0%	8.7%	10.2%	6.1%	11.4%	0.0%
体育館・運動場等のスポーツ施設	8.3%	10.8%	11.7%	11.7%	11.1%	8.6%	0.0%
保健センター等の保健・福祉施設	1.7%	3.1%	3.4%	2.2%	7.1%	1.4%	20.0%
小・中学校	5.1%	5.0%	9.2%	5.1%	11.1%	1.4%	0.0%
子育て支援施設・屋内遊戯施設	10.0%	9.9%	14.6%	10.2%	9.1%	17.1%	20.0%

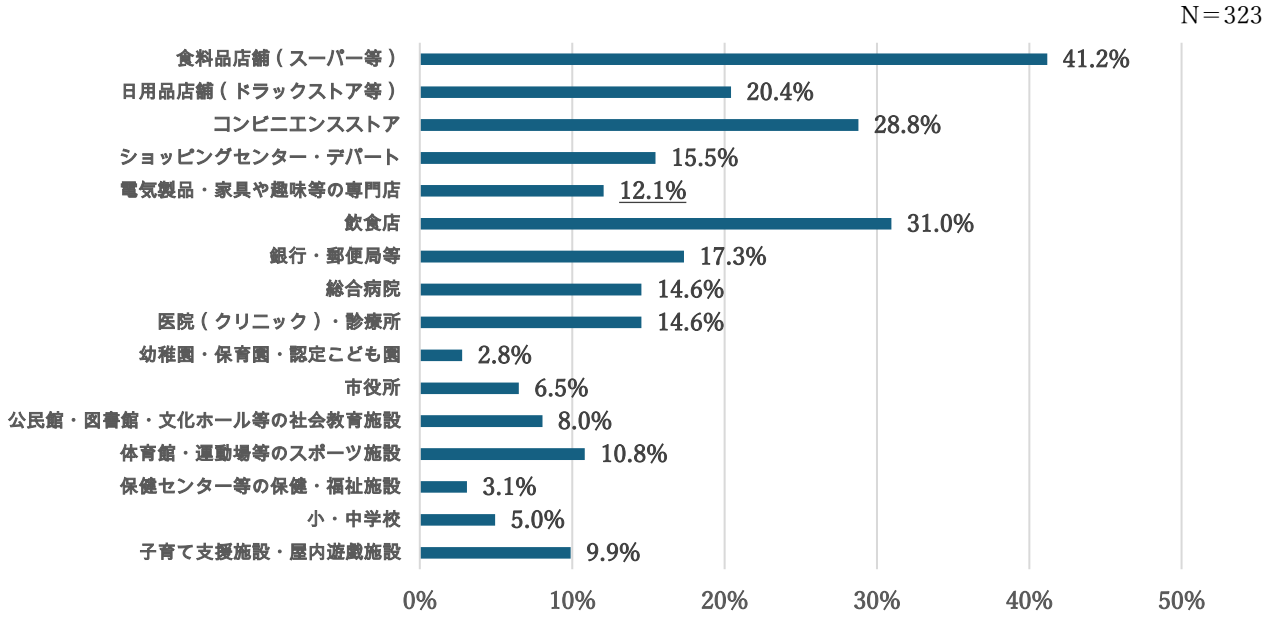
※網掛け箇所：年代毎の上位 3 施設

A）北部地域



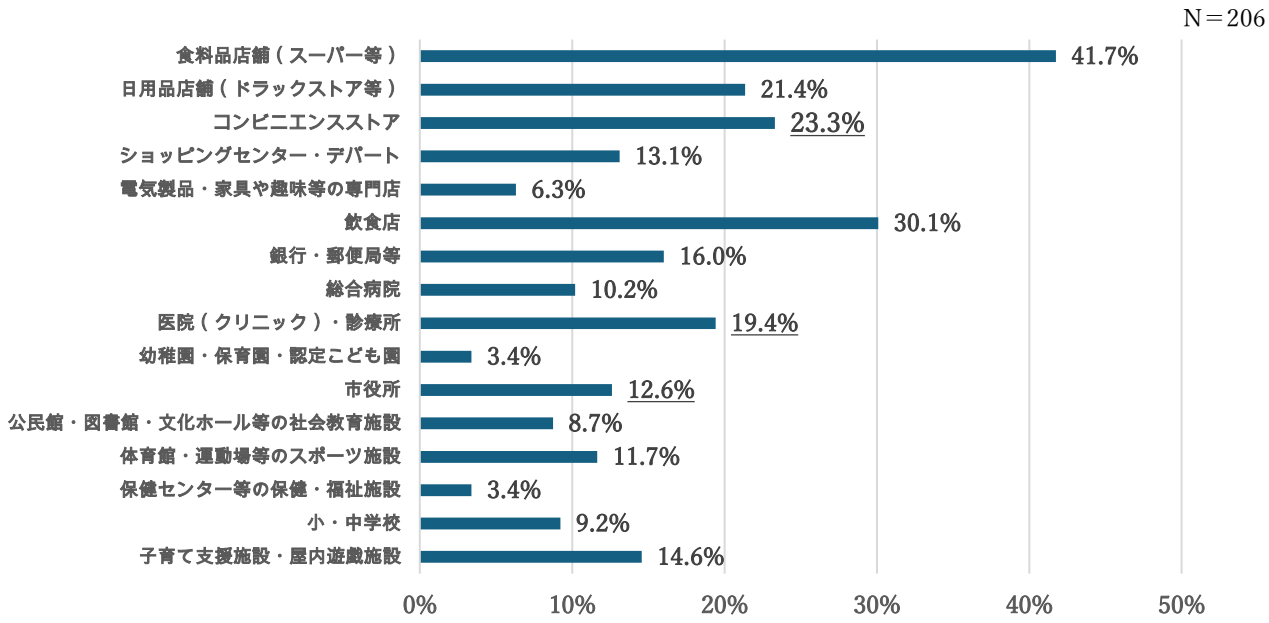
北部地域では「食料品店舗（スーパー等）」の需要が最も高く、次いで「コンビニエンスストア」「飲食店」となっています。最も回答数が多かった地域であるためか、ほとんどの施設において全体の結果と非常に近しい値を示しています。その中でも「食料品店舗（スーパー等）」は全体の 46.3%から 6.3 ポイント増の 52.6%を占めています。また「銀行・郵便局等」は全体の 19.7%から 4.6 ポイント増の 24.3%となっています。

B）中央地域



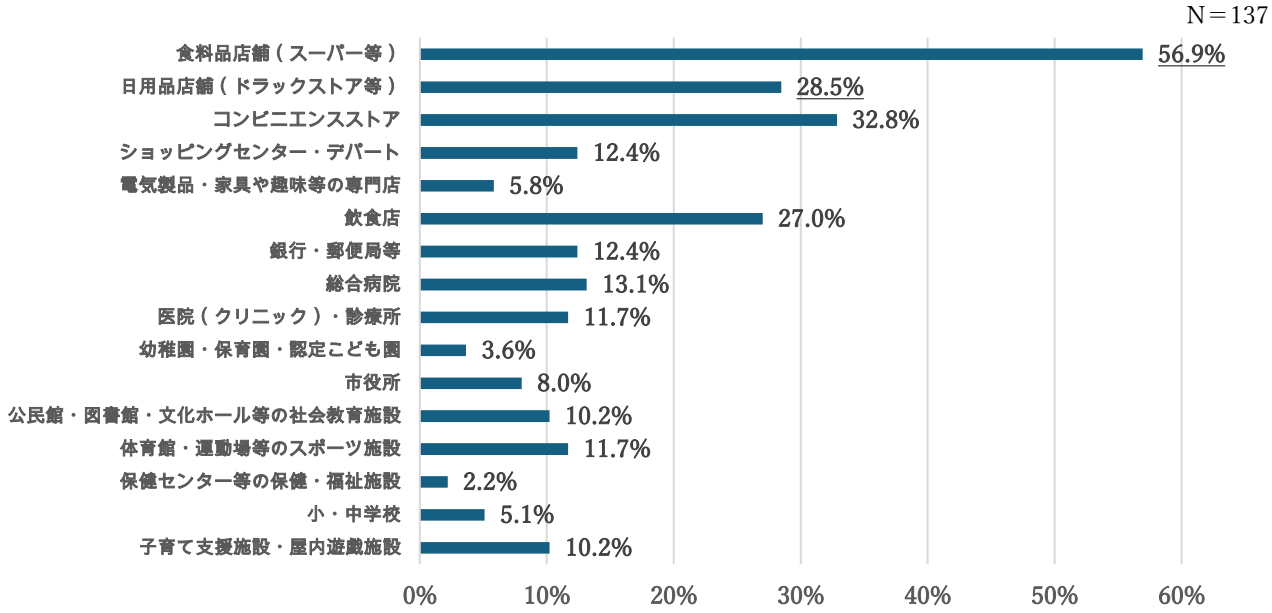
中央地域では「食料品店舗（スーパー等）」の需要が最も高く、次いで「飲食店」「コンビニエンスストア」となっています。回答数が多い地域であるため、ほとんどの施設において全体の結果と非常に近しい値を示しています。その中でも「電気製品・家具や趣味等の専門店」は全体の 7.7%から 4.4 ポイント増の 12.1%を占め、浦戸地域を除くと最も需要が高い地域となっています。

C）西部地域



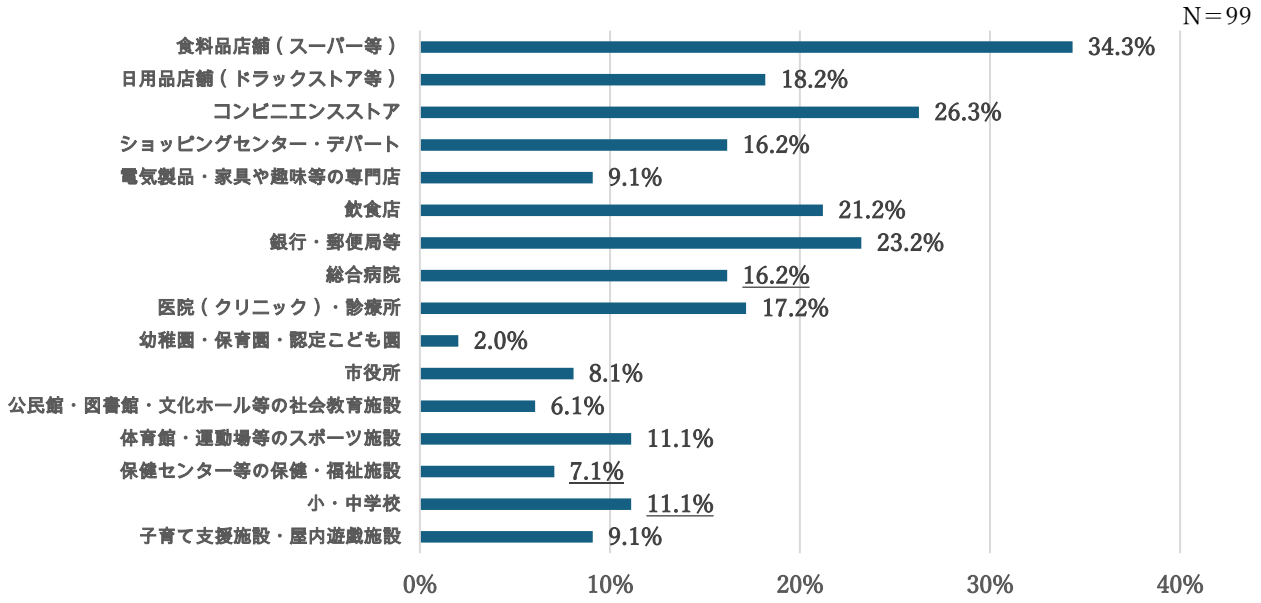
西部地域では「食料品店舗（スーパー等）」の需要が最も高く、次いで「飲食店」「コンビニエンスストア」となっています。「コンビニエンスストア」は他の施設と比較すると高い需要を示しているが、全体の 30.7%から 7.4 ポイント減の 23.3%を示し、全地域で最も低い値となっています。一方「医院（クリニック）・診療所」は全体の 16.3%から 3.1 ポイント増の 19.4%を示し、全地域で最も高い需要を示しています。

D）南部地域



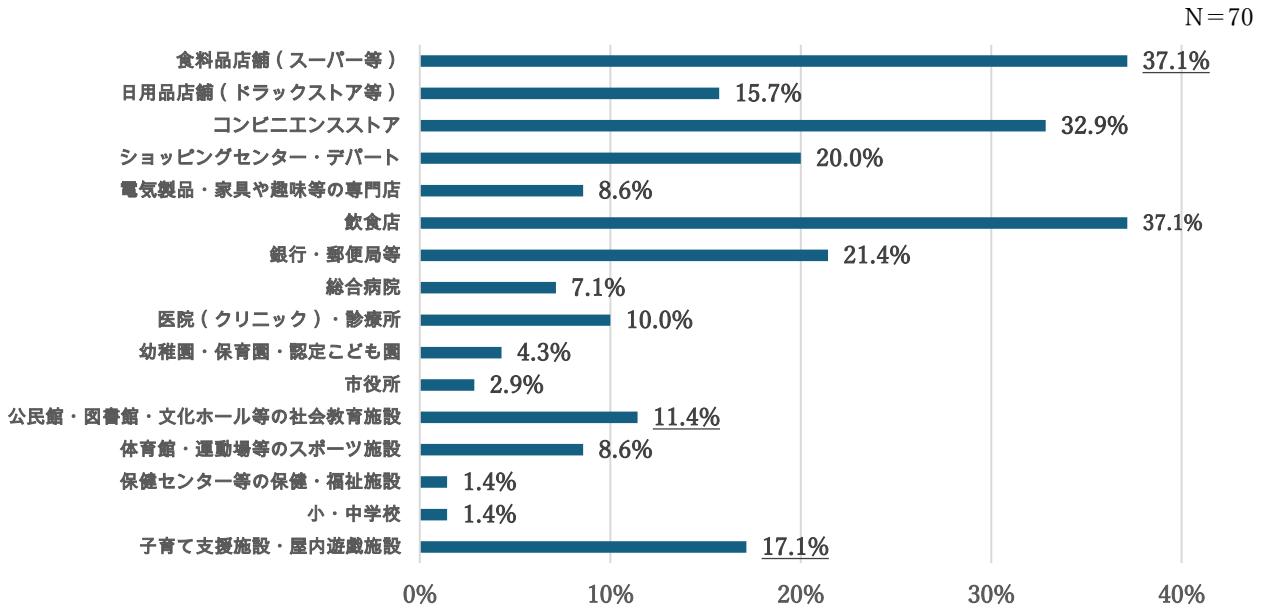
南部地域では「食料品店舗（スーパー等）」の需要が最も高く、次いで「コンビニエンスストア」「日用品店舗（ドラックストア等）」となっています。「食料品店舗（スーパー等）」は全体の 46.3%から 10.6 ポイント増の 56.9%を占め、全地域で需要が最も高い地域となっています。また「日用品店舗（ドラックストア等）」の需要が他地域より高く、全体の 21.5%から 7.0 ポイント増の 28.5%を示し、飲食店を上回っています。

E）東部地域



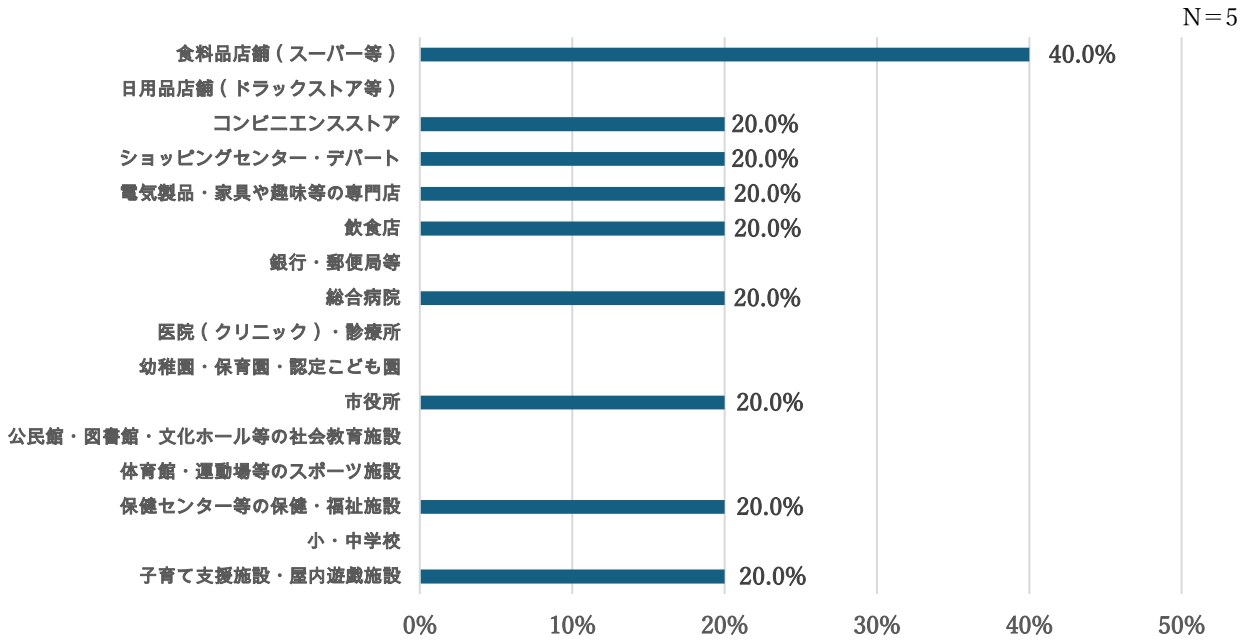
東部地域では「食料品店舗（スーパー等)」の需要が最も高く、次いで「コンビニエンスストア」「銀行・郵便局等」となっています。「食料品店舗（スーパー等)」と「飲食店」は共に、全体（4）より約 10 ポイント低い需要を示しています。「総合病院」は全体の 11.5%より 4.7 ポイント増の 16.2%、「保健センター等の保健・福祉施設」は全体の 2.8%の約 2.6 倍にあたる 7.1%、「小・中学校」は全体の 6.0%の約 2 倍にあたる 11.1%となり、浦戸地域を除く全地域の中で最も高い需要を示しています。

F）新浜地域



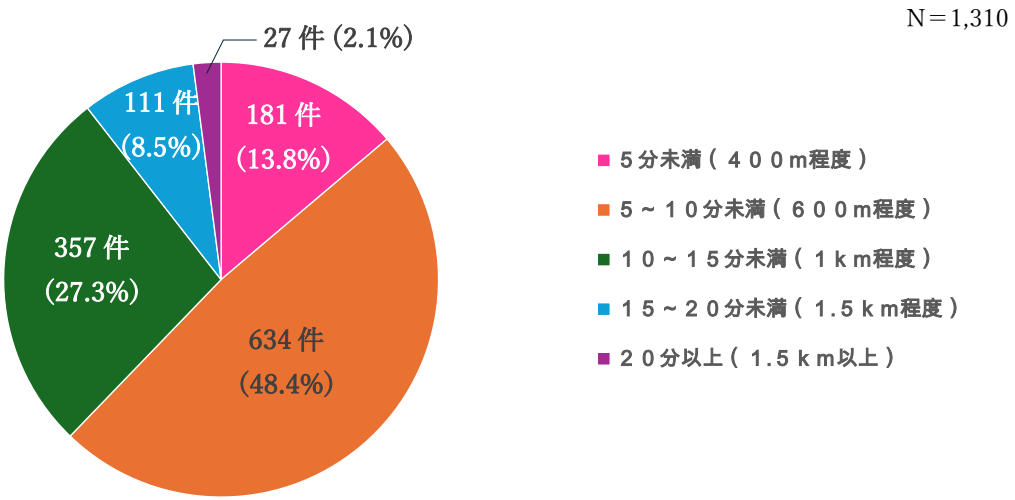
新浜地域では「食料品店舗（スーパー等)」と「飲食店」の需要が最も高く、次いで「コンビニエンスストア」となっています。「飲食店」は全体（4）の 30.2%より 6.9 ポイント増の 37.1%となり、全地域で最も高い需要を示しています。また「公民館・図書館・文化ホール等の社会教育施設」も、全体の 8.2%から 3.2 ポイント増の 11.4%と最も高く「子育て支援施設・屋内遊戯施設」も全体の 11.1%から 6.0 ポイント増の 17.1%と浦戸地域を除く全地域の中で最も高い需要を示しています。

G）浦戸地域



浦戸地域では、40%が歩いて行ける場所に「食料品店舗（スーパー等）」が欲しいと回答しています。

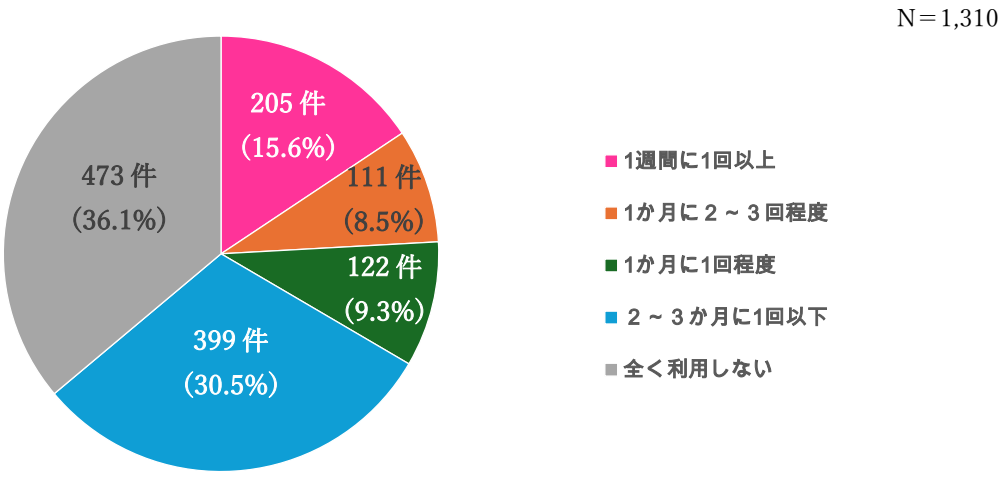
5）歩いて行ける場所の想定距離について



半数にあたる 48.4%が「5~10 分未満（600m 程度)」であれば歩いて行けると回答しており、次いで 27.3%が「10~15 分未満（1km 程度)」と回答しています。

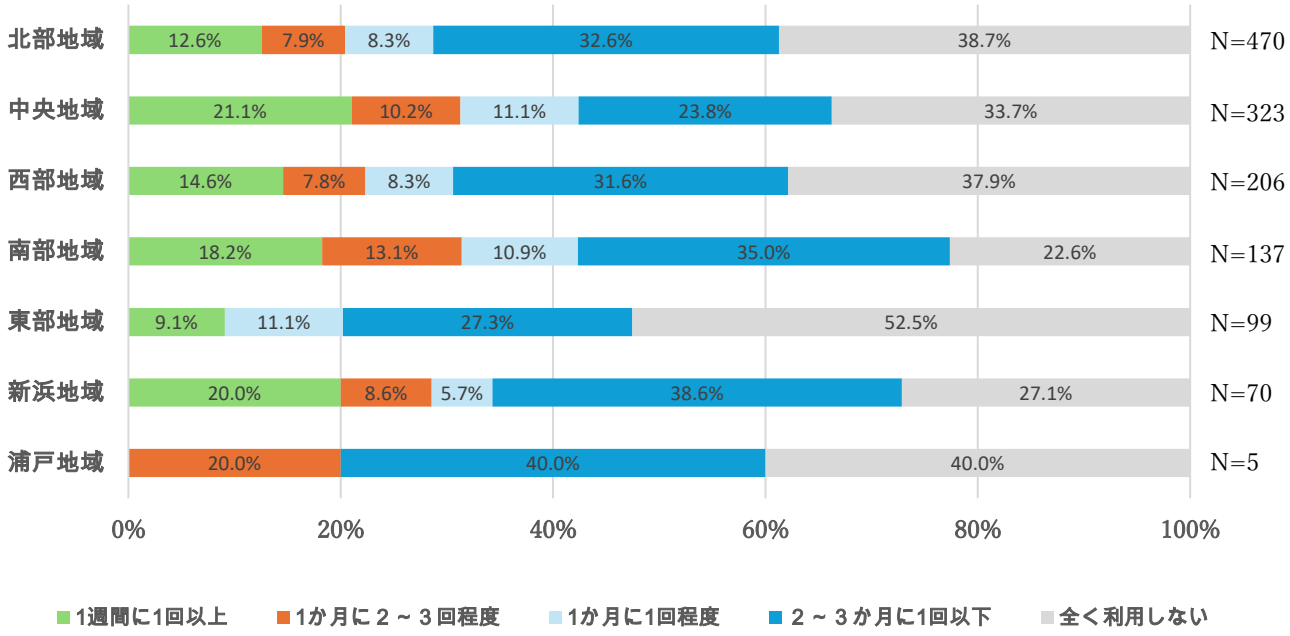
6）普段、利用する交通手段について

6-1）鉄道



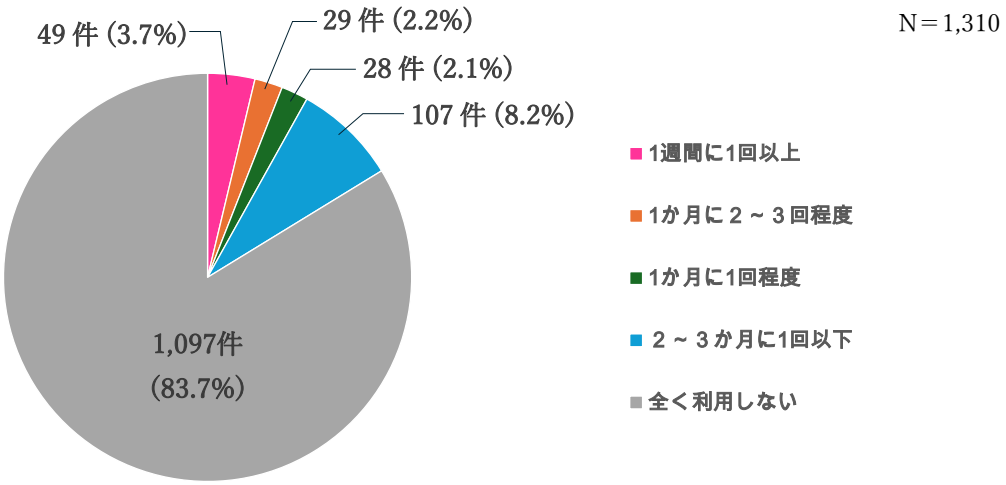
「全く利用しない」と回答した人が最も多く、次いで「2～3 か月に 1 回以下」が 30.5%、「1 週間に 1 回以上」が 15.6%となっています。

6-2）鉄道×お住まいの地域



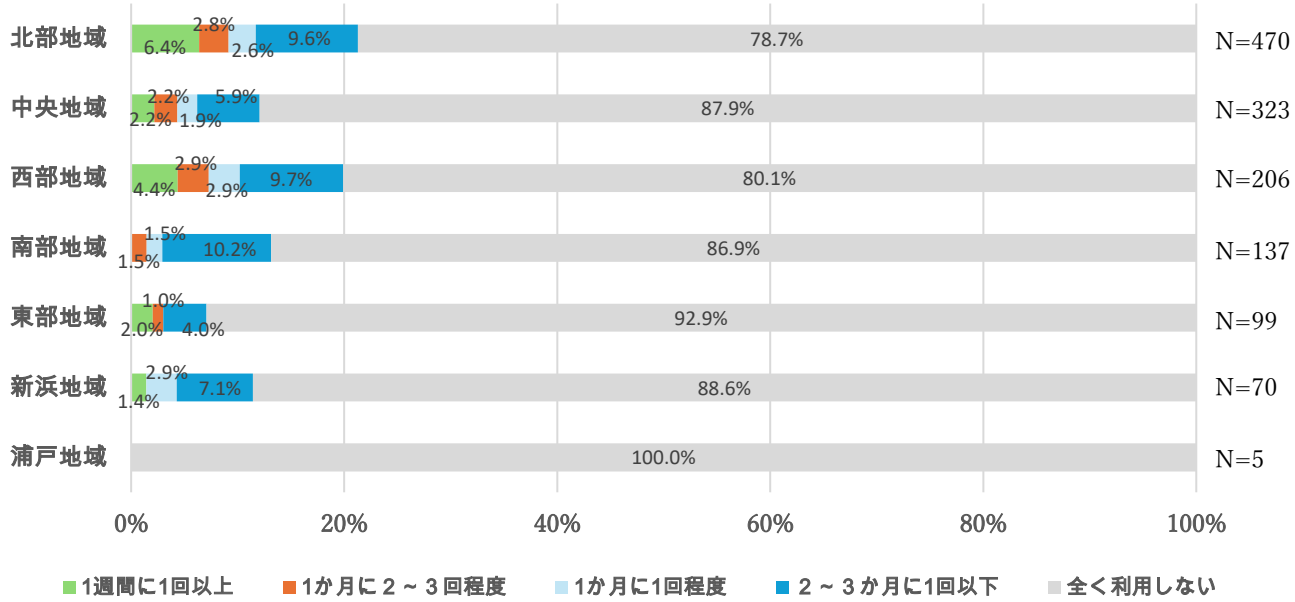
鉄道が通っていない東部地域にお住まいの方の半数以上にあたる 52.5%が鉄道を「全く利用しない」と回答しています。しかし、同じく鉄道の通っていない新浜地域では「1 週間に 1 回以上」が中央地域に次ぐ 20.0%と多くなっています。

6-3) ミヤコーバス



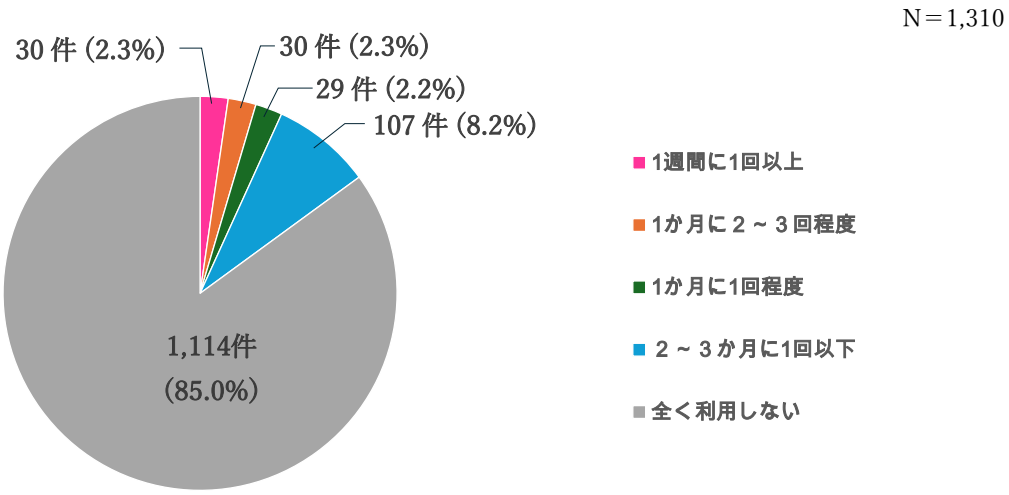
83.7%が「全く利用しない」と回答しています。

6-4）ミヤコーバス×お住まいの地域



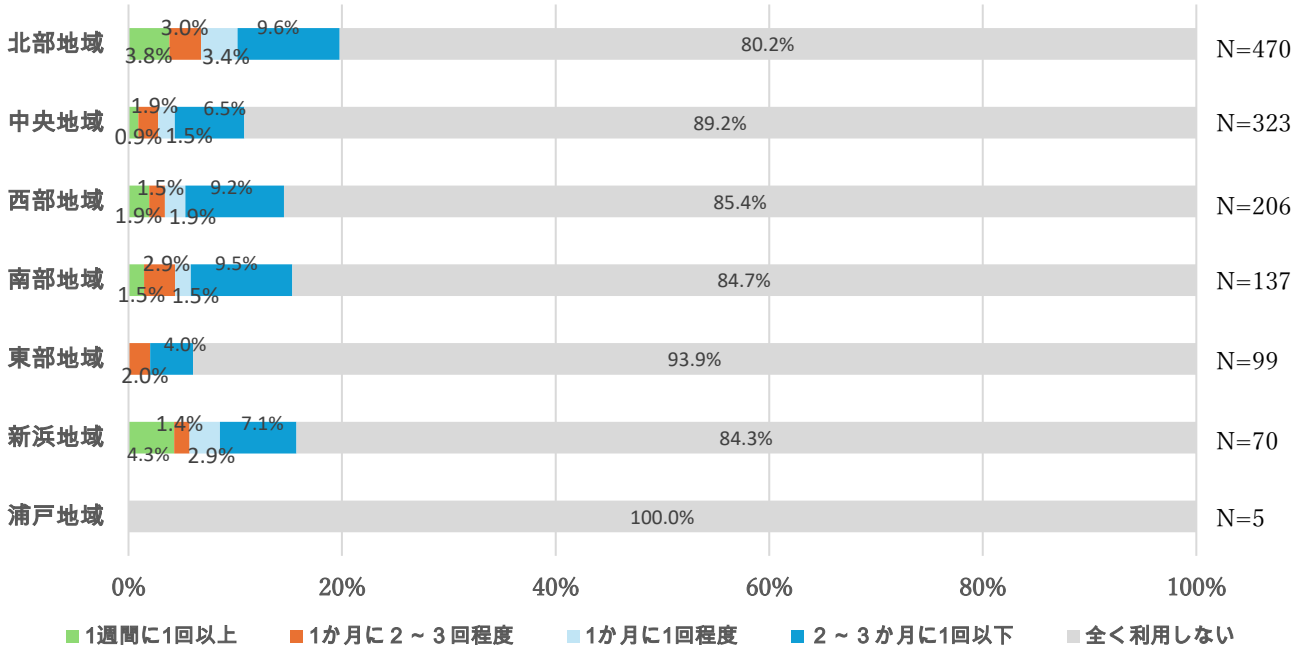
東部地域にお住まいの方の 92.9%がミヤコーバスを「全く利用しない」と回答しています。東部地域には 4 つの停留所があるがいずれも北側の塩竈港線沿いに位置していることが影響していると考えられます。一方で北部地域には 10 個の停留所があり「1 週間に 1 回以上」利用する人が 6.4%と最も多くなっています。

6-5) しおナビバス



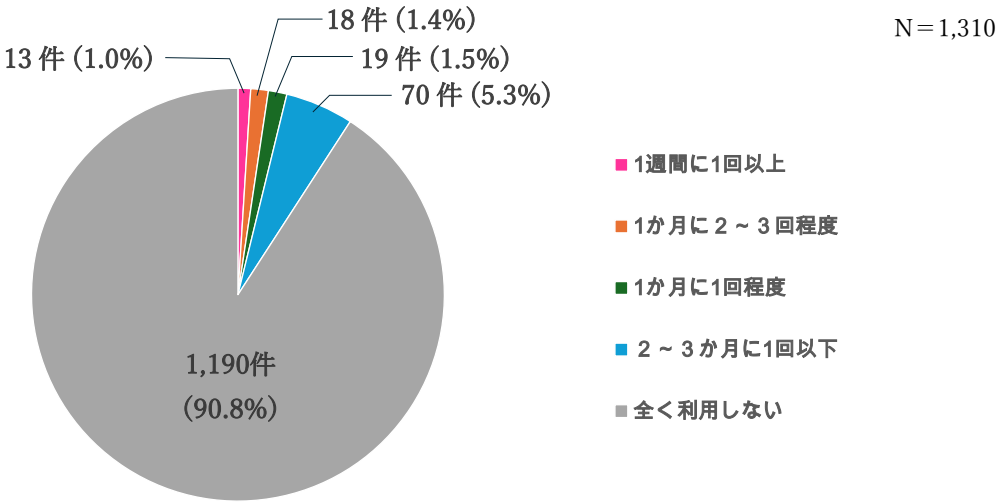
85.0%が「全く利用しない」と回答しています。

6-6）しおナビバス×お住まいの地域



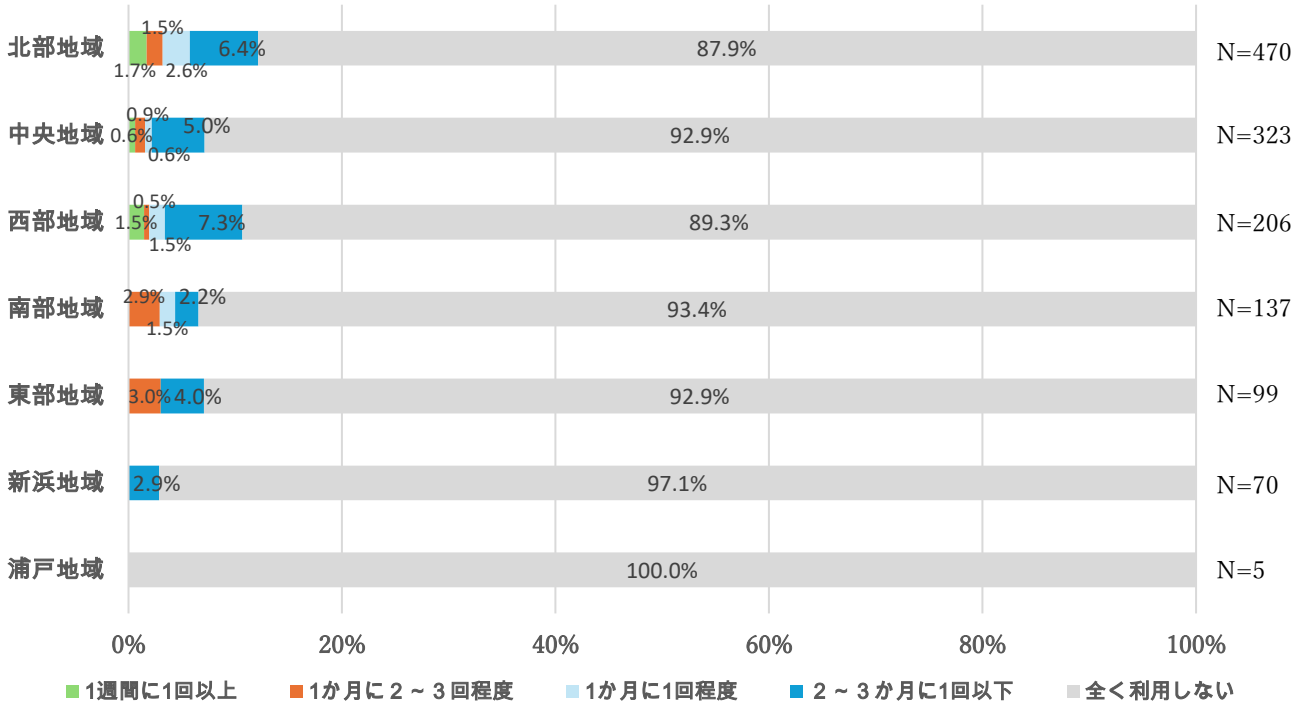
東部地域において、鉄道、ミヤコーバスに続いて、しおナビバスでも「全く利用しない」と回答した人の割合が 93.9%と最も多くなっています。これは地域内に停留所がないことが大きな要因としてあげられる一方で「1 週間に 1 回以上」利用する人は新浜地域が最も多い 4.3%、次いで北部地域の 3.8%となっています。

6-7) NEW しおナビバス



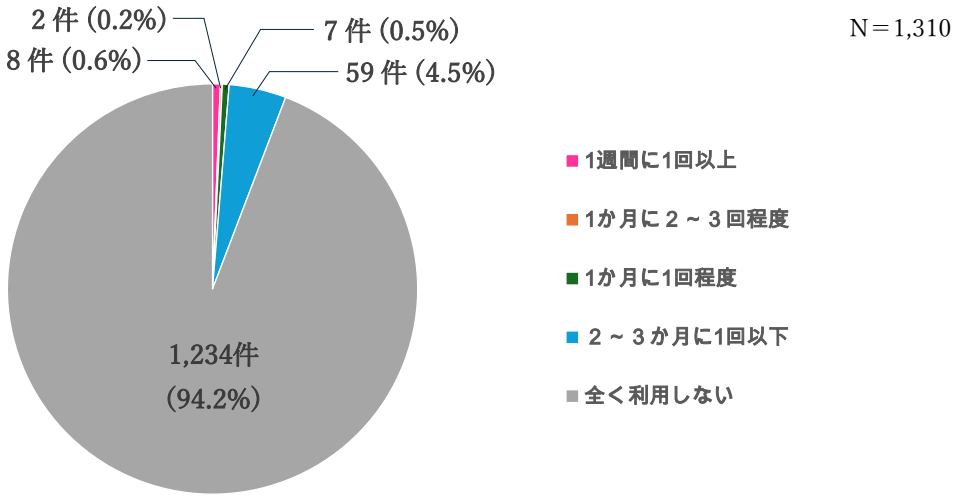
90.8%が「全く利用しない」と回答しています。

6-8）NEW しおナビバス×お住まいの地域



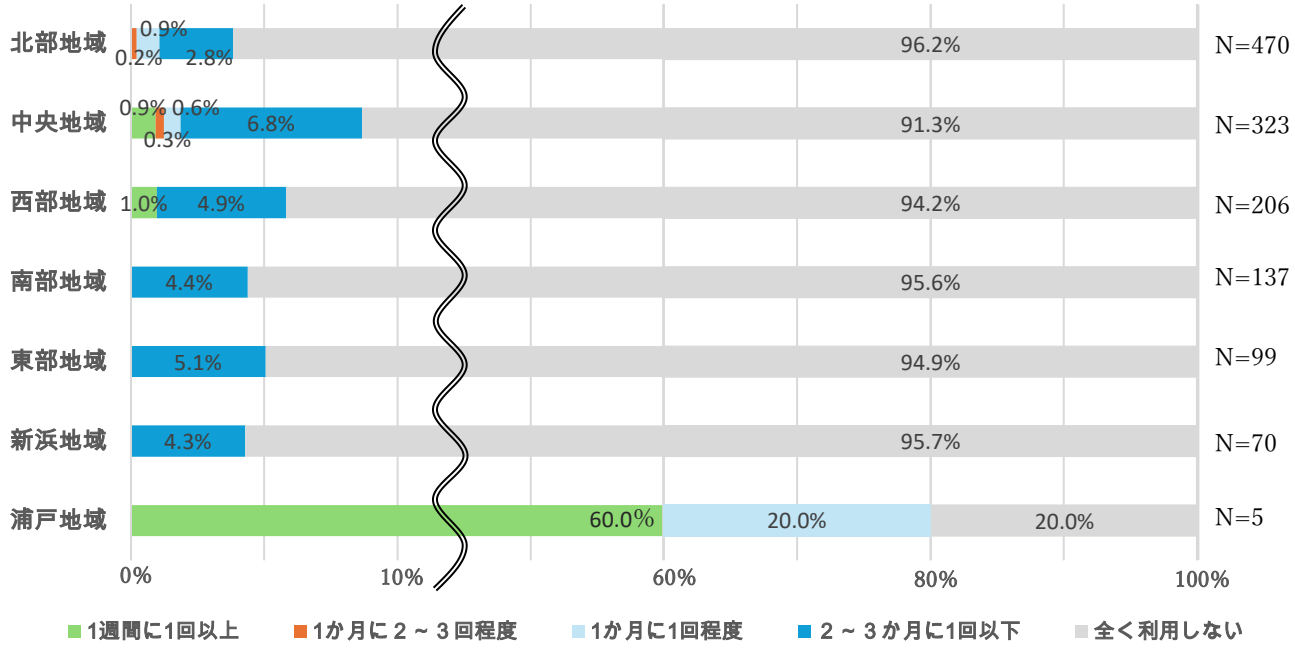
他の公共交通と比較すると利用率が低く、ほぼすべての地域で約 9 割が「全く利用しない」と回答しています。南部地域には 3 つ、東部地域には 7 つの停留所があるが、「1 週間に 1 回以上」利用すると回答した人はいませんでした。

6-9）塩竈市営汽船



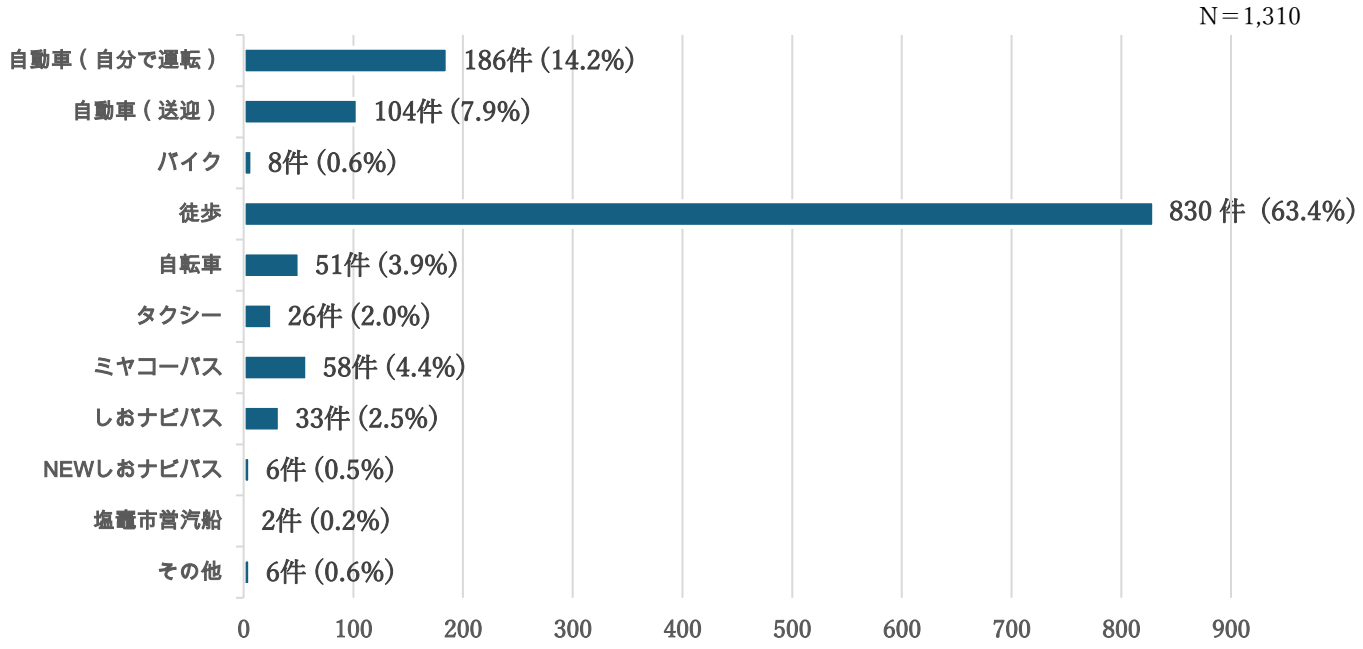
94.2%が「全く利用しない」と回答し、月に複数回利用する人は１０件のみでした。

6-10）塩竈市営汽船×お住まいの地域



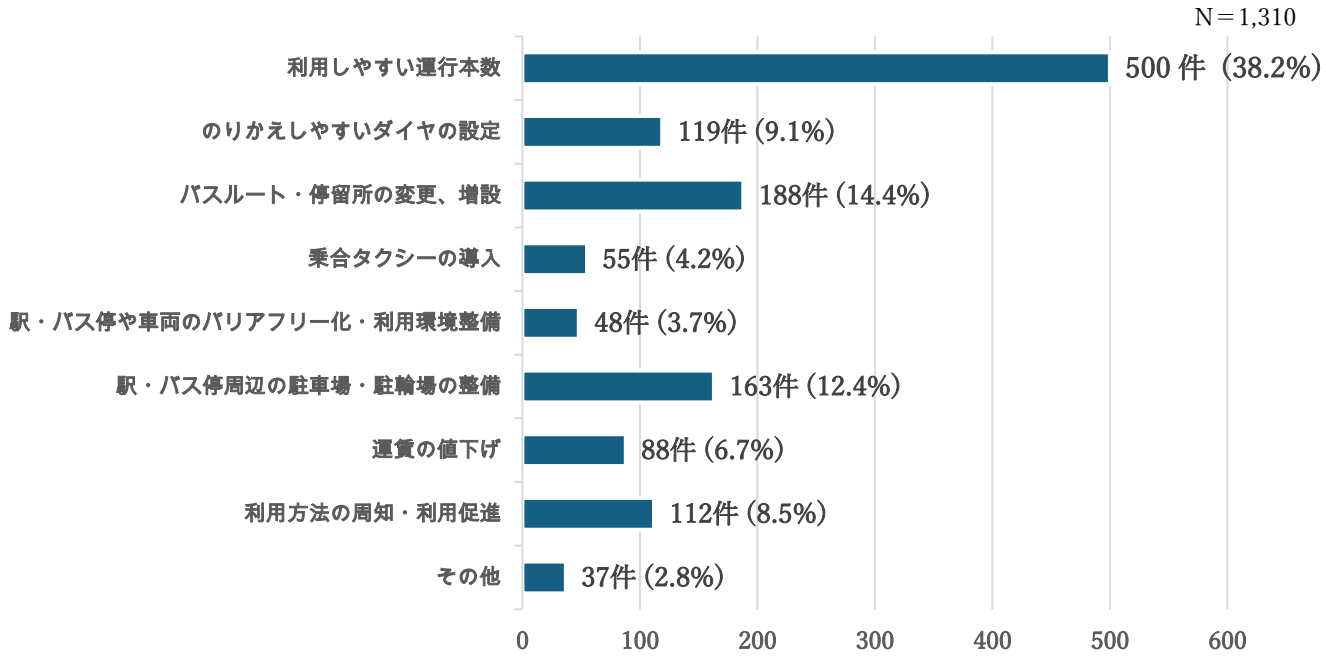
浦戸地域から本島への唯一の交通手段であることから 60.0%が「1 週間に 1 回以上」利用すると回答しています。

7）自宅から最寄りの駅までの交通手段について



63.4%が「徒歩」で最寄り駅まで移動していると回答し、次いで「自動車（自分で運転)」「自動車（送迎)」となっています。

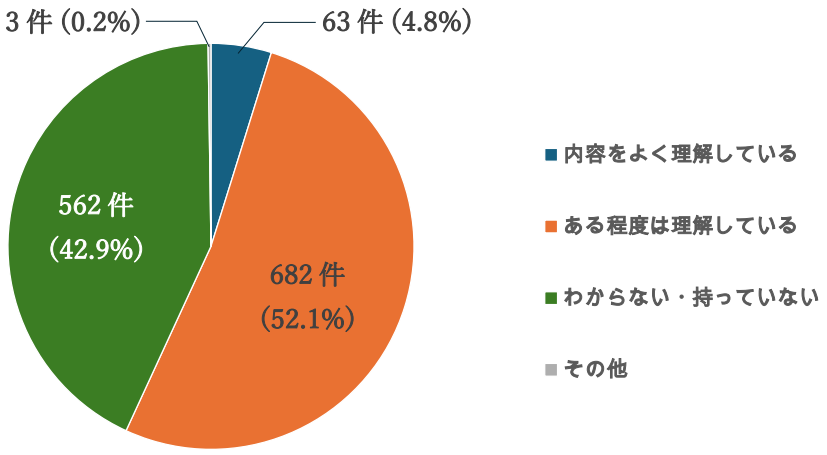
8）鉄道やバスを利用しやすくする対策について



38.2%が「利用しやすい運行本数」と回答し、次いで「バスルート・停留所の変更、増設」「駅・バス停周辺の駐車場・駐輪場の整備」となっています。

9）塩竈市で発行する「防災ガイドブック」について

N＝1,310

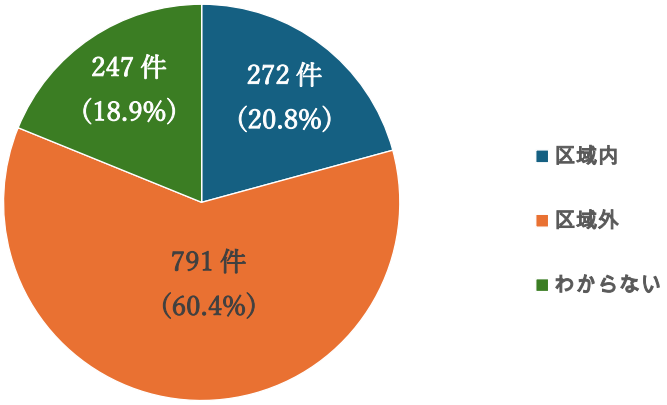


半数以上の 682 件が「ある程度は理解している」と回答し「内容をよく理解している」と回答したのは 63 件にとどまっています。また、4 割以上にあたる 562 件が「わからない・持っていない」と回答しています。

10）お住まいの災害ハザードエリアの該当状況について

10-1）津波浸水想定区域

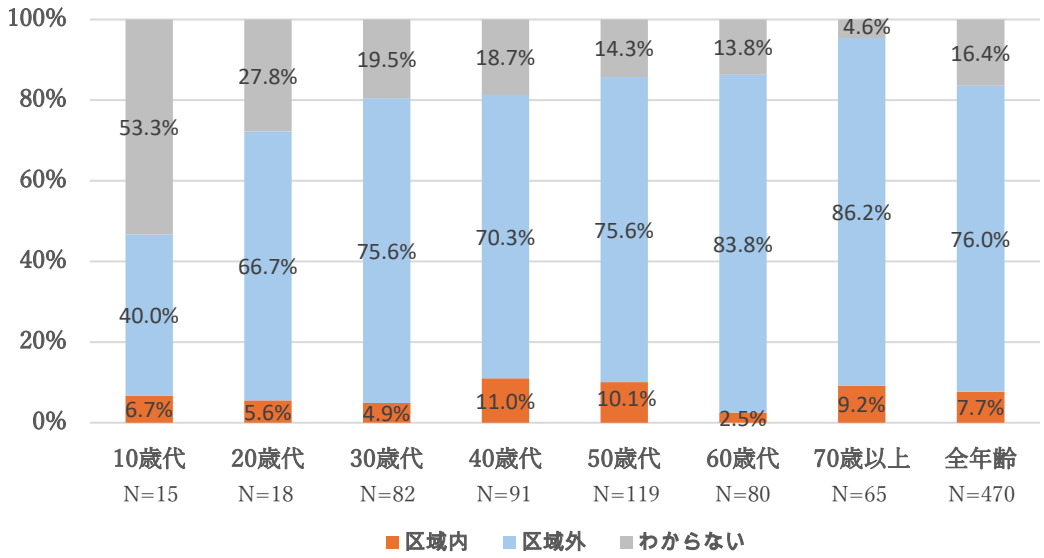
N＝1,310



「わからない」と回答した人は 18.9%であり、洪水浸水想定区域（10-3）の 25.7%、土砂災害警戒区域（10-5）の 38.9%と比較すると、認知度の高い災害ハザードであるといえます。

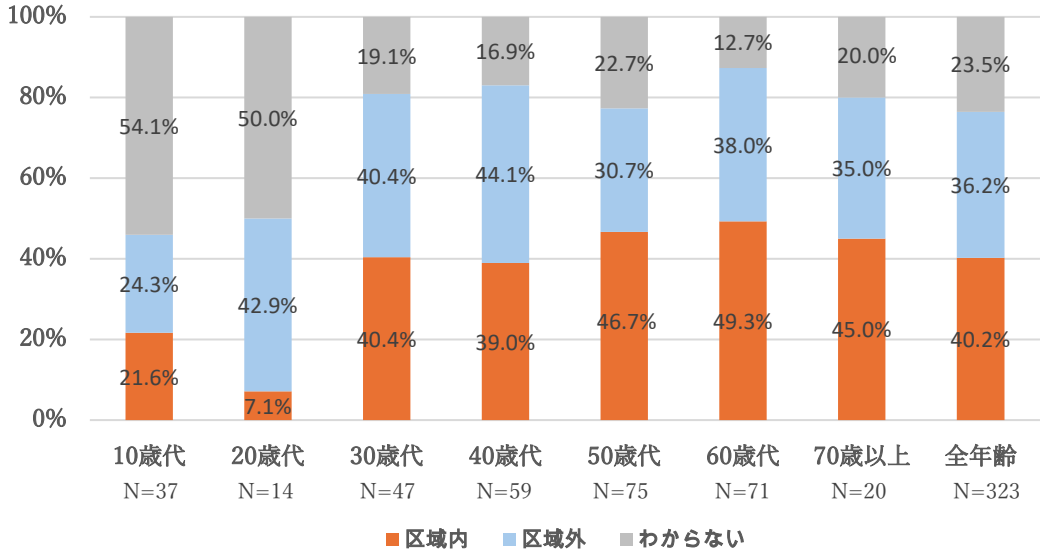
10-2）津波浸水想定区域×お住まいの地域×年齢

A）北部地域



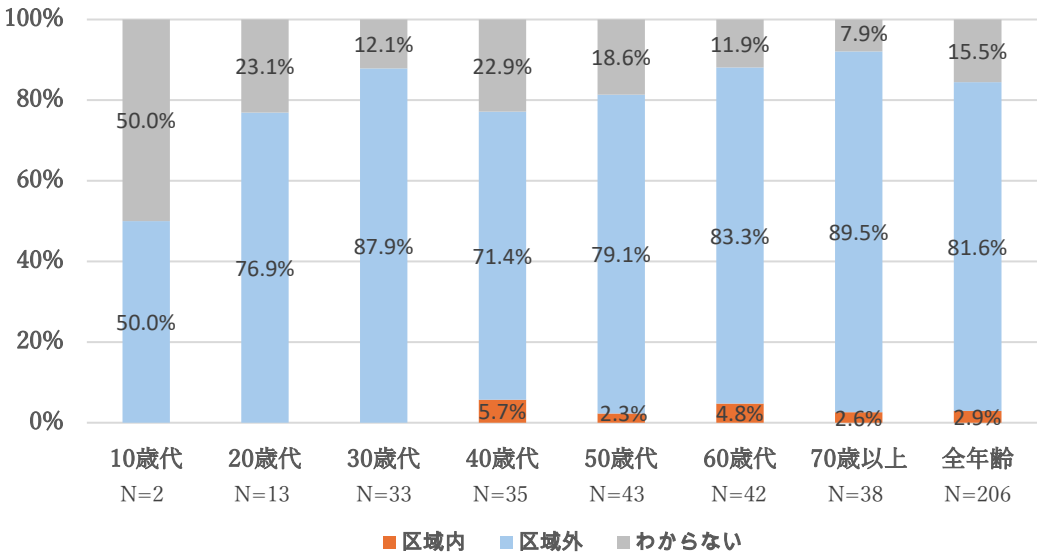
北部地域では、津波浸水想定区域に該当しているかの認知度は年齢と比例して高くなっており「わからない」と回答した人は 10 歳代が最も多く 53.3%、70 歳以上で最も少ない 4.6%となっています。

B）中央地域



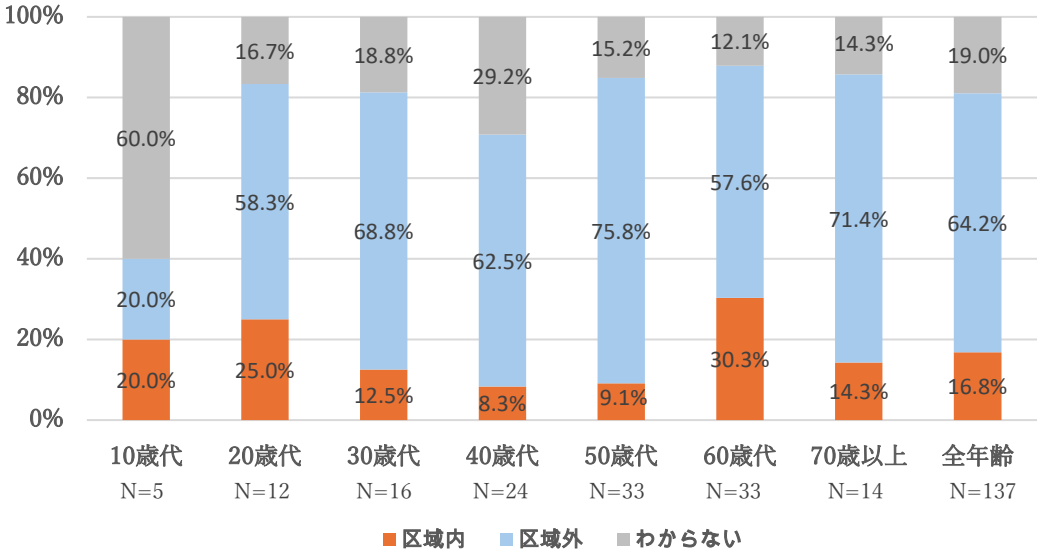
地域面積の半分以上が津波浸水想定区域に該当している中央地域であるが、全年齢において「わからない」と回答した人が 23.5%と新浜地域（27.1%）に次いで高くなっています。特に 10 歳代、20 歳代では半数以上が「わからない」と回答しています。

C）西部地域



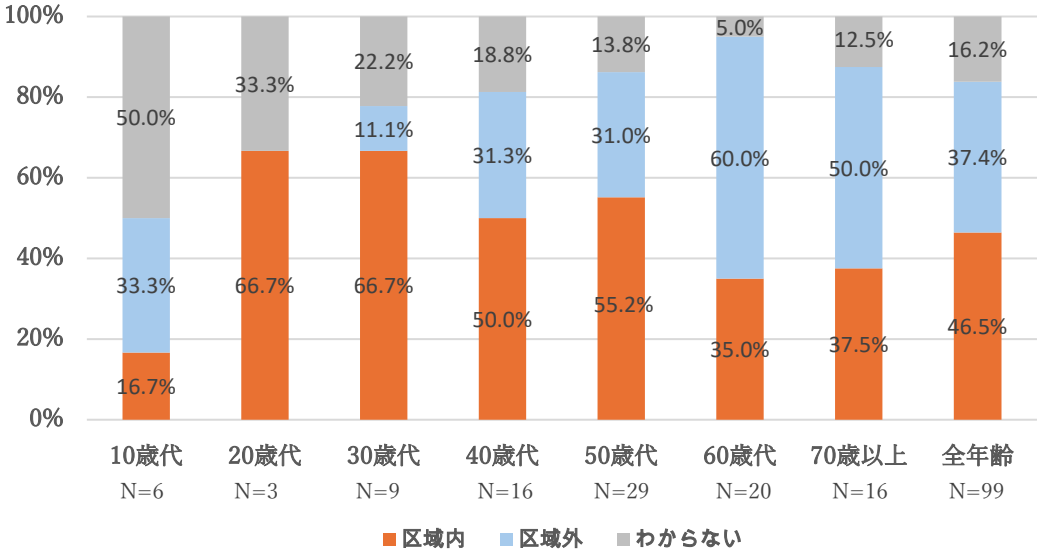
海から離れた地域であり、津波浸水想定区域に該当している箇所はごく一部となっている西部地域では、多くの方が「区域外」に居住していることを認識している結果となっています。全年齢において「わからない」と回答した人は 15.5%と全地域の中で最も低くなっています。

D）南部地域



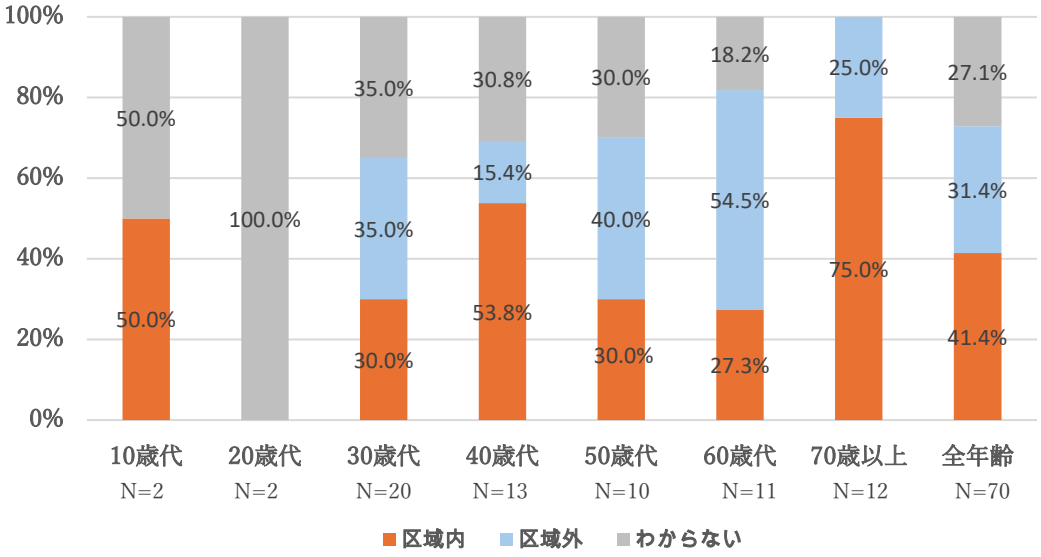
南部地域において、20 歳代で「わからない」と回答した人は 16.7%と全地域の 20 代の中で最も少なく、認知度が高くなっています。

E）東部地域



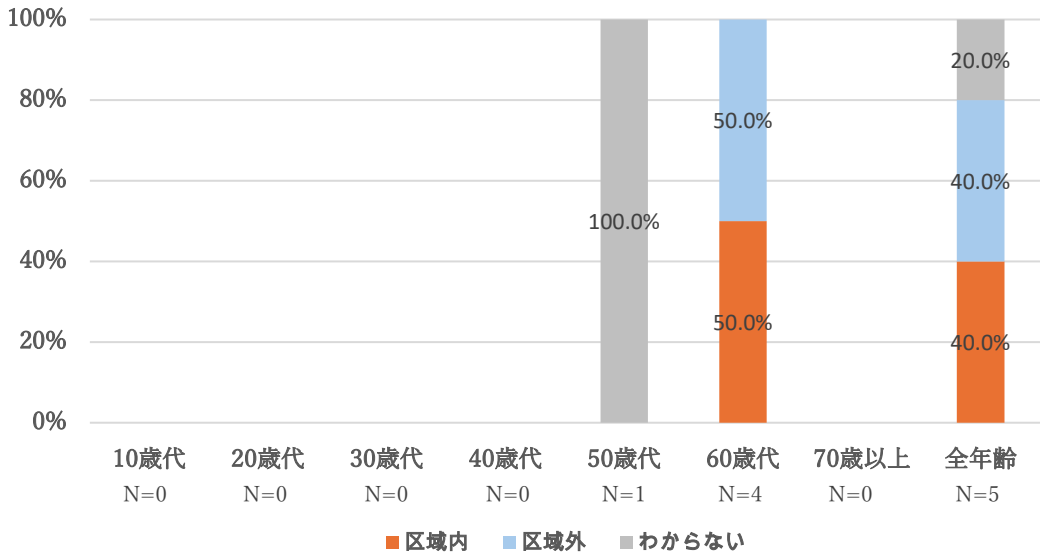
東部地域では、年代によって結果が大きく異なり、20 歳代、30 歳代では 66.7%が「区域内」と回答したのに対して、60 歳代、70 歳以上では「区域外」であるとの回答が多くなっています。

F）新浜地域



新浜地域では、70 歳以上の 75.0%が「区域内」に居住していると回答しています。指定避難所までの移動手段×お住まいの地域（11-1）では、徒歩で避難可能な方が他地域よりも少ないことから防災面において不安が残る結果となっています。

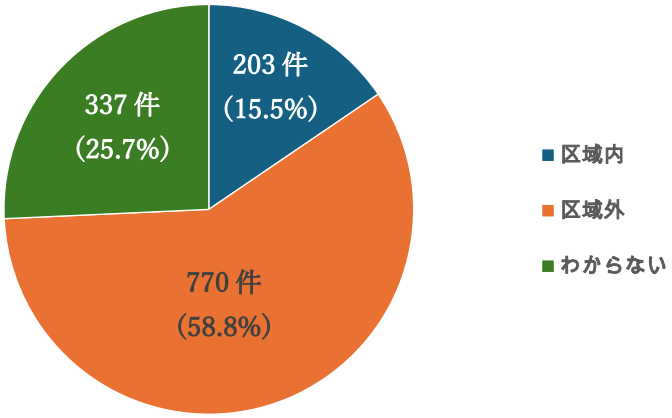
G）浦戸地域



浦戸地域では、50 歳代の 1 名が「わからない」と回答し、60 歳代の方がそれぞれ 2 名ずつ「区域内」「区域外」と回答しています。

10-3）洪水浸水想定区域

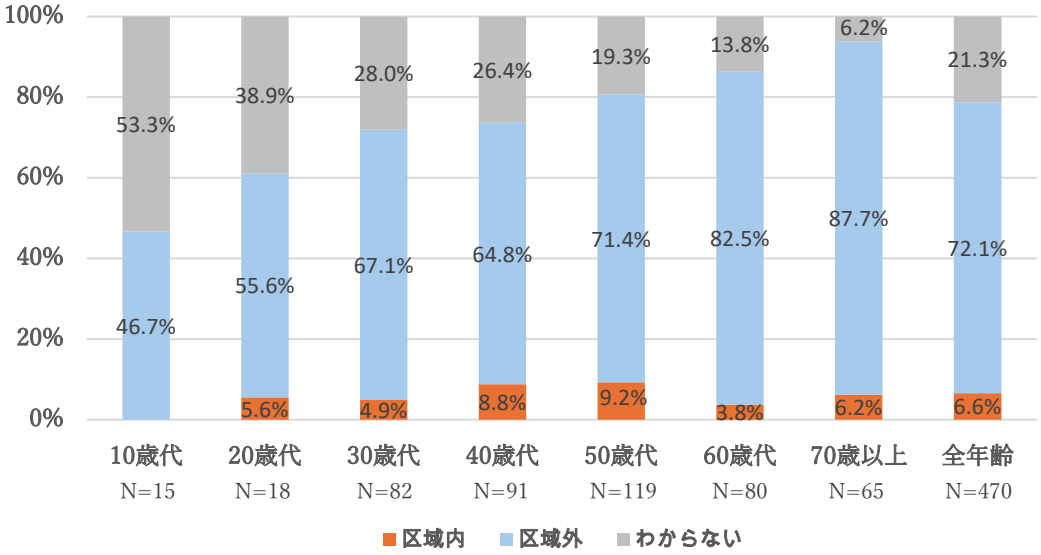
N＝1,310



「わからない」と回答した人は 25.7%であり、4 人に 1 人が洪水浸水想定区域の該当状況を把握していないことが分かりました。

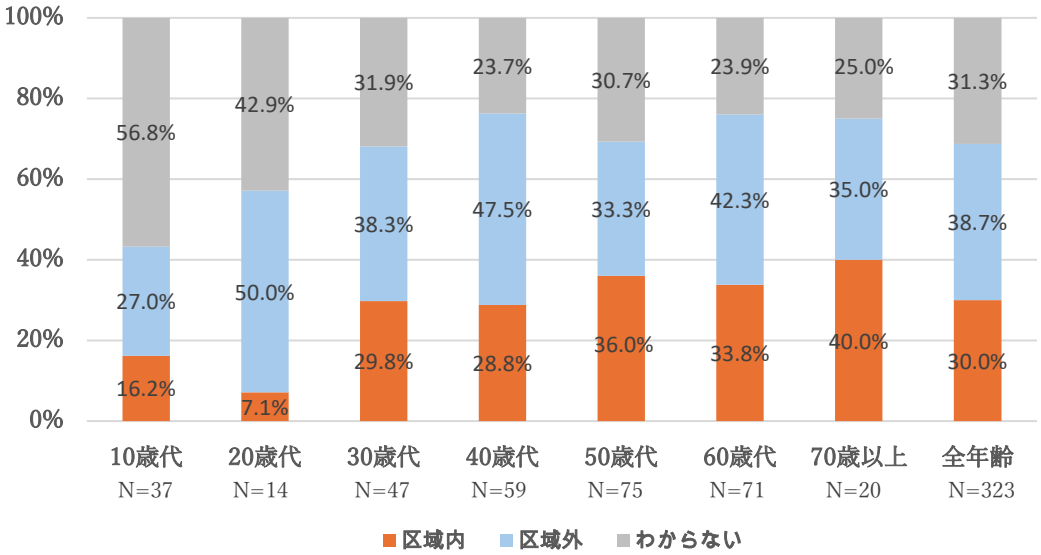
10-4）洪水浸水想定区域×お住まいの地域

A）北部地域



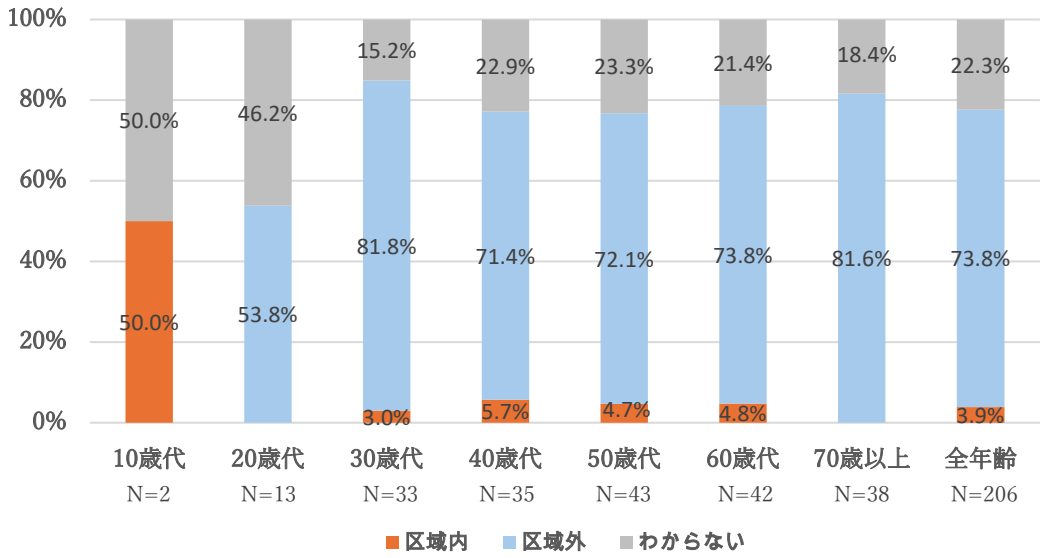
北部地域では、洪水浸水想定区域に該当しているかの認知度は年齢に比例しており、70 歳以上で「わからない」と回答した人は 6.2%と全地域で最も低くなっています。

B）中央地域



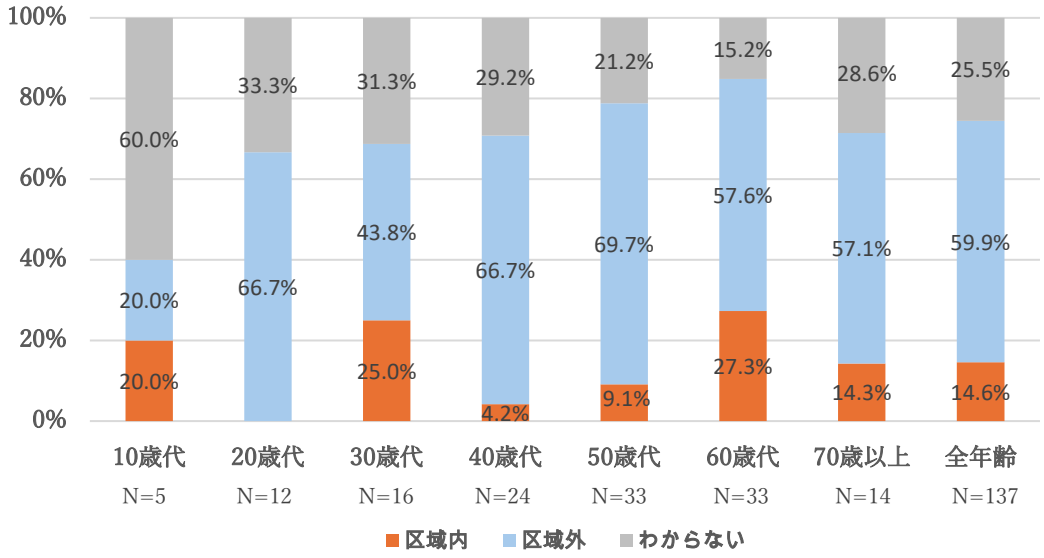
中央地域では、全年齢において「わからない」と回答した人が 31.3%と多く、新浜地域に次ぐ認知度の低さとなっています。

C）西部地域



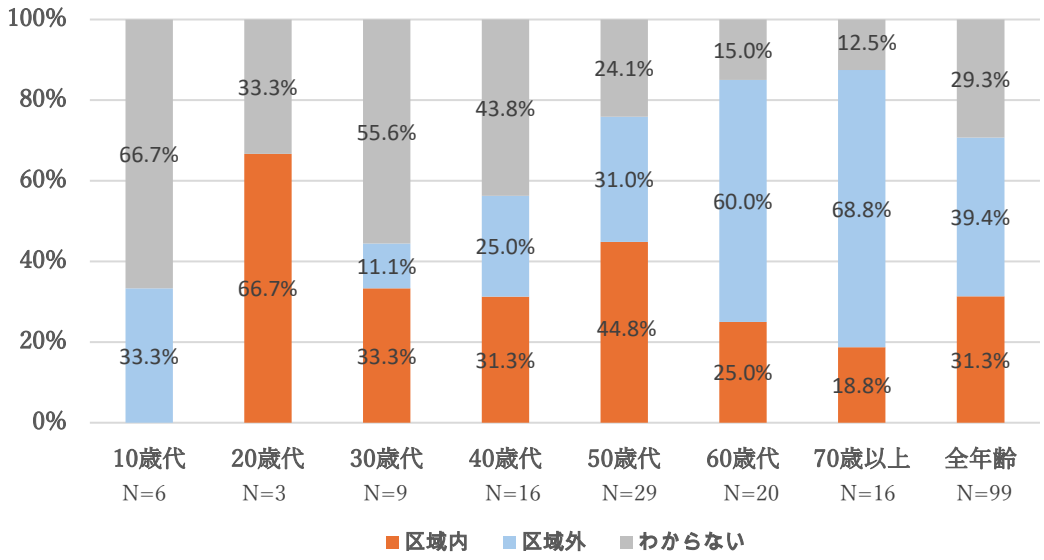
西部地域では、全年齢において「わからない」と回答した人は 22.3%と少なく、北部地域に次いで認知度の高い地域となっています。しかし、10 歳代、20 歳代の認知度には課題があり「わからない」と回答した人はそれぞれ 50.0%、46.2%となっています。

D）南部地域



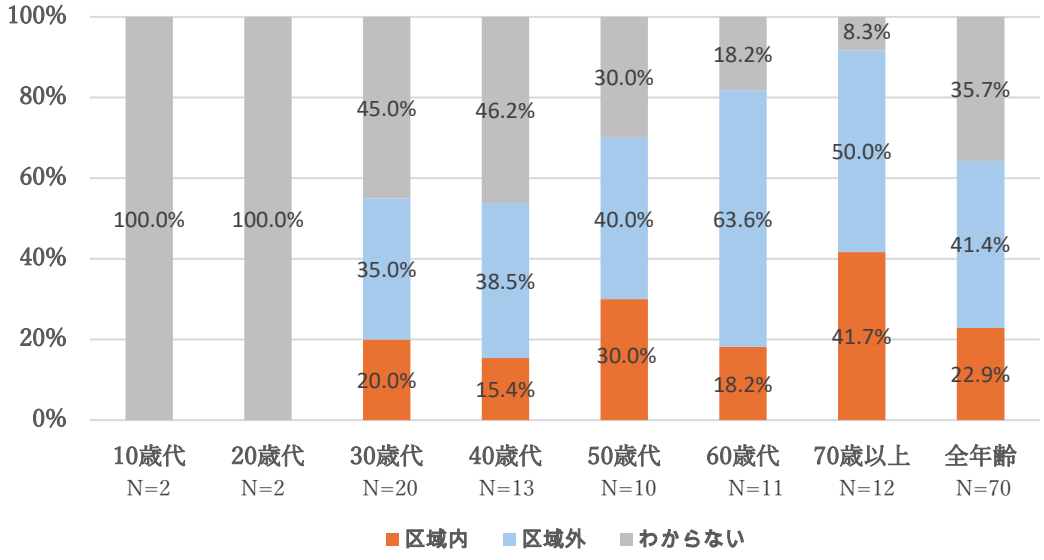
南部地域では、70 歳以上で「わからない」と回答した方が 28.6%と全地域で最も高くなっているが、全年齢で見ると、北部地域、西部地域に次ぐ認知度の高さとなっています。

E）東部地域



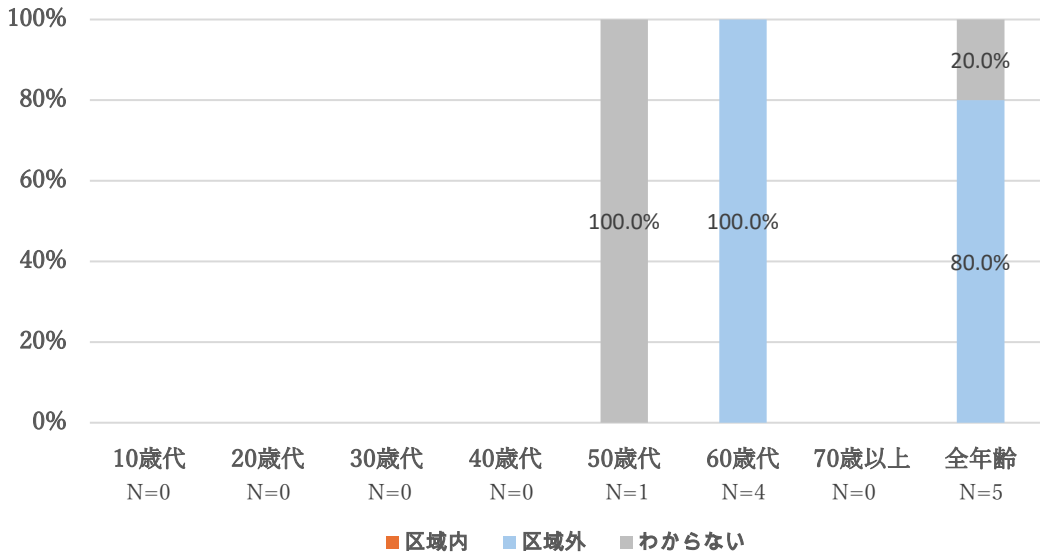
東部地域では、年代によって結果が大きく異なり、30 歳代で「わからない」と回答した人が 55.6%と全地域において認知度が最も低くなっている一方で、60 歳代、70 歳以上では、15.0%、12.5%と認知度が高い結果となっています。

F）新浜地域



新浜地域では、10 歳代、20 歳代の全員が「わからない」と回答しており、全年齢においても 35.7%が「わからない」と回答するなど、全地域で最も認知度が低い結果となっています。

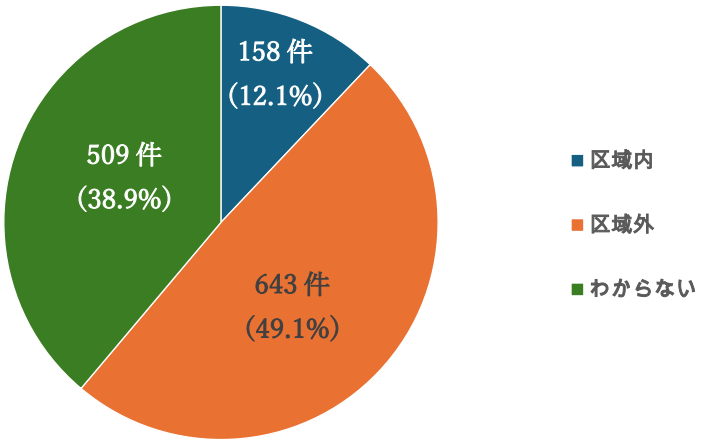
G）浦戸地域



浦戸地域では、50 歳代の 1 名が「わからない」と回答し、60 歳代の 4 名は「区域外」と回答しています。

10-5) 土砂災害警戒区域

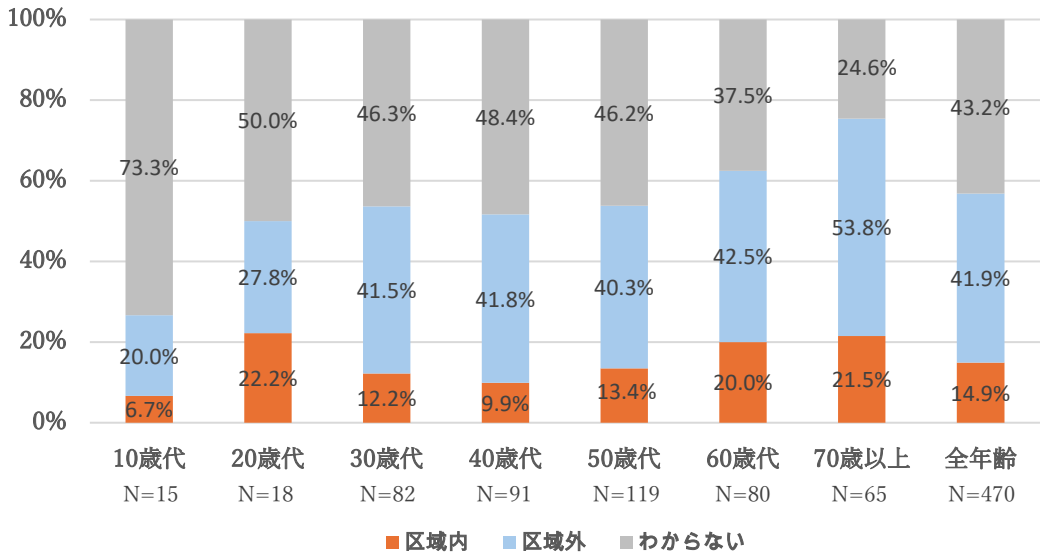
N＝1,310



「わからない」と回答した人は 38.9%と高くなっており、津波浸水想定区域（10-1）や洪水浸水想定区域（10-3）より認知度が低くなっています。

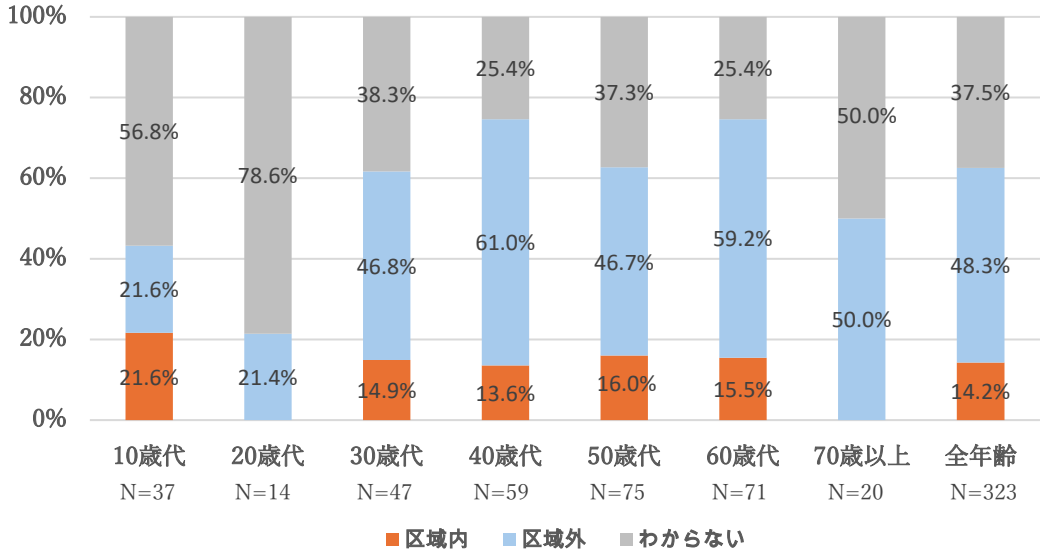
10-6）土砂災害警戒区域×お住まいの地域

A）北部地域



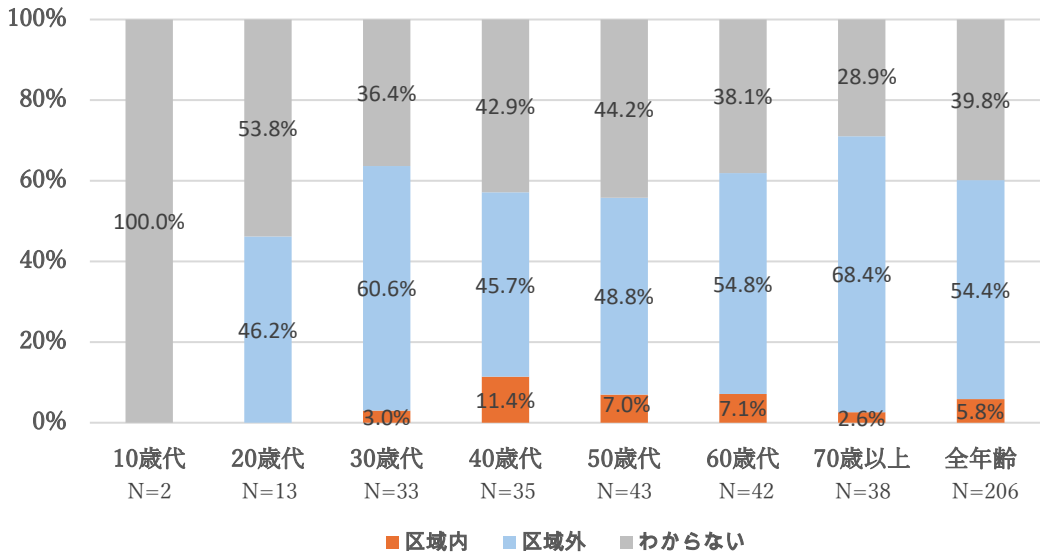
北部地域では、全年齢において「わからない」と回答した人の割合が全地域で最も高い 43.2%となっています。他地域と比較すると 50 歳代の認知度が低く、46.2%が「わからない」と回答しています。

B）中央地域



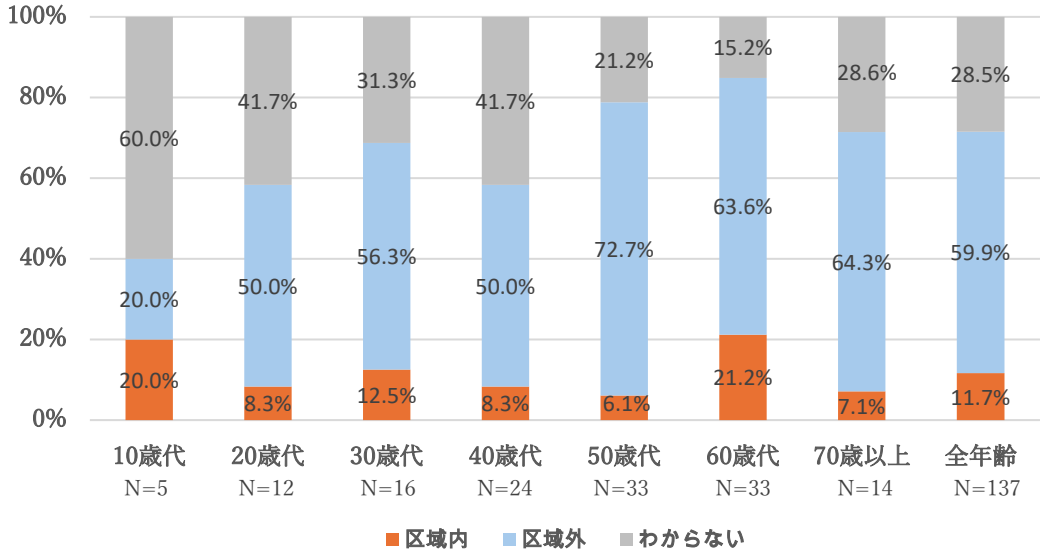
中央地域では、年代によって結果が大きく異なり、20 歳代の 78.6%が「わからない」と回答した一方で、40 歳代、60 歳代共に「わからない」と回答した人は 25.4%にとどまっています。

C）西部地域



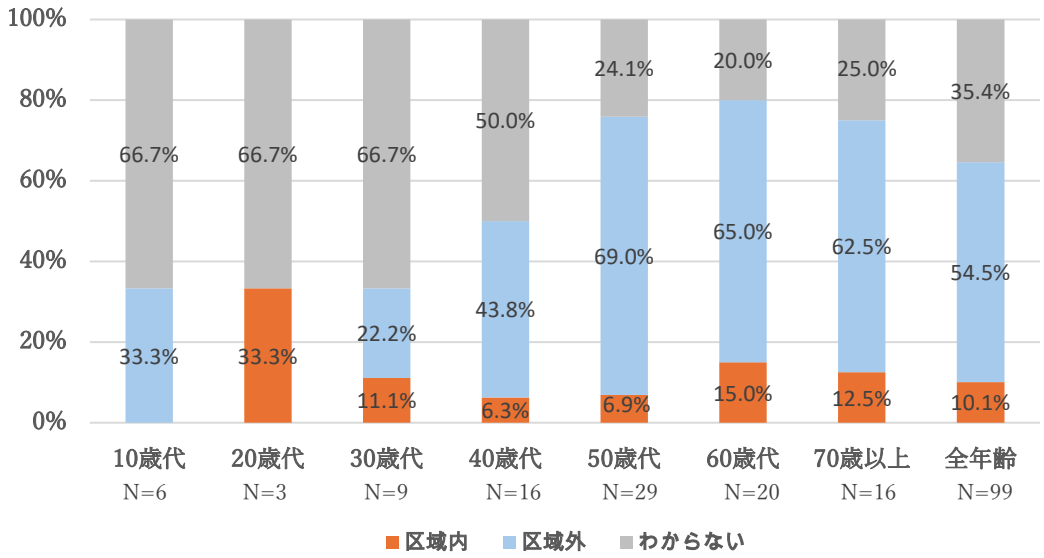
西部地域では、60 歳代の認知度が全地域の中で最も低く「わからない」と回答した人の割合が 38.1%となっています。

D）南部地域



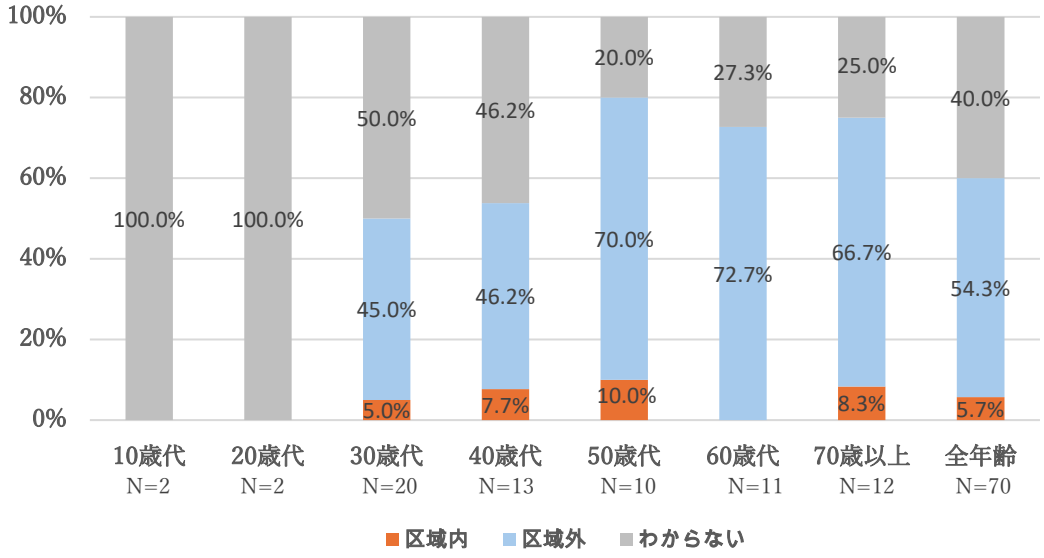
南部地域では「わからない」と回答した人の割合が全地域で最も少ない 28.5%となっており、60 歳代においては「わからない」と回答した人は 15.2%にとどまっています。

E）東部地域



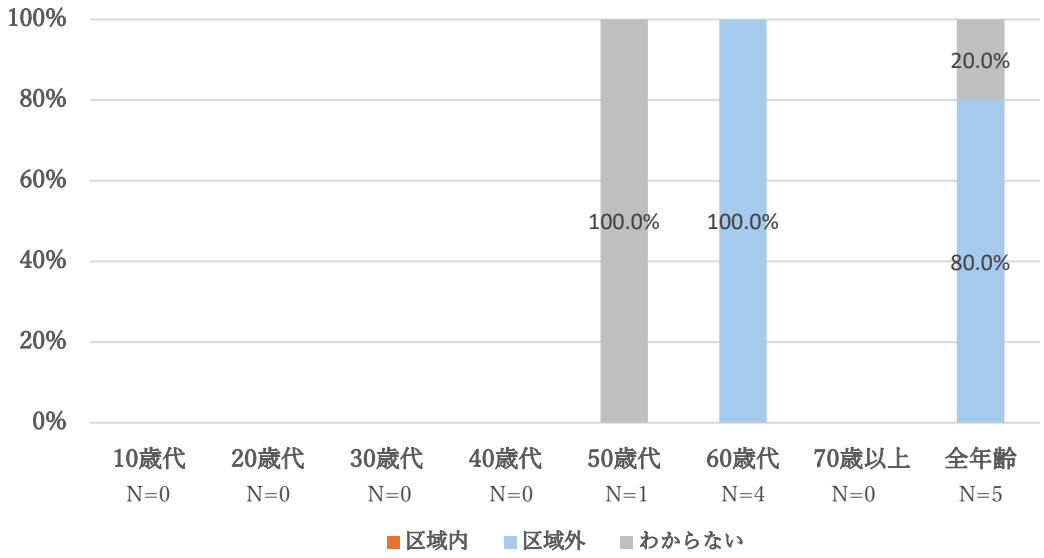
東部地域では、10 歳代、20 歳代、30 歳代の 66.7%が「わからない」と回答した一方で、50 歳代、60 歳代、70 歳以上において「わからない」と回答した人は 20%台と、年代ごとの認知度が大きく異なる結果となっています。

F）新浜地域



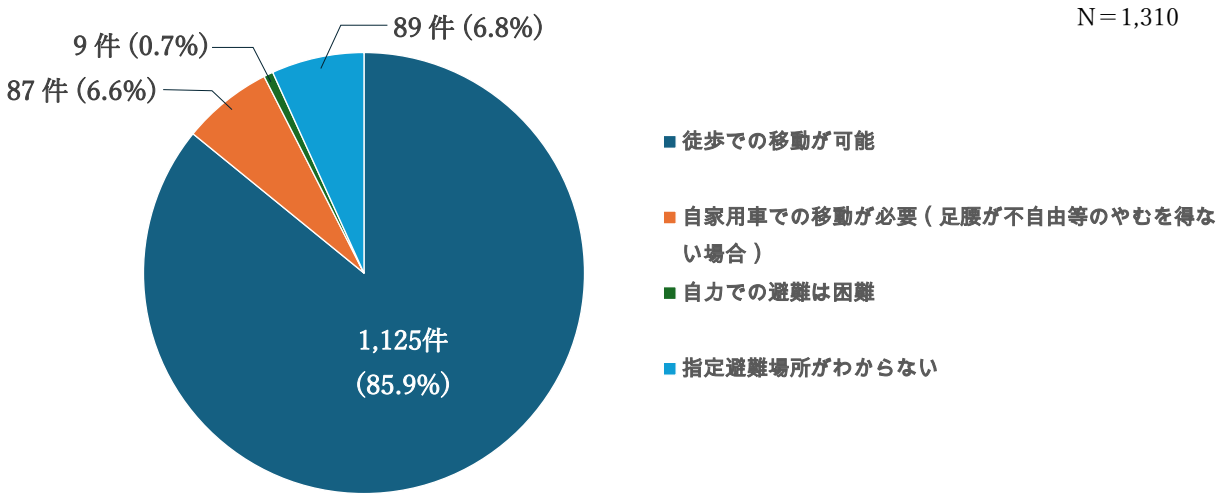
新浜地域では、10 歳代、20 歳代の全員が「わからない」と回答しており、全年齢においても 40.0%が「わからない」と回答しており、北部地域に次いで認知度が低い結果となっています。

G）浦戸地域



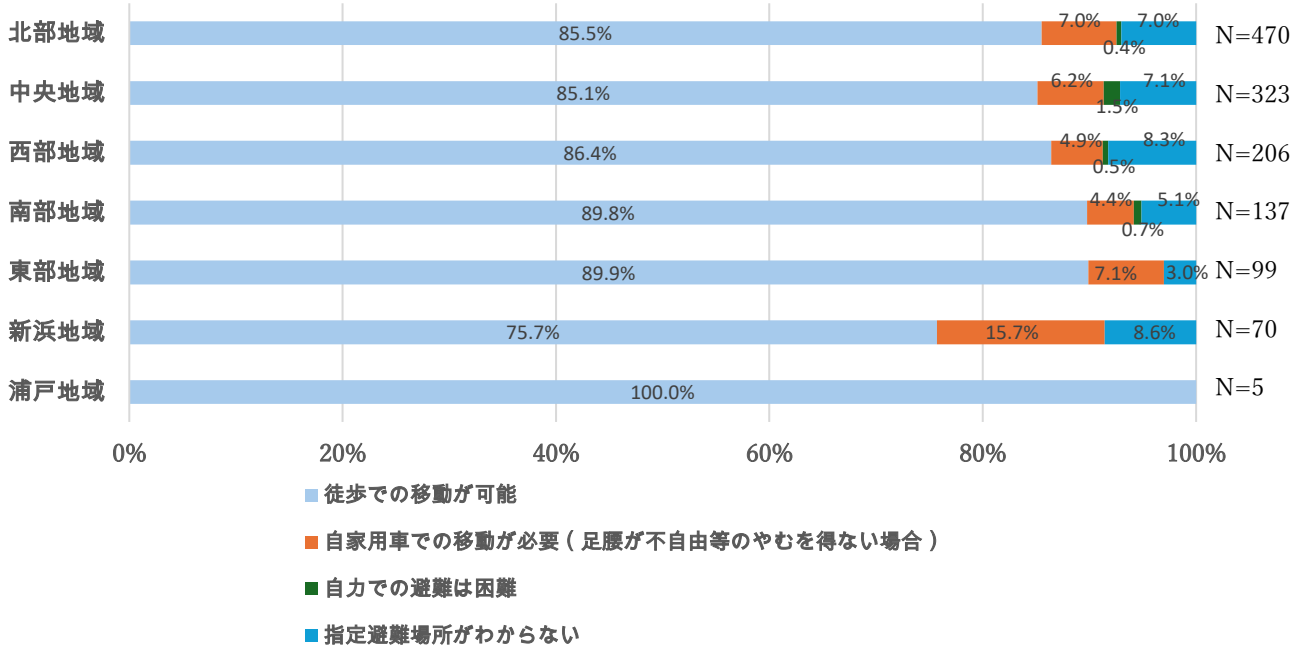
浦戸地域では、50 歳代の 1 名が「わからない」と回答し、60 歳代の 4 名は「区域外」と回答しています。

11）指定避難場所までの移動手段について（原則は徒歩避難）



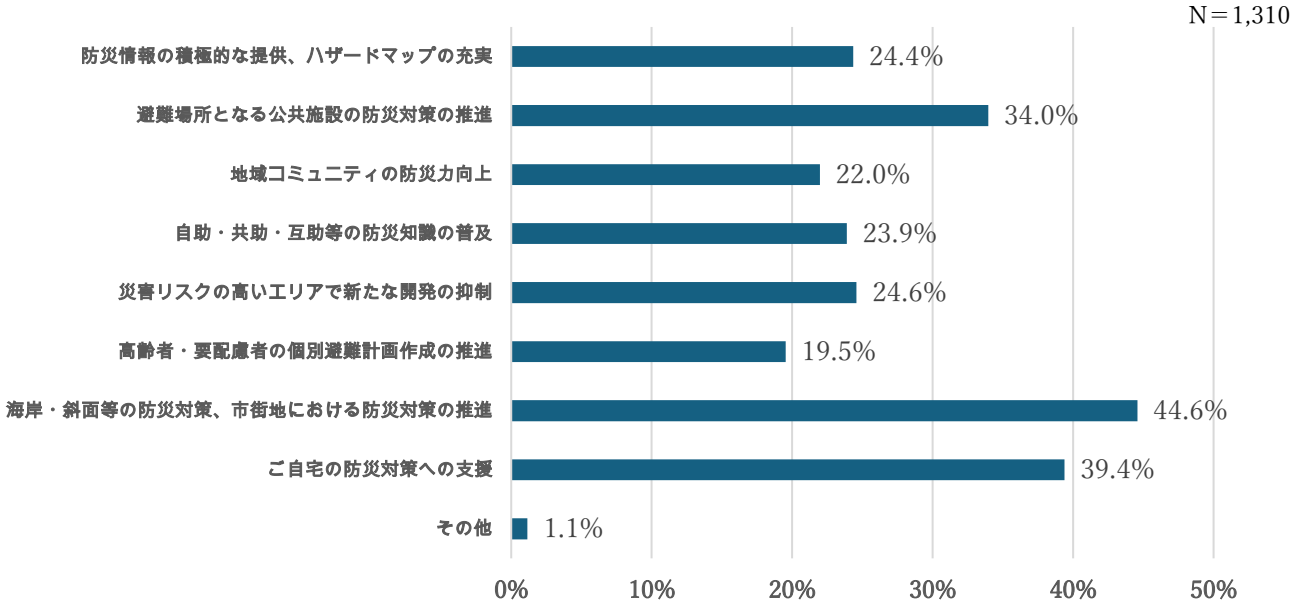
85.9%は指定避難所を把握しており、徒歩での移動が可能であると回答しています。

11-1）指定避難所までの移動手段×お住まいの地域



新浜地域を除く、全地域で 85%以上の方が「徒歩での移動が可能」であると回答しています。新浜地域では「自家用車での移動が必要」な方の割合が 15.7%と他地域の 2 倍以上を示しており「指定避難所がわからない方」(8.6%) の割合も最も高くなっています。また、中央地域では、「自力での避難は困難」と回答した方が 1.5%と他地域の 2 倍以上となっています。

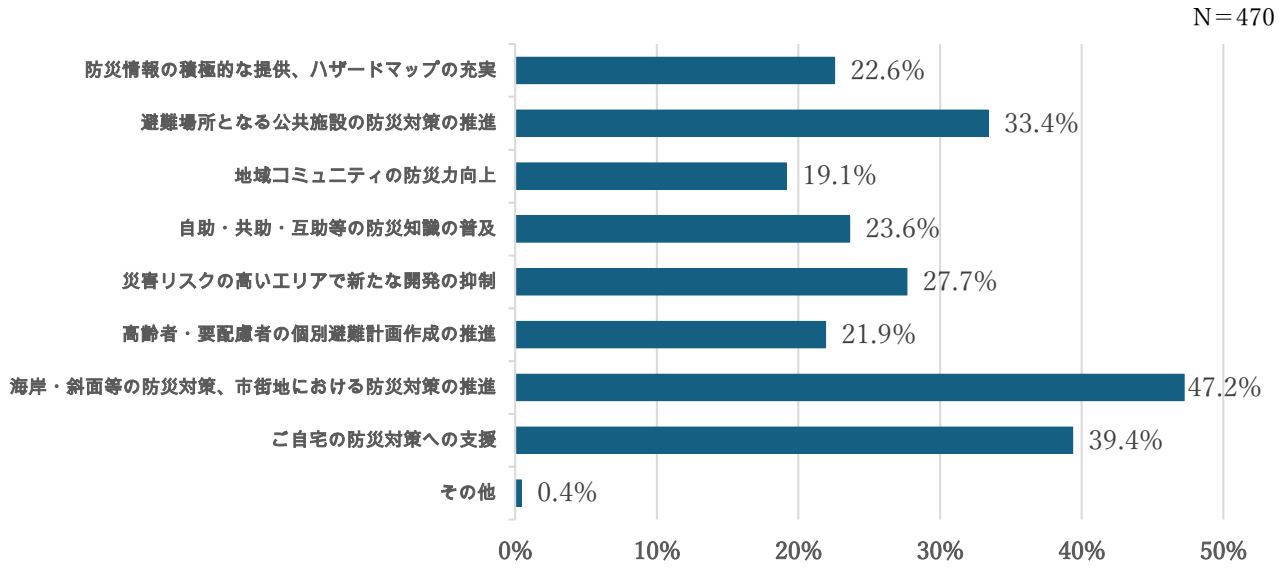
12）災害を減らすために、どのような対策が必要であるかについて（３つまで）



「海岸・斜面等の防災対策、市街地における防災対策の推進」が 44.6%で最も多く、次いで「ご自宅の防災対策への支援」「避難場所となる公共施設の防災対策の推進」が求められており、20%台の項目も 4 つあることから多様な対策が求められています。

12-1）災害を減らすために必要な対策×お住まいの地域

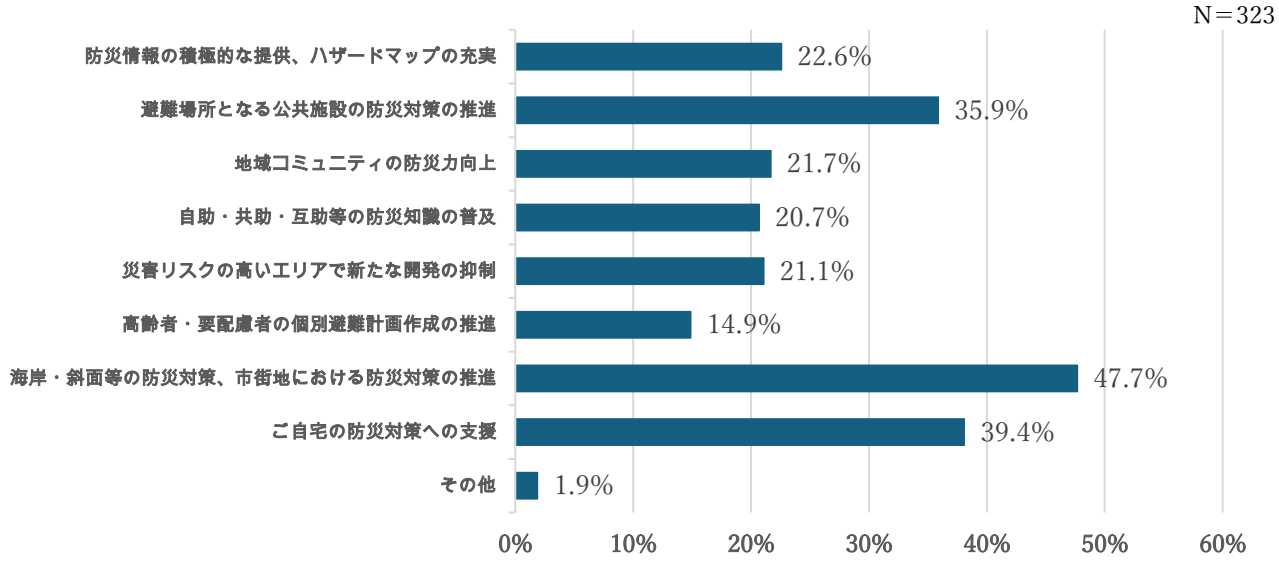
A）北部地域



北部地域では、「海岸・斜面等の防災対策、市街地における防災対策の推進」が最も多く、次いで「ご自宅の防災対策への支援」「避難場所となる公共施設の防災対策の推進」となっています。

「海岸・斜面等の防災対策、市街地における防災対策の推進」は約半数にあたる47.2%の方が必要な対策であると回答しています。

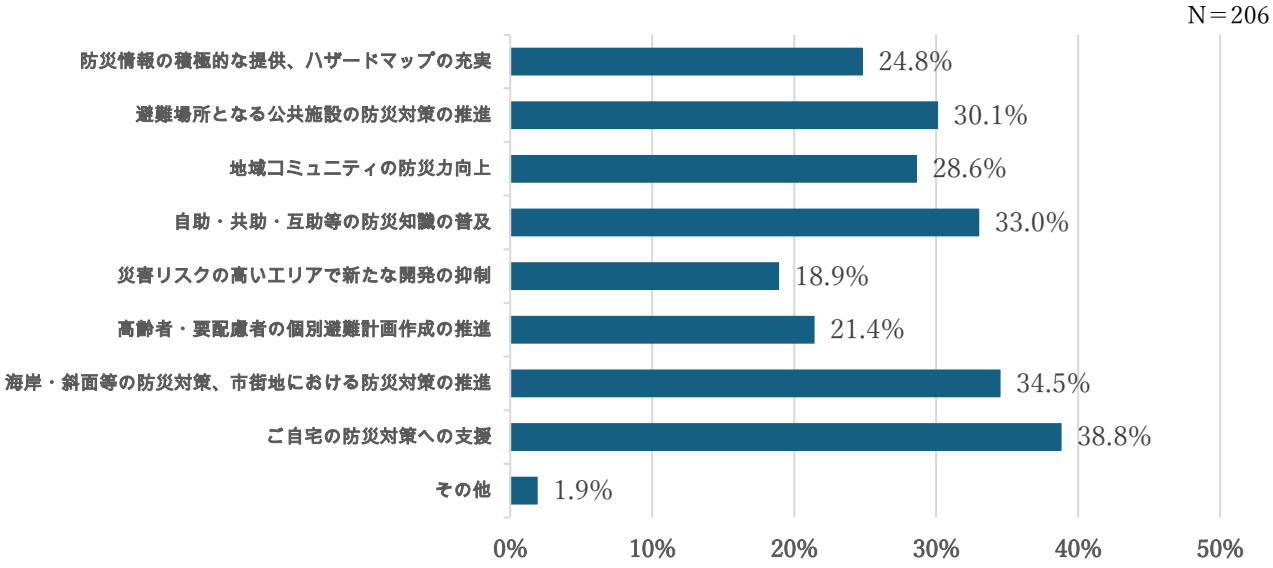
B）中央地域



中央地域では、「海岸・斜面等の防災対策、市街地における防災対策の推進」が最も多く、次いで「ご自宅の防災対策への支援」「避難場所となる公共施設の防災対策の推進」となっています。

北部地区と同様に、「海岸・斜面等の防災対策、市街地における防災対策の推進」は約半数にあたる47.7%の方が必要な対策であると回答しています。

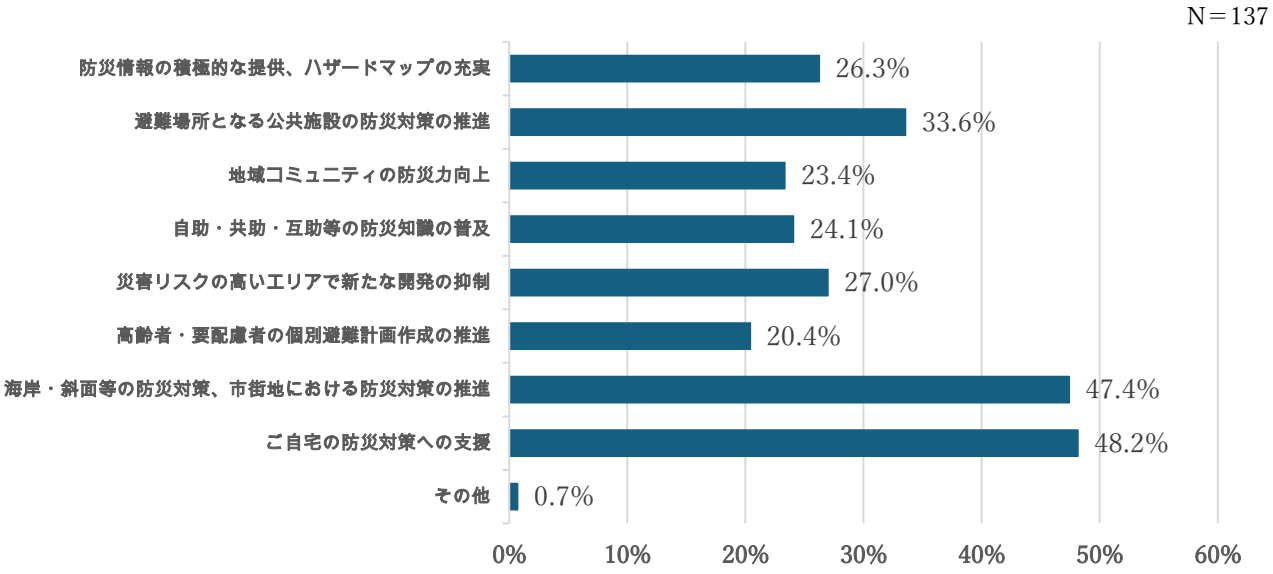
C）西部地域



西部地域では、「ご自宅の防災対策への支援」が最も多く、次いで「海岸・斜面等の防災対策、市街地における防災対策の推進」「自助・共助・互助等の防災知識の普及」となっています。

必要な対策上位 3 つに大きな差はなく、多様な対策が必要とされています。

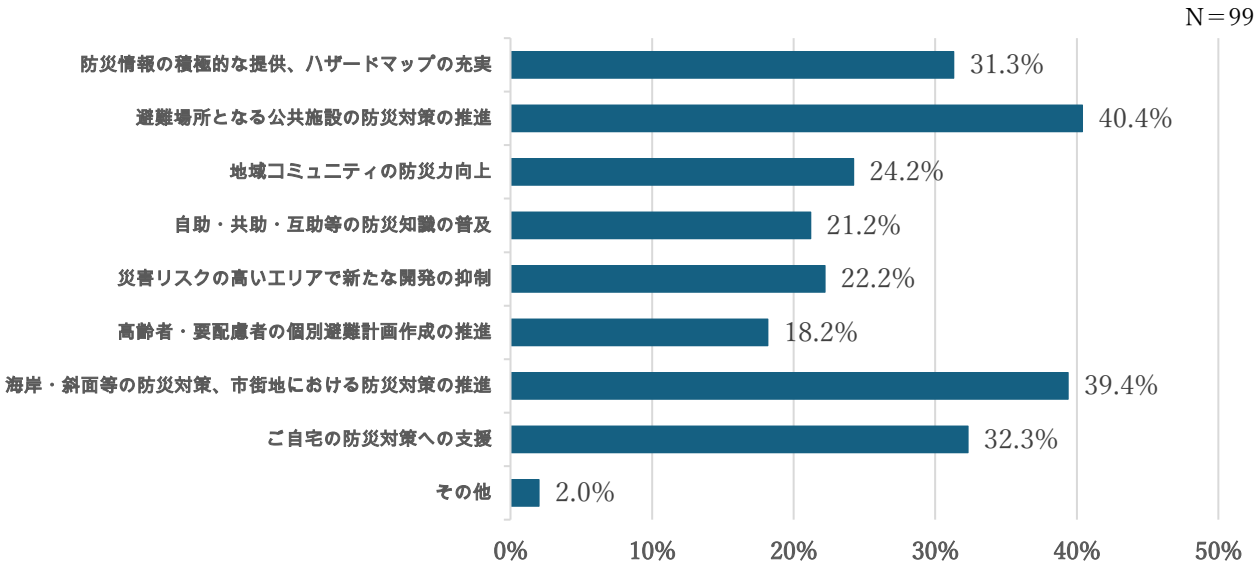
D）南部地域



南部地域では、「ご自宅の防災対策への支援」が最も多く、次いで「海岸・斜面等の防災対策、市街地における防災対策の推進」「避難場所となる公共施設の防災対策の推進」となっています。

「ご自宅の防災対策への支援」「海岸・斜面等の防災対策、市街地における防災対策の推進」ともに約半数にあたる 48.2%、47.4%が必要な対策として挙げています。

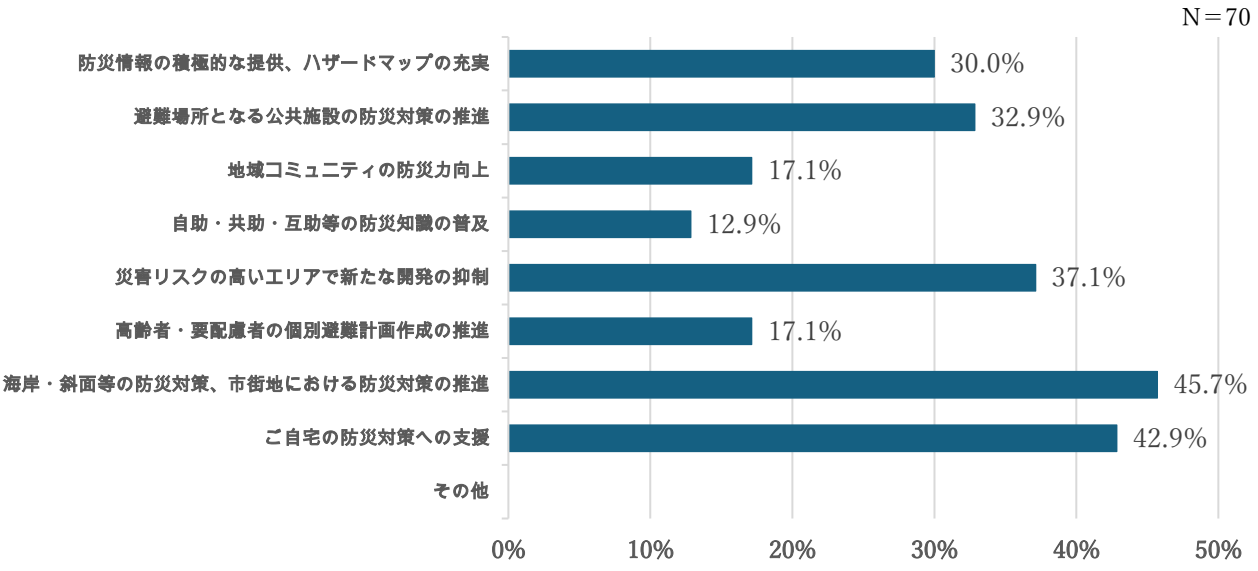
E）東部地域



東部地域では、「避難場所となる公共施設の防災対策の推進」が最も多く、次いで「海岸・斜面等の防災対策、市街地における防災対策の推進」「ご自宅の防災対策への支援」となっています。

「避難場所となる公共施設の防災対策の推進」が全地域の中で最も高い 40.4%となっています。

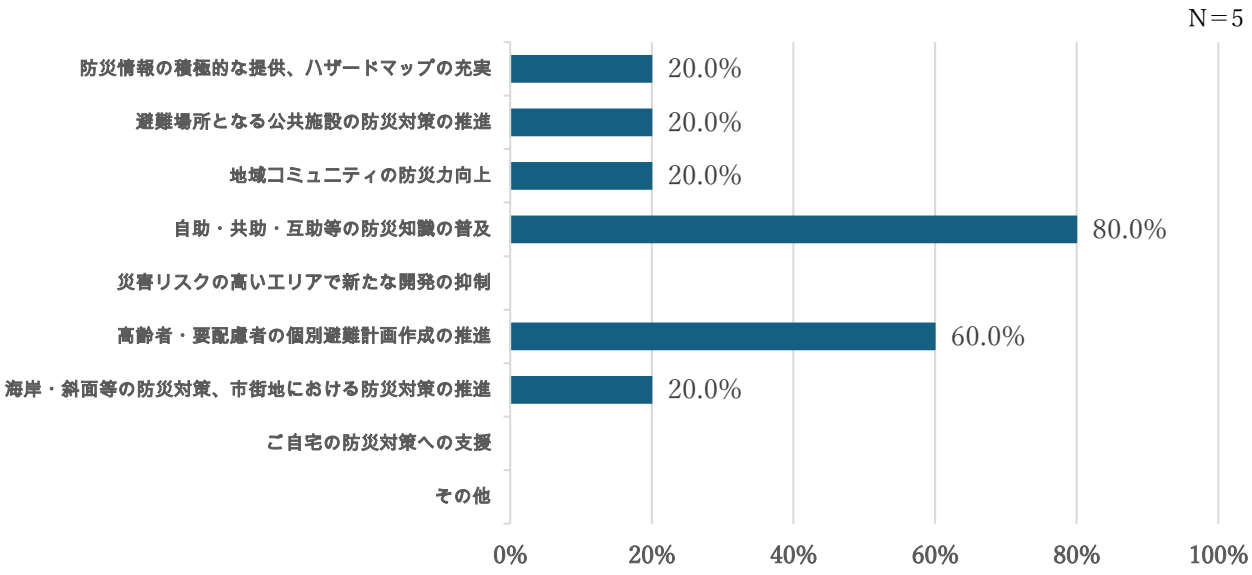
F）新浜地域



新浜地域では、「海岸・斜面等の防災対策、市街地における防災対策の推進」が最も多く、次いで「ご自宅の防災対策への支援」「災害リスクの高いエリアで新たな開発の抑制」となっています。

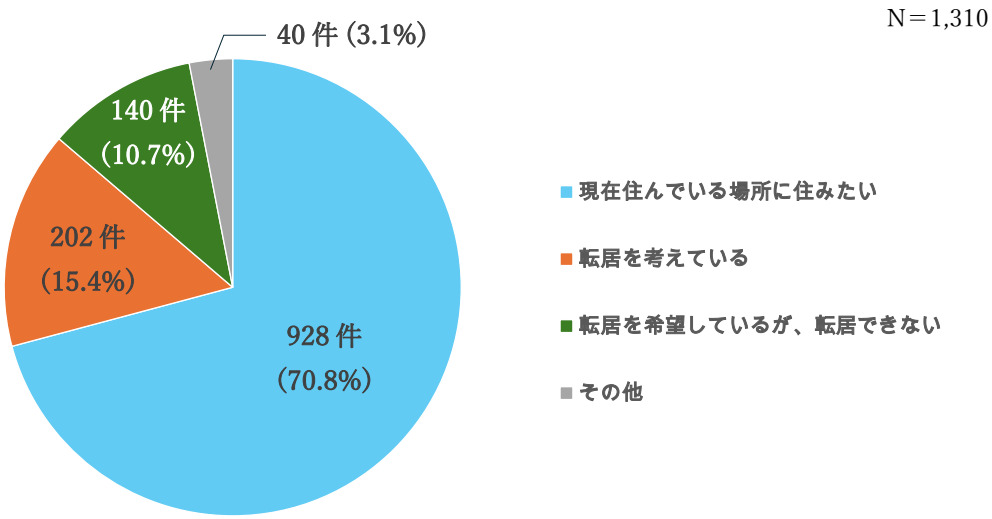
「災害リスクの高いエリアで新たな開発の抑制」は 37.1%の方が必要な対策として挙げているが、他地域で 30%を超える回答はないことから、新浜地域特有の対策であるといえます。

G）浦戸地域



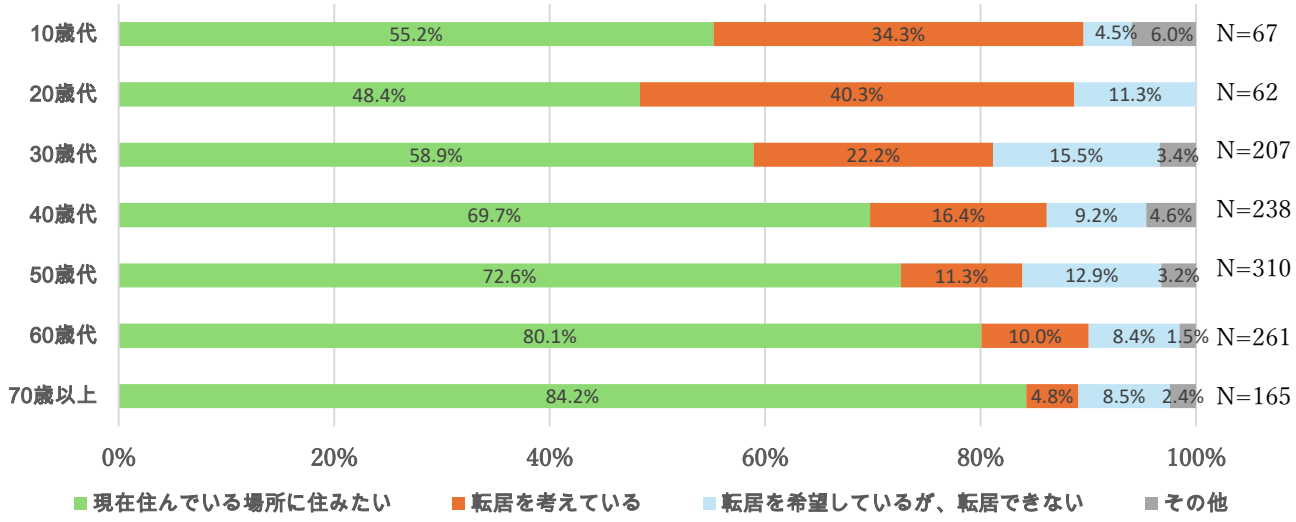
浦戸地域では、「自助・共助・互助等の防災知識の普及」が最も多く、次いで「高齢者・要配慮者の個別避難計画作成の推進」となっており、諸島部では他地域と異なる特有の対策が求められています。

13）これから概ね 20 年ごろまでのお住まいについて



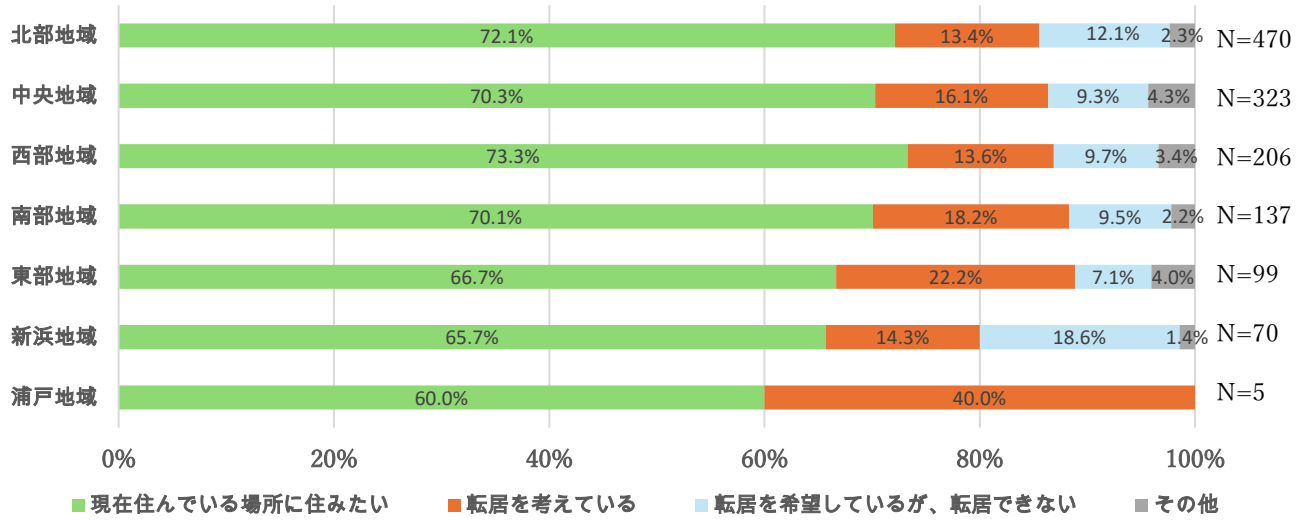
約 7 割が「現在住んでいる場所に住みたい」と回答しています。

13-1)居住意向 × 年齢



「現在住んでいる場所に住みたい」と回答した若年層は約半数にとどまっているのに対して、20 歳代以降は年齢と比例して上昇し続け、70 歳以上の方の 84.2%は住む続けたいと回答しています。

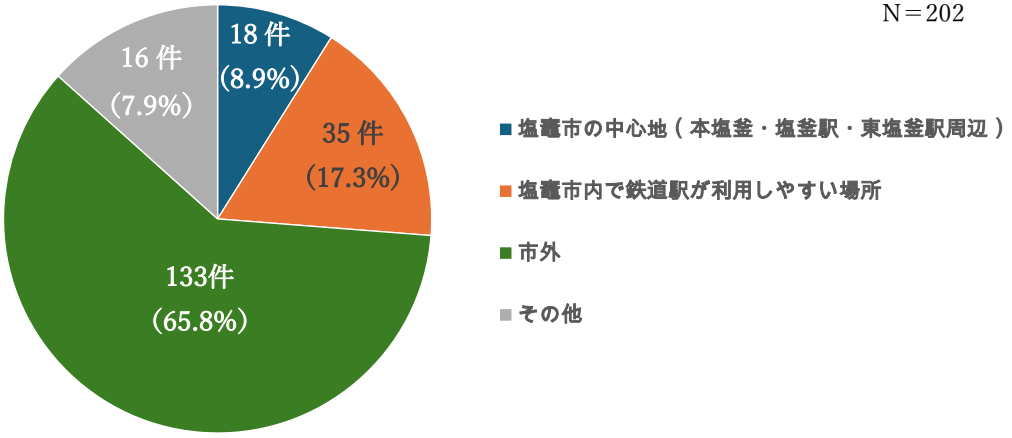
13-2)居住意向 × お住まいの地域



「現在住んでいる場所に住みたい」と回答した人が最も多かったのが、西部地域の 73.3%であり、「転居を考えている」との回答が多かったのが、東部地域の 22.2%でした。

新浜地域では「転居を希望しているが、転居できない」と回答した人の割合が 18.6%であり、他地域と比較しても非常に高い割合を示しています。。

14）転居希望先はどこですか？



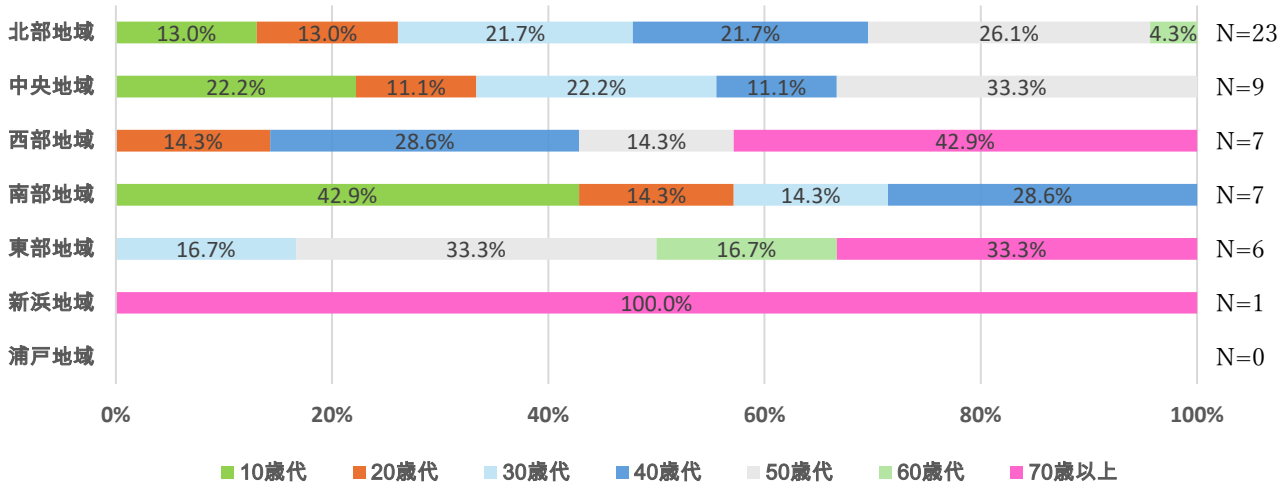
65.8%が「市外」への転居を希望しており、仙台市への転居を希望している回答が 42 件みられました。下表に「市外」「その他」の内訳を示します。

市外	N＝133 ・仙台市（42 件） ・多賀城市（19 件） ・利府町（12 件） ・名取市（2 件） ・大崎市 ・福島県郡山市 ・岩手県 ・岩手県一関市 ・関東（2 件） ・東京（5 件） ・千葉県 ・横浜市 ・愛知県稲沢市 ・愛知県名古屋市 ・関西（2 件） ・大阪府 ・京都府 ・自宅の後始末をして、家族と神奈川県で暮らす予定。 ・県外に行きたい ・海外（2 件） ・未定（4 件） ・未回答（36 件）
その他	N＝16 ・松陽台 ・塩竈市内の住宅地 ・住宅を購入予定。場所による。 ・静かで周りを気にせずに生きれるところ ・その時の自分の体の状態できめる ・子供の今と同じ学区内 ・高台への転居 ・将来、免許返納となれば車での移動はできなくなるため、同居するかは未定だが息子夫婦の住んでいる県外へ移住予定。鉄道があるので移動しやすい。 ・その時の状況で市外か市内 ・現在の自宅近く、もしくは、市外を検討 ・高齢者向け住宅などの年齢に応じた住まいであれば市内市外を問わない ・未定（5 件）

宮城県内への転居希望は全体の 55%にあたる 76 件あり、その半数以上の 42 件が仙台を希望しています。

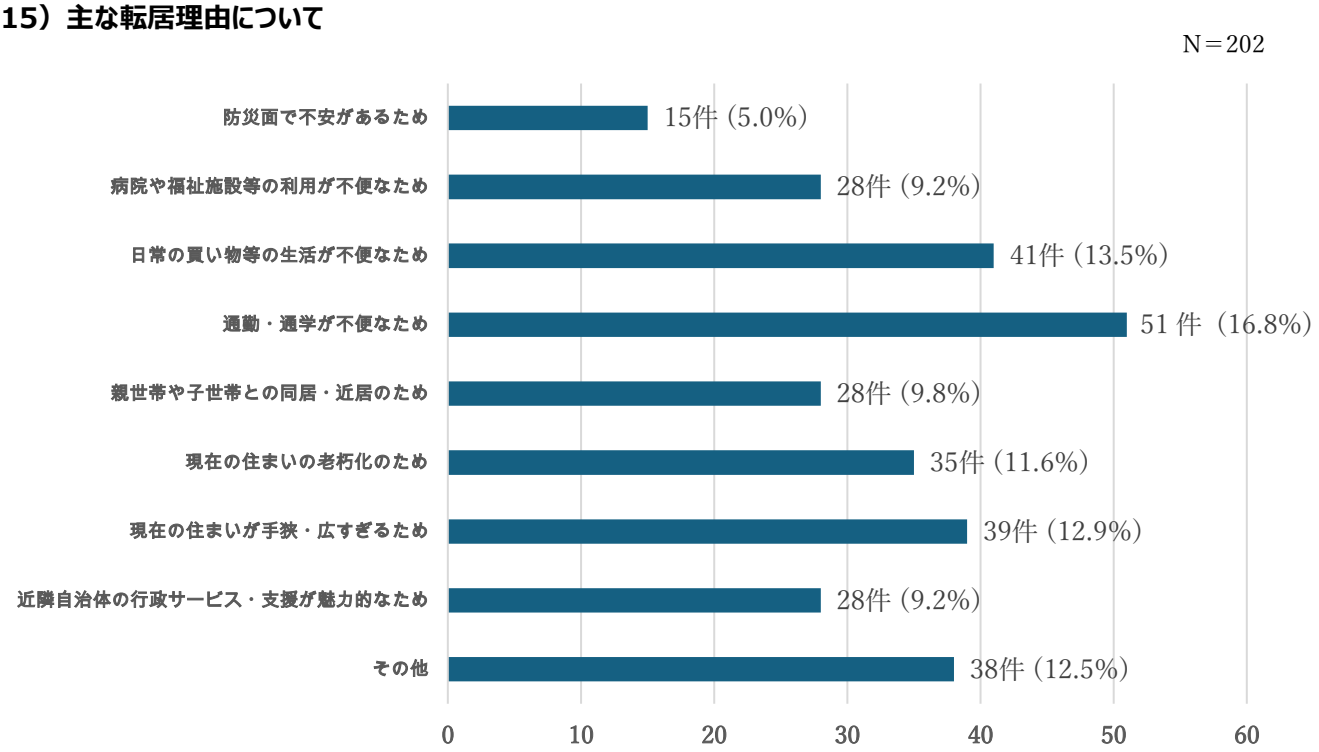
東北への転居希望が 3 件、関東が 10 件みられました

14-1）市内での転居希望者×お住まいの地域×年齢



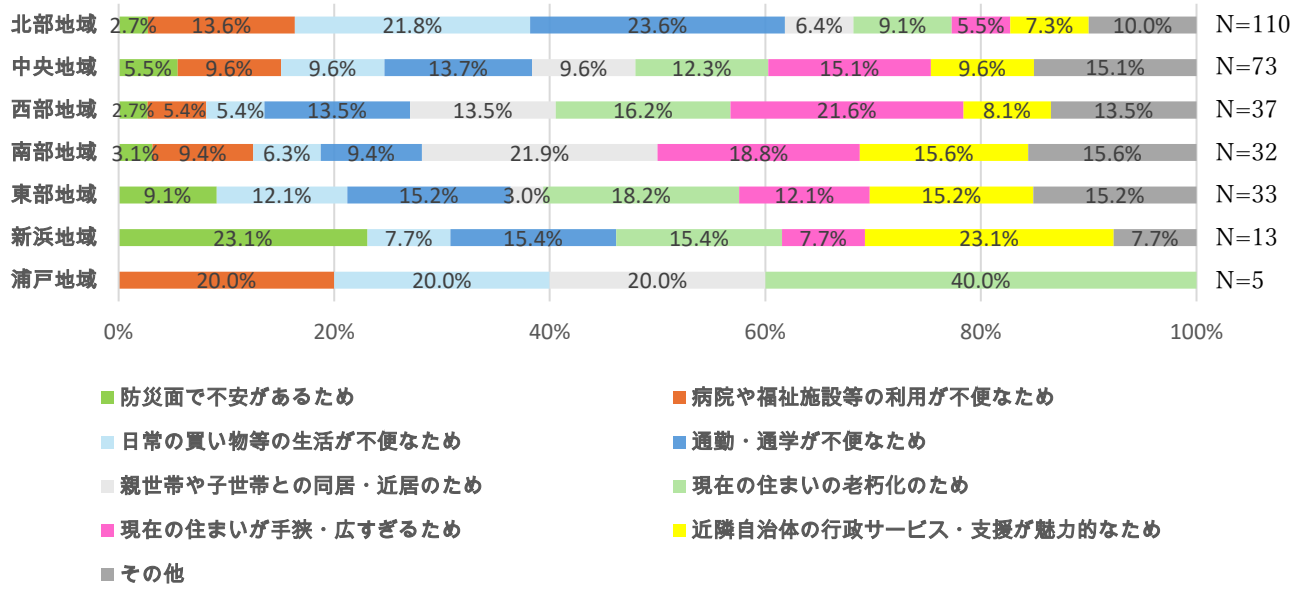
西部地域では「70 歳以上」の転居希望が 42.9%と最も多く、南部地域では、「10 歳代」の転居希望が 42.9%と最も多くなっています。

15）主な転居理由について



2 割を超える回答はなく、様々な転居理由が挙げられ、最も多いのは「通勤・通学が不便なため」の 51 件となっています。。

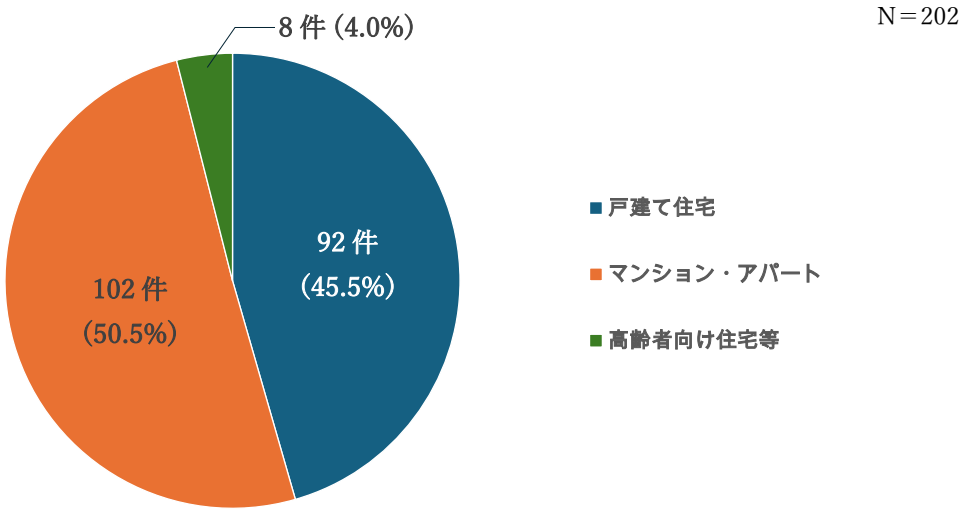
15-1）主な転居理由×お住まいの地域にについて



主な転居理由として、北部地域では「日常の買い物等の生活が不便なため」「通勤・通学が不便なため」を合わせると 45.4%と約半数を占め、新浜地域では「防災面で不安があるため」が他地域の 2 倍以上である 23.1%と最も多くなっています。また、浦戸地域では、「現在の住まいの老朽化のため」が 40.0%と最も多くなっています。

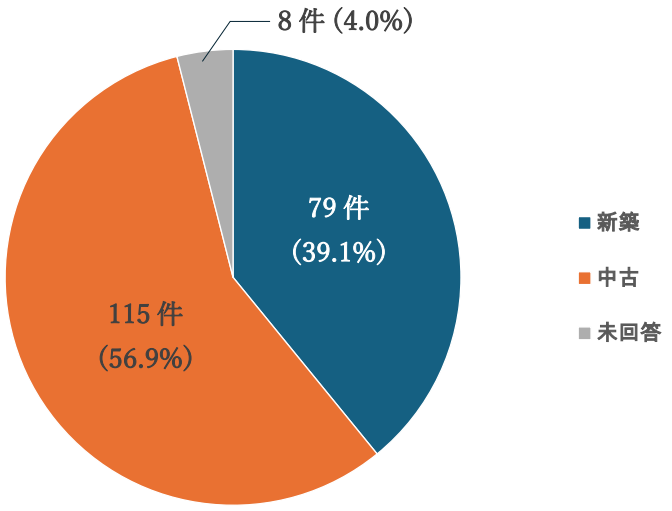
16）転居先の希望について

16-1）住宅の種類について



転居を希望している方の約半数が「マンション・アパート」を希望しています。高齢者向け住宅を希望する意見も 8 件寄せられています。

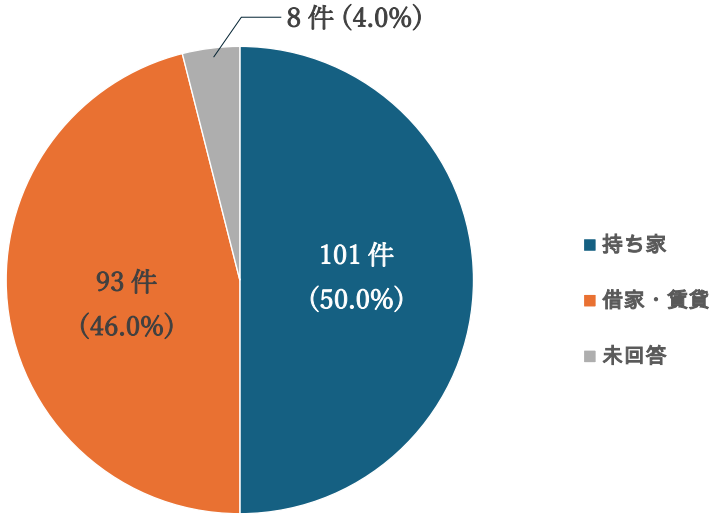
16-2) 住宅の状態について



N＝202

転居を希望している方の半数以上にあたる 56.9%が「中古」の物件を希望しています。

16-3) 所有形態について



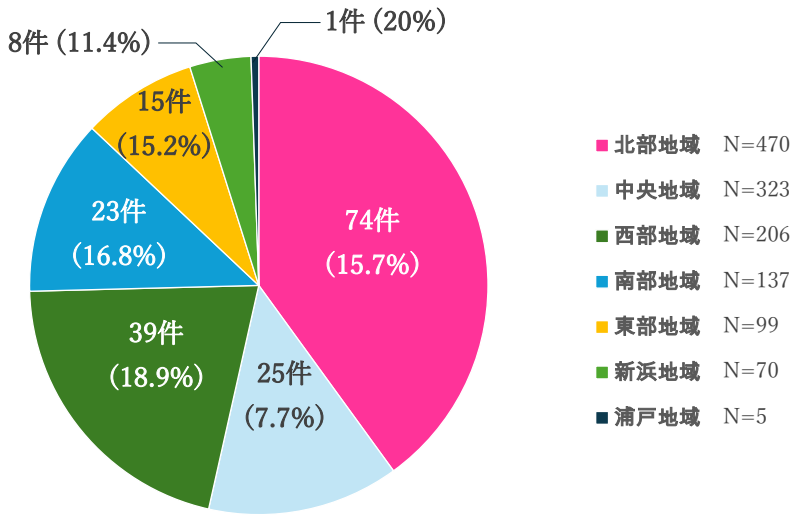
N＝202

転居を希望している方の半数にあたる 101 件が「持ち家」を希望しています。

16-4）空き家予備軍

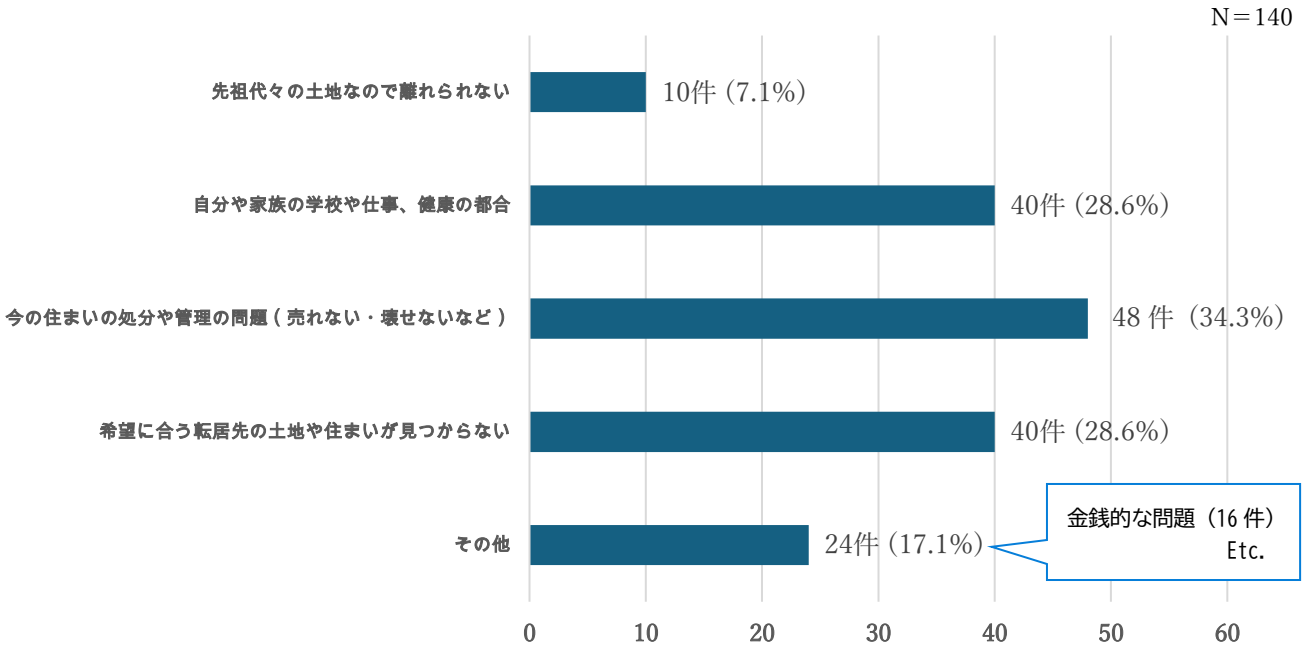
「65 歳以上の高齢者しか居住していない持ち家」※と定義される空家予備軍について分析しました。

※アンケートの設問上、60 歳以上かつ一人暮らし又は夫婦・パートナー世帯の持ち家で分類



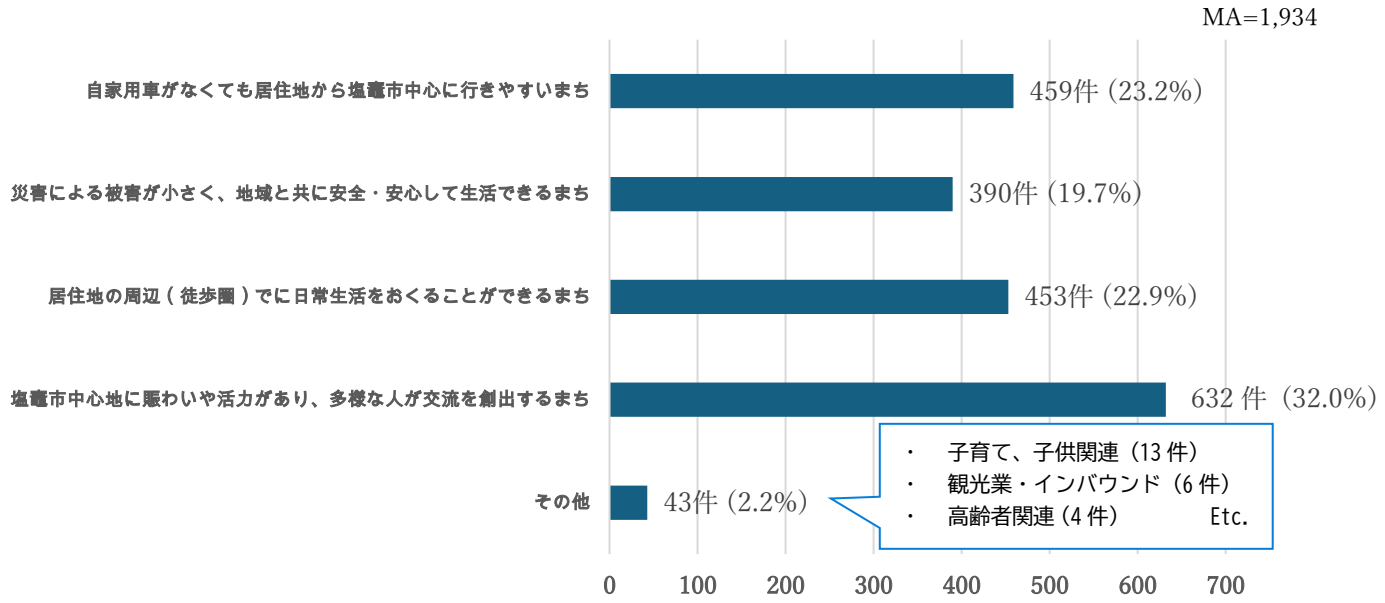
空き家予備軍は 1310 件中、185 件と 14.1%を占めており、各地域の回答者数を占める割合をみると「浦戸地域」が 20.0%と最も多く、次いで「西部地域」の 18.9%となっています。また、「中央地域」は 7.7%と唯一 10%を下回っている地域となっています。

17）転居できない理由は？



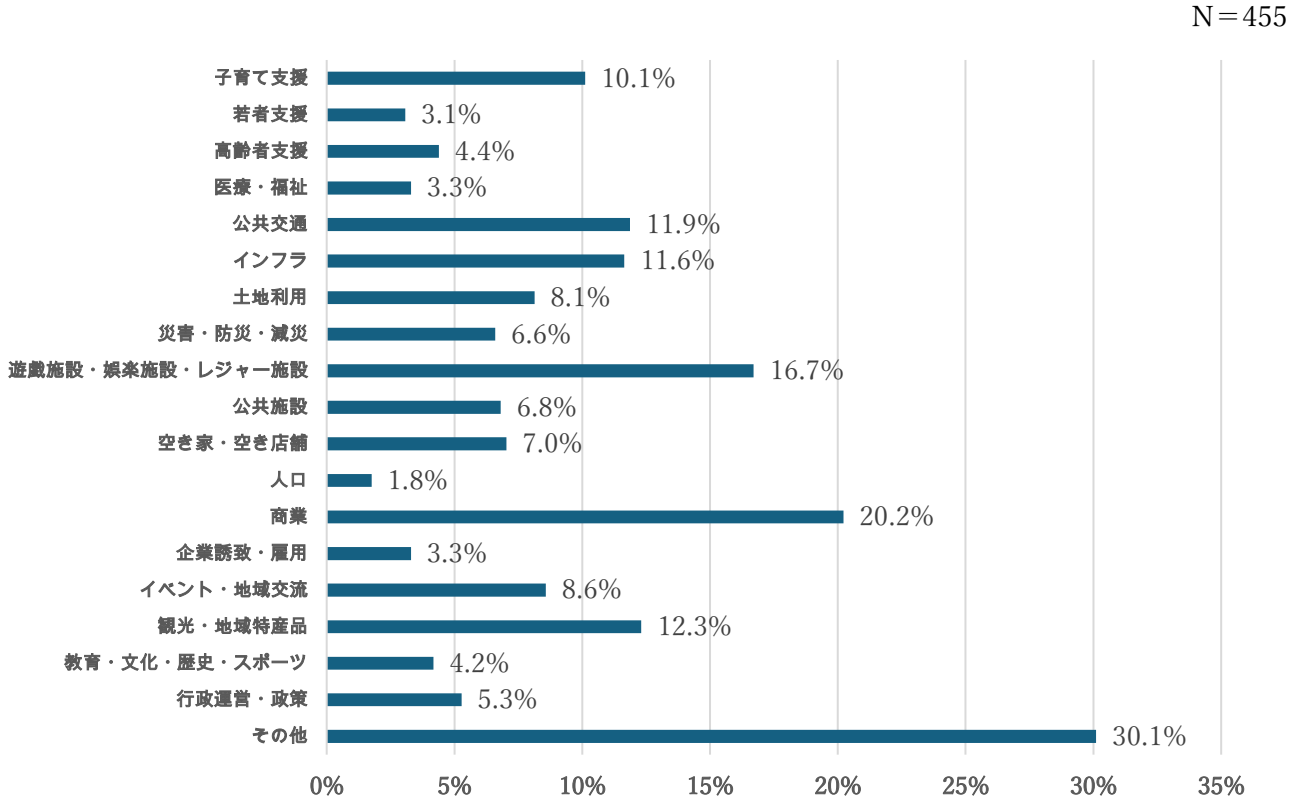
「今の住まいの処分や管理の問題（売れない・壊せないなど）」が 3 割強を占め、次いで、「希望に合う転居先の土地や住まいが見つからない」「自分や家族の学校や仕事、健康の都合」が共に 40 件となっています。

18）将来の塩竈市をまちのカタチの考え方としてふさわしいものについて



3 割強が「塩竈市中心地に賑わいや活力があり、多様な人が交流を創出するまち」と回答し、他の項目は約 2 割と回答が分かれる結果となっています。

19）まちのカタチを実現するための意見･その他の意見について



455 件の自由意見が寄せられており、内容をもとに 22 分野に分析したところ「商業」と「遊戯施設・娯楽施設・レジャー施設」が多く、次いで「子育て支援」「公共交通」「インフラ」「観光・地域特産品」が横並びの結果となっています。

19-1）主な意見

【子育て支援】　計 46 件

●子育て世代の為公立の保育所を増やして欲しい。津波や洪水が来てもいい高台の所にあると不安要素が減っていい

●保育所やこども園が街の中心部にあり、子育て世帯がより移住しやすいような取り組みを推進してほしい。例えば、送迎バスを完備して遠方からでも通わせやすいと整備の構築など。スーパーに隣接しており、預かり保育も出来るような施設だとよい。また、街の中心部付近に、みんなが集えるような広い空間が欲しい。週末にイベントをやることや、バザーの開催などが定期的に出来るようなコミュニティ広場などがあると良い。特に子育て世代では近所に遊べる公園がなく歩いて過ごすと言うには、こうした設備が少ない。中心にこそ樹木や広場をつくるべきだと思う。

●こどもを安心安全に育てられる町になってほしい。現在は、こどもを通わせたいと思う病院がなく、通院の際は市外の小児科に行っている。近くにかかりつけ医となる良い病院がほしい。

●屋内の遊具がある施設の充実や、市内にある地域の公園の遊具の整備など子どもがのびのびと遊べる環境作りを推進してもらえると、子育て世代も住みやすい町になり、活気も出てくるのではないかと思います。

●現在塩竈は小児科だけの医院がない。市立病院には併設さているが、午後からの診療時間が短かったり、土曜日休診と、子供を無視しているのでは…これでは若い世代が居住したいとおもわないのでは

●子育て、教育に力を入れてほしい。高齢者が多いことを活かして交流することで相互に良い効果がもてる継続的な事業があってもよいのではないか。

【若者支援】　計 14 件

●イオン塩釜の規模を大きく店舗、カフェとか若い世代が来たくなる街にして欲しい。

●若者向けの店舗が少なすぎるので若者が市外に出てしまうのは当たり前だと思う。若者（若者といっても子育て世代）が行きたいと思うようなお店などがないとダメだと思う。イオンをリニューアルしてほしい。上杉イオンのように子育て世代向けにリニューアルできないものか？今はシニアの集いの場になってしまっている。

●次世代の子供達がここに住みたいと思える活気が有り働く場所が有り社会的インフラが十分に充実している様に

【高齢者支援】　計 20 件

●高齢者が多いので高齢者に優しい街づくりも進めて行った方がいいのかなと思いました。買い物のお手伝いサポートなど。

●高齢者が運転しなくてもいいようにタクシー会社と提携して 30 回綴りなどのタクシー券を配布するなど、免許証返納の気持ちになりやすい対策を考えてほしい。出来れば、何歳以上と対象年齢も設けてもらえれば自覚しやすいと思う。実際自分の親も高齢者だが、いくら言っても返納せず、といって、自分も仕事をしているので送迎出来るわけでもないので強く言えないので大変困っている。

●震災後、ますます高齢化が進んでいる気がします。若い世帯の移住はもちろん大事ですが、昔から塩釜に住んでいる方々の支援についても考えて頂きたいと思っています。知人が浦戸諸島に住んでいますが、船着き場までの乗り合いの車がしばらく使えない期間が長くあり大変な思いをしていました。高齢な為、買い物、病院に行くのが不便との事です。生鮮食品含む移動販売などがあれば嬉しいと話していました。

●公園の整備、年寄りも運動できる器具のせいび。暑さ対策の木陰。医療費対策のためにも、高齢者が自発的に体力作りできる場所をつくって欲しい

【医療・福祉】　計 15 件

●医療と福祉サービスに不安を感じています。市立病院など公的施設の老朽化も気になります。

●不登校が増えている状況が心配です。学校だけでは対応が難しい場合があります。発達相談ができる小児科があるといいのではないかと思います。

●障害者に対する支援が少なすぎると感じます。息子が障害を得てからの作業療法や運動療法の通所施設が全くない。わずかに知的障害者を対象とした民間事業者の送迎車を見ます。市外に通わざるを得ません。生まれ育ったところなのに、いざ、高齢や障害といったハンデを負うと、非常に住みにくいところであると思います

●まずは総合病院の建て替え、医療の充実、子育て支援の充実。子供からお年寄りまで安心して暮らしていける街づくりを目指してほしいです。

【公共交通】　計 54 件

●仙台から塩釜駅に到着する時間帯と、塩釜駅から清水沢方面に向かう南回りのバスの発車時間が合わなすぎます。(例：電車の到着が〇時 33 分だとして、バスの発車時間が〇時 30 分。)私のように、仙台から塩釜について、バスで清水沢方面、ガス体育館方面まで行きたい方は沢山いると思います。ていうかいます。なので、バスの本数云々も大事ですが、なにより発車時間の見直しをした方が絶対にいいです。バス運行の本数も 1 時間に 1 本くらいだと思うので、せめて各駅の電車到着の時間にあわせて巡回した方が良いと思います。

●バスの本数が少なく利用しづらい。本数が増えれば利用したい。免許返納しやすい交通手段の整備。

●通勤時間帯の路線バス本数の充実(特に早朝、夜間帯の増便)

●バスについて、若者が通勤通学をするのに必要な本数走らせないと使わないと思う。1 時間に 1 本程度ではちょうどいいバスがないから親に送ってもらう人は多い。若いうちからバスに乗らないと大きくなってもバスに乗る選択肢は生まれない。不便という印象しかないと車を持つようになるし、車を持ってしまえばバスには乗らない。利便性を高める必要がある。

●塩竈市は、坂道の多い町なので、高齢者でも生活しやすい循環バスの更なる充実を願いたい。仙台市のような高齢者バスなどあったら、良いのではないかと思います。

【インフラ】　計 53 件

●国道４５号の交通量緩和のためのインフラの整備（塩釜港に橋を建造し、バイパス機能を持たせる。道の駅を誘致する。など）

●道路が狭すぎるための整備、歩道の整備段差があったり、舗装が切れていたり高齢者にとっては命取りになる場合もある

●道が狭く、車一台通るのがやっとであり、電柱が飛び出している道路の整備をしてほしい。

●変則的な交差点、わかりにくい道路状況と見えない標識等を無くす

●街灯も暗いし少し裏に入ればほとんど暗くて出歩けない。道路も見える所だけしか直してないからもっと裏側にも力を入れてほしい。

●大通り以外の道路の整備と冠水対策を行い住みやすい町を作ってほしい。

【土地利用】　計 37 件

●現在の中心市街地は無秩序な状態に近い。中心市街地のさらなる集約化を図ると同時に、用途地域内の都市設計上の建築物の用途集約等の制限を設けるべき

●本塩釜駅から塩釜神社までの道周辺に、観光スポットや休憩できる場所、子どもが遊べる場所、駐車場などをまとめ、観光しやすいコンパクトな街にして、市の活性化が図れるのではないかと思います。魅力的なお店があちこちに散らばっていて、しかも、駐車場がないなどで、行きづらいというのをなくなれば、人が集まりやすいかなと思う。

●区画の整理を行ってほしい。狭い道が多過ぎる。昭和初期に建てられたような古い家がある場所は下水の匂いが酷い。

【災害・防災・減災】　計 30 件

●津波や水害時の避難所までの経路について、海抜が低く浸水の恐れがある地区を通らざるを得ない点について心配です。特に旅行者など土地勘のない人への配慮も大切かなと感じています。

●水害に弱い印象がある。雨水ポンプの整備や減災の推進をしていただきたい。

●山エリアでの避難場所もしくは集まれる場所、施設の新設

●防災放送がこだまして、何を言っているのか不明です。本当の緊急時にはこの状況では、役に立たないでしょう。

【遊戯施設・娯楽施設・レジャー施設】　計 76 件

●子供たち安心して遊べる場所過ごせる場所が欲しいです、小学生になり「行っておいで」と言える公園や室内遊び場など子供たちの足で行ける場所がありません。

●マリンゲート塩釜をもっと活用した方がいいと思う。

●アミューズメント系がない子供を遊ばせるには市外に頼るしかない若い世代は離れてしまうのでは?

●せっかく海に面した地形なのにマリンレジャーに乏しい

【公共施設】　計 31 件

●市役所の建替えを早期に実現して現在分散している庁舎の一元化し、市職員が生き生きと活躍できる環境を整える。

●人口減少社会なので、公共の建物や施設をただ増やせば、維持管理費用も発生するのでハード面に頼りすぎない町づくりがよいと思います

●子どもの数が減っているため小中学校等教育施設の整備が必要だと思う。

【空き家・空き店舗】　計 32 件

●放置空き家問題の条例化、行政代執行が出来る様になれば良いと感じる。景観が悪いから。

●塩釜市を活性化しようという行動力が乏しい気がする。閉まったままのお店や荒地が多く、貧しい街に見える。壱番館などもお店が撤退し、活性化に向けての到着点、どこに向かっているかが見えない。

●空き家対策。手付かずの空き家を整地し、新しい街づくりに利用する。元町商店街の空き店舗の再利用化。かつての賑わいをまた見てみたい。

●空き家が多いのが目立つので外から人が入ってきてくれるような仕組みを作った方がいいと思う。せっかく駅が三つもあるのに周辺はなにも賑わっていなくて残念本塩釜も西塩釜も古びた建物に空き物件ばかりで活用できてなくて残念だと思う。

【教育・文化・歴史・スポーツ】　計 19 件

●教育に対する投資が疎かすぎることを懸念しています。周辺都市と比較しても子供の質が明らかに低下していませんか。授業が成り立たない学校もあると聞いており、先生方が塩竈市を避けたがっていると書きます。子供への投資は未来に繋がります。このままでは未来の本市の更なる衰退は明白です。経済合理性だけでは語れないのが教育ではないでしょうか。安易な経済合理性だけでまちづくりを進めていませんか。市民が誇れる街にするには教育への適切な投資が不可欠と考えます。

●塩釜には古い建物等あるので、歴史や背景などに触れられる機会が増えると良いかなと思います（チラシを貼る、博物館で紹介する等）

●塩竈には海や森があるので小さな子どもたちでも気軽に自然に触れられる環境があると良いです。例えば、コンパクトで良いので自然や科学へアプローチできる博物館やビジターセンターなどの施設があれば、利用した子どもたちの学問へ関心が高まり、学力向上にも繋がるのではないかと思います。

【商業】　計 92 件

●国道沿道や街なかも家族や友人と気軽に飲食する場所が少なく結局他市へと足伸ばす

●鹽竈神社近辺の賑わいを望みます。駅前が、寂しすぎます。テナントが何も入っていないビルは、観光客に恥ずかしい。

●ファミリー層が気軽に楽しめる商業施設の充実、他市と比較して圧倒的に少ないため活気がないと感じられる

●個人商店を守る、続けていける支援や対策をしてほしい。街の賑わいにも関わってくるため。

●お土産屋やお茶する所が無い門前は残念過ぎる。あと駅周辺に時間待ち出来るような喫茶店も無いのが残念。地方から来た知人も言っていました。

●駅前に飲食店などが少なく活気がないので、駅前に活気が欲しい。塩釜神社周辺にもお土産や茶屋などがあったら楽しい。直会横丁をもっと活用した方が良いと思う。本町も空きテナントなどのテナント料を少し補助をして若者のチャレンジ店などをしたら楽しいと思う。

●北浜や新浜など港の利点を活かした飲食店・カフェ・娯楽施設(海が見える本屋、海の近くの銭湯など)があれば、中心地に行きたいと思います。

●道の駅を作って欲しい。

【イベント・地域交流】　計 39 件

●塩竈はイベントの多い街に思うが、情報が乏しく、人が集まりにくいと思う。塩竈でしか出来ないイベントをより増やして欲しい。

●昔から続いてきたイベント、祭りが大事なのは分かるが行きたいと思うものが無い。同時に新しいイベントもやっていくと若者にも興味を持ってもらえると思う。花火大会は子ども向けの縁日、催しが多くがっかりし、市の習い事は土日に行っているものが少なく、塩釜市はターゲットがお年寄りと子どものイベントが多い印象。移住したいと思ってもらえるような魅力があまり無いと感じている。

●塩竈市で交流できる行事などをひらく

●集会所は無料で開放し、住民同士の交流が盛んに行われ、お互いが助け合いながら生活していける町にしたい。隣の人の名前もわからないような孤立した毎日の生活は張り合いがない

【観光・地域特産品】　計 56 件

●マリゲートをうみの駅として、仙台駅構内の寿司街道のようなものや、塩竈でしかできない、味わえないものを置いてほしい。観光地塩竈として、観光地ポイントを紹介するだけではなく、いくつかのモデルコースを提案する等(徒歩コース、バスで巡るコース、船コースなど)歴史とみなとまちをもっともっとアピールして、活性化させたい。

●伊勢神宮のおかげ横丁のような街づくりを希望します。塩竈様の麓に酒蔵や歴史的建造物など魅力ある通りだと私は思います。塩釜駅からお参りや船で観光もできるし 1 日を満喫できる街になると私は思います。昔から松島までの通り道なんて言われているなら松島までの休憩ポイントでも良いかと考えます。

●賑わいある商店、観光客向け大型奥州道の駅など

●ふるさと納税、塩釜市特産物がたくさんあるのでそちらで財源を取ったらいいのではないでしょうか。返礼品に寿司券や蒲鉾、海鮮物(ひがしもの)などたくさんあると思います

●基幹産業をどこに置くのかの検討をし直すところから始めるべき。水産業はこのままでは衰退の一途は間違い。養殖牡蠣、海苔などを異常気象でも養殖可能なものに改良する。

【企業誘致・雇用】　計 15 件

●働くところの創造と健全な雇用体制の確立、　収入が得られない所に支出は無く経済の循環の仕組みと体制がないと町は発展しないし若い人が増えない。若い人がちゃんと働く事ができるところがあって街が発展するのが基本だと思う

●持続可能な社会を目指すには、国の補助だけに頼らない財源の確保も不可欠と考えます。全市民がいきいき働くことのできる雇用を生み出すことも塩竈市のまちのカタチを実現させる一歩だと考えます。

●緑地公園を活かし海の見えるカフェなどの誘致し雇用と観光による賑わいの創出

【人口】　計 8 件

●コンパクトな街であることが塩釜の良いところ。車を利用しなくても買い物や用事が済むような施設や立地をより徹底すれば、極端な人口減少は回避出きる街だと感じる。

●市役所の職員を若者中心に。若い職員が意見しやすく企画を実行しやすい環境作り。大手企業の誘致で税収アップ。市民税減税、子育てしやすい環境作りで子育て世代をサポートし人口増加を目指す。

【行政運営・政策】　計 24 件

●役所、地域、団体、事業所などの連携が必要。コーデネートと実行を少しずつでも前に進めることが大事。

●今後のまちの方向性をシンプルにわかりやすく表現した計画にしてほしい。そのうえで、最初だけでなく継続的に周知を行い、どの程度実現できたかを住民にわかりやすく伝えてほしい。

●何度か市民に町づくりの講演と意見を聞く場を設ける。

【その他】　計 137 件

●利府、多賀城と違う塩釜らしいまちづくり

●生活する上で抱えるさまざまな問題、課題を解決するために、当事者である市民自身が取り組めるような、市民活動へのサポート体制を整えること。

●市道の冬季除雪範囲を広げることと早めの融雪剤散布。

●ゴミ捨て場の充実

●塩竈市子育て・三世代同居近居住宅取得支援事業について市外からの転居者より市内居者を対象としてもらいたい。

●市内の学校などの中古販売ショップなどを作って貰いたいです。学校用品かなり費用がかかります。学校用品のリユースを強く希望します。

●地産地消して産業を振興すべきか、十分に検討して欲しいです。塩竈市の良いところ(風情、景観、行事など)を保全して、未来に遺して欲しいです。

●雑木林を整備してほしい。スズメバチが飛んでるし、害虫が多すぎる。

●立派な神社があるんですから、限定御朱印をやってください。季節行事、月の御朱印、切り絵御朱印、雨の日御朱印などなど、塩釜神社だけではなく、塩釜の御朱印マップなど作成して。お願いします。

塩竈市まちづくりアンケート

分野１．あなたの属性について、おうかがいします。

問１．性別について

□男性　□女性　□その他・回答しない

問２．年齢について

□１０歳代　□２０歳代　□３０歳代　□４０歳代
□５０歳代　□６０歳代　□７０歳以上

問３．ご職業について

□会社員・公務員　□自営業（農林水産業）　□自営業（農林水産業以外）
□パート・アルバイト　□専業主婦（夫）　□学生　□無職
□その他（　　）

問４．居住地域について

□中央地域　□東部地域　□南部地域　□西部地域
□北部地域　□新浜地域　□浦戸地域

問５．家族構成について

□一人暮らし　□夫婦・パートナーのみ　□二世帯世代（親と子）
□三世代世帯（親と子と孫）またはそれ以上
□その他（　　）

問６．塩竈市の居住歴について

□生まれた時から塩竈市に住んでいる
□塩竈市に転入して２０年以上経っている
□東日本大震災（２０１１年）以前に転入
□東日本大震災後～新型コロナ前（２０１１～２０２０年）に転入
□新型コロナ以降に転入（２０２０年～）

問７．お住まいについて

□戸建住宅（持ち家）　□戸建住宅（借家）
□分譲マンション（持ち家）　□アパート・マンション（賃貸）
□公営住宅　□社宅・寮・官舎
□その他（　　）

分野２．施設の利用状況・移動方法についておうかがいします。

問８．（１）～（１４）施設や利用状況や移動方法について

（１）食料品店舗（スーパー等）

＜利用頻度について＞
□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度
□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞
□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞
□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー
□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（２）日用品店舗（ドラックストア等）

＜利用頻度について＞
□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度
□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞
□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞
□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー
□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（３）コンビニエンスストア

＜利用頻度について＞
□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度
□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞
□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞
□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー
□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（４）ショッピングセンター・デパート（百貨店）

＜利用頻度について＞
□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度
□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞
□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞
□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー
□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（５）電気製品・家具や趣味の専門店（ホームセンター等）

＜利用頻度について＞

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞

□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞

□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー

□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（６）飲食店

＜利用頻度について＞

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞

□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞

□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー

□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（７）銀行・郵便局等

＜利用頻度について＞

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞

□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞

□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー

□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（８）総合病院

＜利用頻度について＞

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞

□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞

□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー

□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（９）医院（クリニック）・診療所

＜利用頻度について＞

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞

□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞

□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー

□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（１０）幼稚園・保育園・認定こども園

＜利用頻度について＞

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞

□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞

□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー

□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（１１）市役所

＜利用頻度について＞

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用施設までの移動方法について＞

□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー

□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（１２）公民館・図書館・文化ホール等の社会教育施設

＜利用頻度について＞

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞

□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞

□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー

□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（１３）体育館・運動場等のスポーツ施設

＜利用頻度について＞

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞

□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞

□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー

□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

（１４）保健センター等の保健・福祉施設

＜利用頻度について＞

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

＜利用場所について＞

□市内　□市外

＜利用施設までの移動方法について＞

□徒歩のみ　□自転車　□自家用車（自身で運転）　□バス・タクシー

□鉄道　□塩竈市営汽船　□その他（　　）

問９．塩竈市内の中心地（本塩釜・塩釜駅・東塩釜駅周辺）に欲しい施設について（３つまで）

□食料品店舗（スーパー等）　□日用品店舗（ドラックストア等）

□コンビニエンスストア　□ショッピングセンター・デパート

□電気製品・家具や趣味等の専門店　□飲食店

□銀行・郵便局等　□総合病院

□医院（クリニック）・診療所　□幼稚園・保育園・認定こども園

□市役所　□公民館・図書館・文化ホール等の教育施設

□体育館・運動場等のスポーツ施設　□保健センター等の保健・福祉施設

□公園・広場等　□小・中学校

□子育て支援施設・屋内遊戯施設

問１０．歩いて行ける場所に欲しい施設について（３つまで）

□食料品店舗（スーパー等）　□日用品店舗（ドラックストア等）

□コンビニエンスストア　□ショッピングセンター・デパート

□電気製品・家具や趣味等の専門店　□飲食店

□銀行・郵便局等　□総合病院

□医院（クリニック）・診療所　□幼稚園・保育園・認定こども園

□市役所　□公民館・図書館・文化ホール等の教育施設

□体育館・運動場等のスポーツ施設　□保健センター等の保健・福祉施設

□小・中学校　□子育て支援施設・屋内遊戯施設

問１１．歩いて行ける場所の想定距離について

□５分未満（400m程度）　□５～１０分未満（600m程度）

□１０～１５分未満（1ｋm程度）　□１５分～２０分未満（1.5ｋm程度）

□２０分以上（1.5ｋm以上）

問１２．普段、利用する交通手段について（通勤・通学を含む）

（１）鉄道

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

（２）ミヤコーバス

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

（３）しおナビバス

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

（４）NEW しおナビバス

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

（５）塩竈市営汽船

□１週間に１回以上　□１か月に２～３回程度　□１か月に１回程度

□２～３か月に１回以下　□全く利用しない

問１３．自宅から最寄りの駅までの交通手段について

□徒歩　□自転車

□ミヤコーバス　□しおナビバス

□NEW しおナビバス　□塩竈市営汽船

□自転車（自分で運転）　□自動車（送迎）

□タクシー　□バイク

□その他（　　）

問１４．鉄道やバスを利用しやすくする対策について

□利用しやすい運行本数

□のりかえしやすいダイヤの設定

□バスルート・停留所の変更、増設

□乗合タクシーの導入

□駅・バス停や車両のバリアフリー化・利用環境整備

□駅・バス停周辺の駐車場・駐輪場の整備

□運賃の値下げ

□利用方法の周知・乗り方教室等の開催

□その他（　　）

分野３．あなたの住まいの安全性について、おうかがいします。

問１５．塩竈市で発行する「防災ガイドブック」について



□内容をよく理解している
□ある程度理解している
□わからない・持っていない
□その他（　　）

問１６．お住まいの災害ハザードエリアの該当状況について

（１）津波浸水想定区域
□区域内　□区域外　□わからない

（２）洪水浸水想定区域
□区域内　□区域外　□わからない

（３）土砂浸水想定区域
□区域内　□区域外　□わからない

問１７．指定避難所までの移動手段について（原則は徒歩避難）

□徒歩での移動が可能
□自家用車での移動が必要（足腰が不自由等のやむを得ない場合）
□自力での避難は困難
□指定避難場所が分からない
□その他（　　）

問１８．災害被害を減らすために、どのような対策が必要であるかについて

□海岸・斜面等の防災対策、市街地における防災対策の推進
□災害リスクの高いエリアでの新たな開発の抑制
□避難所となる公共施設の防災対策の推進
□ご自宅の防災対策への支援
□地域コミュニティの防災力向上
□高齢者・要配慮者の個別避難計画作成の推進
□防災情報の積極的な提供、ハザードマップの充実
□自助・共助・互助等の防災知識の普及
□その他（　　）

分野４．これからの居住意向について、おうかがいします。

問１９．これから概ね２０年ごろまでのお住まいについて

□現在住んでいる場所に住みたい
□転居を考えている
□転居を希望しているが、転居できない
□その他（　　）

問２０．【問１９で「転居を考えている」と回答した方のみ】転居希望先はどこですか？

□塩竈市の中心地（本塩釜・塩釜駅・東塩釜駅周辺）
□塩竈市内で鉄道駅が利用しやすい場所
□市外（市町村：　　）
□その他（　　）

問２１．【問１９で「転居を考えている」と回答した方のみ】主な転居理由について

□通勤・通学は不便なため　□現在の住まいが手狭・広すぎるため
□現在の住まいの老朽化のため　□日常の買い物等の生活が不便なため
□病院や福祉施設等の利用が不便なため　□防災面で不安があるため
□親世帯や子世帯との同居・近居のため
□近隣自治体の行政サービス・支援が魅力的なため
□その他（　　）

問２２．【問１９で「転居を考えている」と回答した方のみ】転居先の希望について

（１）住宅の種類について
□戸建て住宅　□マンション・アパート　□高齢者向け住宅等→回答後問２４へ

（２）住宅の状態について
□新築　□中古

（３）所有形態について
□持ち家　□借家・賃貸

問２３．【問１９で「転居を希望しているが、転居できない」と回答した方のみ】転居できない理由は？

□自分や家族の学校や仕事、健康の都合
□今の住まいの処分や管理の問題（売れない・壊せないなど）
□先祖代々の土地なので離れられない
□希望に合う転居先の土地や住まいが見つからない
□その他（　　）

問２４．将来の塩竈市をまちのカタチの考え方として相応しいものについて

□塩竈市中心地に賑わいや活力があり、多様な人が交流を創出するまち
□自家用車がなくても居住地から塩竈市中心地へ行きやすいまち
□居住地の周辺（徒歩圏）で日常生活をおくることができるまち
□災害による被害が小さく、地域と共に安全・安心して生活できるまち
□その他（　　）

問２５．まちのカタチを実現するための意見・その他の意見について（自由記述）

本アンケート調査は、左下の QR コードまたは塩竈市ホームページからアンケートフォームにアクセスすることで WEB 上での回答も可能です。

＜回答 QR＞

＜問い合わせ先＞
塩竈市役所　産業建設部　まちづくり・建築課　都市計画係
〒985-0052　宮城県塩竈市本町１番１号
電話　022-364-2510　FAX　022-362-7249